



連続フォーラム「**チョコリときもの**」  
～在日の教育と進路～

財団法人京都市国際交流協会

耳塚（鼻塚）の供養塔（京都市東山区）：

文禄・慶長の役、豊臣秀吉の朝鮮出兵（1592年～1598年）時、戦功の証として朝鮮の兵士の耳や鼻を討ち取り、持ち帰ったものを葬った耳塚（鼻塚）の供養塔。

## はじめに — 「在日の教育と進路」を終えて —

第十四回目をかぞえる今年のテーマは標記のようであった。

人は、だれでも幼少期から青年期にかけてどのような教育を受けたか、によってその後の人生コースが大きく影響を受ける。

その選択はいうまでもなく、親がかかわっている。だが成人のころになると本人の意思が強くかわる。だが在日コリアンの場合、本人が在日である、ということがその選択肢にもうひとつの枠組みとなつて加わる。日本人が経験しえない、しかも在日であることをプラスに転化することを求めてみずから運命をきりひらかねばならない。

第一回目は、日本の学校で教えている、また教えた経験がある先生（非常勤講師・課外活動講師を含む）に日本の学校で学んでいる在日の子ども、そして、日本人や在日の子どもと在日の教師のかかわりなどを話していただいた。

第二回は、わが子の進路に日本の学校を選ばなかった親と、民族学校で学んだ生徒の体験を語ってもらった。第三回目は、もうすっかり成人され、また、社会生活の経験も長い在日の方の過去の日本の学校での「在日体験」を語ってもらい、そのことがその後の人生にどのような影響を与えきたか、を率直に述べてもらった。

そして最終回は、日本社会からとびだしてソウルの大学へ進学、そして日本へ戻つて社会人生活を送っている方々のお話を聞いた。いずれも貴重な体験談話で会った。

日本人が圧倒的多数を占めている日本の社会で、このような学校、教育の現場が現実存在し、また、その中で今回のような九人の方々のそれぞれ異なった体験をお持ちであること自体が日本社会が多様性に富んでいることを物語っている。読者はこのようなお話からどんなことを学んでいただけるだろうか。その学びからく

み取れるものは少なくない筈である。

京都造形芸術大学客員教授

仲尾 宏

目次

「チヨゴリときもの」　　↳在日の教育と進路↳

第一回 「日本の学校現場から」 …………… 5

第二回 「日本の学校を選択しなかった私と私の子どもの場合」 …………… 47

第三回 「私の子どもころー在日の子どもと日本の学校ー」 …………… 81

第四回 「日本の外から見た日本の学校と民族的マイノリティ  
ー日本社会から飛び出した在日コリアンー」 …………… 119



# 第一回 「日本の学校現場から」

パネリスト

康 玲子氏 (在日二・五世)

襄 梨花氏 (在日二世)

宋 実成氏 (在日三世)

コーディネーター

仲尾 宏氏 (京都造形芸術大学客員教授)

二〇〇七年二月一六日 (金) 実施



司会 只今より京都市国際交流会館、連続フォーラム、「チヨゴリときもの」を開催致します。この「チヨゴリときもの」は、お隣に住んでいる在日韓国・朝鮮人の方のお話を聴きましようということで、そういう趣旨で始めまして、今年で十四年目を迎えております。皆様のお手元の資料の中に、十四年間の歩みを書いた資料がございます。また、今までさまざまな資料を書いていますので、また見ておいて下さい。あともう一枚資料としまして、ご意見、ご質問用紙があると思います。この用紙には、パネリストの皆さまのお話を聴いて、ご意見、ご質問があれば、ここに記入いただきまして、この前に箱を置いておきますので、その箱に入れて下さい。そのご意見を回収しまして、それを元にしまして第二部の質疑応答に移りたいと思います。

十四年目を迎えます今年は、今話題になっていく教育のところに目を向けてみました。第一回目の今日は、「日本の学校現場から」というテーマを設けております。それでは、本日の出演者の方をご紹介致します。

まず、第一回目からコーディネーターをお願いしております、仲尾宏先生です。パネリストの皆さまは、今日は三人おられます。まず、お一人目が、カン・ヨンジャ先生です。もう一人がベエ・イファ先生です。



ペエ先生 アンニョン・ハセヨ。

司会 そして三人目の方が、ソン・シルソン先生です。

ソン先生 アンニョン・ハシムニカ。こんにちは。

司会 以上です。第一部において、パネリストの皆さまのお話を聴いた後、二部に、質疑応答にうつりたいと思います。それでは、先生、宜しくお願いします。



仲尾 宏氏

仲尾先生 本日はお忙しいところお集まり頂いてありがとうございます。第一回目ですが、もうこの部屋、入りきらないくらいの方のたくさんの方に来ていただいて、大変嬉しく思います。今年、司会の鄭昌根(チヨン チャンゲン)さんから、在日の教育と進路、というテーマで今年はやってみようじゃないか、ということと相談を受けました。今日はその第一回目ですが、日本の学校現場から、というテーマに致しました。お話をいただくのはいずれも、在日韓国・朝鮮人の方々ですけれども、その方々が日本の学校で教えておられる、そのことから、在日の子どもたちとどのような関わり方があるか、ということが一つ、もう一つは、そうは言ってもほとんどが日本人の子どもを教えておられます。ですから、そういった日本人の子どもとの関わりの中で、在日の先生という立場からどんなことが見えてくるのか。主にその二つの事がテーマになると思いますが、それぞれのお立場のなかでお話をいただきたいと思えます。

今、お手元の資料の中に、年表がございます。在日韓国・朝鮮人関係略年表というのがあります。これは、

私が、「Q&A、在日韓国・朝鮮人の基礎知識」という本を書きまして、その巻末にこの年表をつくりました。簡単なものですが、それを持ってきております。その裏側の頁になりますが、一九九一年です。日韓外相覚書調印と書いてある欄ですが、その二行目に、公立学校は教諭を認めず、常勤講師となる、と書いています。これは、外国籍の方が、公立学校の先生になれるかどうか、戦後長らく、なれて当然ではないかという運動があったり、旧文部省で、それを否定するような動きがあったり、いろんなことがありましたけれども、この年に、教諭ではなくて常勤講師として受験し、採用することが可能だという道が開かれました。教諭とどう違うかといいますと、教諭の場合は、希望により昇進して、教頭、校長、という管理職に進むことができますが、常勤講師の場合はそれができない、という違いがあります。あとの待遇、例えば給料その他については、同一にすると、こんな制度ができました。この結果、京都市でも何名かの在日韓国・朝鮮人の先生が、常勤講師として今も仕事をしておられます。今日は三人の方に来ていただいたのですが、この三人の方々はいずれも、この一九九一年に認められた常勤講師ではございません。それぞれのお立場で学校の現場に関わっておられるわけですが、いずれも特例といえますか、特別なかたちで、また別の採用基準で現場に立たれているという方であります。そのことの経過は、ご本人の自己紹介の中でお話いただくことになりました。

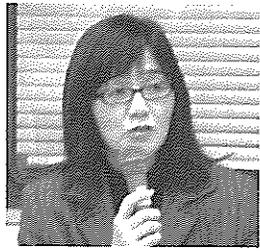
最初にお話いただくカン・ヨンジャ先生は、小学校の非常勤講師としてかなりの時間を今持つておられます。それから二番目のベエ・イファ先生は、非常勤講師ではなくて、いろんな小学校、中学校で、国際クラブ、或いは、国際理解クラブというような課外活動がごございます。そういうところの経験を数多く積んでおられることと、それから今年度は、私の勤務しております京都造形芸術大学の人権教育のなかの一部分の非常勤講師をしていただいております。そ



れから、三人目のソン・シルソン先生は、大阪の府立高校の先生として教壇に立つておられますが、この先生も常勤講師ではなくて別の措置によって教壇に立つておられると、こういうことになります。それともう一つ、資料をご紹介致しますと、お手元に、「暮らしのなかの市民として京都に生きる在日韓国・朝鮮人」と題する、この協会が一九九四年に発行したものの中に、「京都市立学校外国人教育方針」というものがあります。それがございます。少し古いと思われるかもしれませんが、その後この方針の改訂ということはまだされておられませんので、今もこれは生きていますと、考えていいかと思えます。但し、もう十数年経っておりますので、かなり現実とは違うことも出てまいります。例えば、その裏側のページの一番上段には、一九九一年現在の京都市立小・中学校に在籍する在日朝鮮人の児童生徒は、三、七七二人。全市児童生徒の占める割合は二・八%となっておりますが、この数字は当然変わってきております。その後、在日全体の人口が減少するなかで、おそらくもっと少ない数字にはなっていると思えますが、しかしながら、その後にございますように、京都市内の外国籍児童生徒のなかで、やはり依然として、韓国籍、朝鮮籍の方の子どもさんが圧倒的に多いというこの事実が変わっておりません。そういう意味で、ここに掲げております京都市教育委員会の方針は、今も生きていますと、また必要なことであろう、というように思います。また、細部については、また後ほどお説みいたさそうと思えます。とりあえずこのような、今の京都市の公立学校における外国籍、在日韓国・朝鮮人の先生方の目から、在日の子ども、或いは日本の子どもを、どのように見えるかというのが、今日のお話の中心になると思えます。今回は、お二人ではなくて三人ですので、二十分ずつという大変短い時間になりますが、お話をいただいで、そして休憩の後に皆さんの質問、ご意見をうかがって、またそれぞれの方に追加をいただくと、こういう順序で進めさせていただきます。

それでは、最初は、カン・ヨンジャ先生からお願いします。

カン先生 はい。アンニョンハシムニカ。今、紹介していただきましたカン・ヨンジャと申します。



康 玲子氏

カン・ヨンジャ先生と紹介されることにまだ慣れていないのですが、実は私は小学校で非常勤講師をしており、と言いますのは、昨年度の春からのこととございます。ですから、ようやく満二年になろうとしているところなんです。本当に経験の浅い、また非常勤講師というのは、小学校で非常勤とはどういうことかと思われるかもしれませんが、実は、小学校一年生の副担任をしており、小学校一年生、なかなか大変な場合が多いんですけども、一クラスが三十一人以上の場合には、私のような副担任、週二十八時間勤務の非常勤講師が付いて、担任の先生を補佐して、二人でチームティーチングを行うということに、今現在、京都市の方ではなっております。そういう補佐役として、教室に入らせていただいています。そのような仕事をするようになったのは、本当、最近だと申し上げましたが、それまでは、基本的にずっと主婦をしていたわけです。家庭教師をしたり、学習塾の講師をしたり、予備校講師をしたり、そういう経験があるんですけども、基本的には主婦をしておりました。三人の子どもがおりまして、もう上は大学生、下が中学生、もう三人とも随分大きくなっているんですが、その子たちの子育てをしながら、在日朝鮮人の保護者が集まりまして、メアリ会という、京都で保護者の会の活動を、これももう十年以上続けてまいりました。今、仲尾先生が、一九九二年に、この外国人教育方針が出たというお話を下さったのですが、この方針が出る直前の、一九九一年の秋ぐらいからその活動を始めて、ずっと続けております。ですから、私は長い間どちらかと言うと保護者として、学校教育に対して、もつと外国人教育に力を入れて下さいとか、在日の子どもの達のことを、先生方、もつとよく理解して下さい、と言う、そういう活動をずっとしてきたんですが、一昨年春から立場が変わりまして、学校のなかに入らせていただいている。そういう私のような者が、学校のなかに入って、日本人の子どもたちや、その他の子どもたちが、どんな反応を見せてくれたか、という、そういうエピソードを中心に今日はお話をさせてもらいたいと思っております。

一昨年春、私にしてみたたら、本当に初めての経験で、この年で新しい環境に飛びこんでいくというのは、大変勇気のいることだったのですが、ドキドキしながら、ピカピカの一年生が入学式でドキドキしているのと同じくらいに、私もドキドキしながら教室に入ったわけなんです。クラスの中に中国人の男の子がおりました。その子はお母さんが研究所の研究員、日本の文化を研究するために日本に来られているという方で。男の子が小学校に入学する半年前に日本に来られて、そしてまた、小学校に入学しても、実は七月には国に帰るんだという、たった三、四ヶ月のお付き合いなんだということは、当初から聞いておりましたけれども、その男の子がクラスにおりました。本当に小さい子どもですが、半年前に日本に来たとは思えないほど、日本語も達者で、ところどころつたない所はありましたが、でも、一年生の子どもは、どの子もそういうことがありますが、特に困るといふほどのことがないままに、彼は教室のなかに居たんですけれども、こういうことがありました。彼がお家から提出した家庭調査票の欄には、当然、お父さん、お母さんの名前を書く欄があるんですけども、それを見て担任の先生が、おかしいなあ、その男の子をここで呼びやすいように、A君にさせてもらいますけれども、A君のお母さんほしおかしいなあ、みたいなことを、担任の先生がおっしゃって、どういふことですか、と言つて家庭調査票を見せていたいたら、お父さんのお名前は、A君と同じ名字なんですけれども、お母さんは違ふ名字なんですよ。これはそんなに難しいことではありませんで、これは朝鮮でもそうです。だから、私の家族の場合も、私の名字と夫の名字と、夫婦で名字は違つております。生まれたときから名字は一生変わらないんです。そして、子ども達は、夫婦別姓というところ、進んでいふようになります。実はこれは非常に家長制でありまして、子どもは必ず父親の姓、名字を引き継ぐというかたちになつています。だから、中国人のA君も同じなんだ、ということはずぐにわかつたので、違ひますよ、中国では、こういふことから、朝鮮でも同じです。だからお母さんの名前が違ふんですよ、と申し上げましたら、担任の先生も知識として決してそういうことをご存じなかつたわけではなくて、そういうええそうでしたね、つておっしゃつて下さつたんです。知識として持つていても、私達は本当に、生身のそういう外国人に出会つたと

きに、そういうことをばつと忘れてしまふ。そういうことってやっぱり多いのかなあ、と思ったりしました。その家庭調査票は、上に両親の名前を書くだけじゃなくて、下のほうにまた緊急連絡先ということで、再び、父母つてあつたんですが、そこにまたまた違う名前を書いておられたんです。それで、担任の先生はおかしいと思われたんですが、それは、どうやらお母さんの実家の父のご両親の名前を、もちろん入学した児童の両親の名前を書かないといけないのですが、ちよつとお母さんが勘違いをして書かれたみたいで、それも下に書いた父の名字がお母さんの名字と同じやから、お母さんのお父さんの名前じゃないかなあというのが分かつたんですが。そういうことがあります。入学してしばらくして、給食が始まったときに、本当にお母さんも日本文化の研究をされているくらいですから、持ち物なんかでも、日本人の他のお友達と違わないように、きちんと入学準備されていたお家だつたんですけれども、給食がはじまつた一日目に、彼の給食袋をみましたら、中に食器が一式入つていたんですね。プラスチックのお椀や、ごはん茶碗や、お皿が入つていて。それを見たときも、あつて思いました。もちろんいろんな、入学に必要なものとか持ち物とか、詳しいプリントは当然学校から出ているんですけれども、本当に過不足なくご案内はされているんですけれども、でもやっぱり文化の違いというか、お母さんの方では当然こういうものが必要だという思い込みがあつたのかもしれない。そういう時にも、やっぱり説明不足だつたのかなあというのも、反省させられたり、そういうことがありました。

反省、ということ言えば、国語のテストの時間でした。一年生ですから、そんなに難しいテストはないんですが、表に問題があつて、そして裏の問題というのは、実はあまり点数には関係ないといえますか、子ども達がちよつと、遊べるような、そういう問題がついていることが多いのですが、その日のテストの裏面は、しりとり遊びだつたんです。みるく、くるみ、みたいな。そんなしりとり遊び。そして、その言葉があらかじめ書かれてあつて、みるく、の、く、だけ、空欄で、抜いてある。横にしかも、ミルクの絵も書いてあるんです。ですから、みる、と書いてあつて、一マス空いているところに、た、だ、く、と書けばいい、みたいな。そういう、そして、その後、また、くるみ、でしたら、くる、と書いてあるから、次何か書くとか。そういう穴抜き

の問題だったんですけれども、ほとんどの子どもはすらすらと書くんですけれども、彼が非常に困った顔をしていたんですね。これがわからへん、どうしたらいいか、わからへん、ということと訴え、教師の元に来たんですね。担任の先生は、これがわからへんの、というような事をちよつとそのときおつしやっていたんですが、その時私もはつとしまして、中国から来た彼には、しりとりという遊びに全く馴染みがなかったかもしれないというか、その可能性の方が絶対に高いのです。それで、そのしりとりというのは、こうこう、こうするんだよ、ということとを、ちよつと丁寧に一から説明したわけなんですけれども、普段、一緒に過ごしていると、授業のなかでも、日本語がわからなくて困ることはなにもない。算数も、むしろクラスメートよりもよくできる子でしたし、日本語の文字も毎日ひらがなを一生懸命書いていたので、そんな心配はないと思つてたら、こういうところにやっぱり私達の気づきが出てるところがあったなあ、と。前の家庭調査票の件では、担任の先生のちよつと気がつきにくいところも、私も外国人だからこういうことに気づくことができてよかつた、と思つていたのですが。その私も、このしりとり、A君に前もつて教えてあげることができなかつたなあ、ということとを反省したりしました。

けれど、毎日の生活のなかで、担任の先生が、例えば算数の時間に、これは国語とかじゃなくて、算数の時間でもこういうことができるんだなあと感動しましたけれども、子どもたちが一から十までの数を学び終えたときに、これでみんなはもう、一から十までばつちりわかるようになったね、じゃあ、一から十までを外国の言葉で言える人、と先生がネタを振つてくれたんです。そして、誰か一人が、僕イタリア語で言える、つて、本当に言った子もいたりしたんですけれども、じゃあ、カン先生には朝鮮語で言つてもらおうということ、私がそれを披露したり、最後に、みんなの目は当然A君の方に向いて、じゃあ、A君に中国語で言つてもらおうと。最初はちよつとはずかしそうに尻ごみしていたんですけれども、彼が一から十までを中国語で言つてくれました。そして、みんな、ああ、すごいなあ、みたいなこと。

その頃から、彼は中国語では言うんだとか、ああ言うんだとか。そして自由帳をひらいては、いろんな漢字

を書いて見せに来てくれたりしました。それを見て、また子ども達がびつくりしたり、すごいねえ、みたいなことで。同じように遊んでいたお友達だけでも、やっぱりA君は違うんだ、中国のお友達なんだ、ということが、子ども達も分かってくたようなそんな雰囲気がありました。実はそれだけではなくって、A君は当初からすぐくお友達に暴力を振るうということが多かつたんですけれども、それで実はクラスのなかで度々トラブルになって、A君に叩かれた、蹴られた、なにされた、みたいに訴えてくる子どもが多くなって、ちよつと大変だったりしたこともあつたんですけれども、最後まで、A君とけんか友達で、Aのことが嫌いだ、なんて言っているような男の子もいましたが、でも、女の子達は、A君は中国から来てはって日本語覚えるの大変やつたんや、だから手が出てしまうんやなあ、なんていう、そういう言葉も聞かれるようになったりしました。

七月、夏休みに入ると同時にA君とはお別れ、さようならだつたんですけれども、その前にちよつと私としても、CDを入手しまして。便利です、最近はいンターネットで、子どもの歌、中国語、と打つたら、ちゃんと出てくるんです。それで、中国語の歌を一曲、クラスの子ども達に覚えてもらって、そして、最後のお別れ会的时候にA君の前で歌うということがありました。丁度、A君のお母さんもそのお別れ会の時、来てくださって、一緒に授業を参観してくださいだったので、みんなが中国語の、「お母さんが世界で一番」、みたいな歌詞の内容でしたけれども、とってもお母さんも喜んで下さったということがありました。本当に短い付き合いでしたけれども子ども達のなかにいい思い出が残つたんじゃないかなあということを、思っています。

それと、A君の話は以上なんです。私は学校の中でカン・ヨンジャという名札を下げて歩いてますと、結構他の学年の子たちも、私に声を掛けてくれたりするんですね。カン先生って何人なの、とか。カン、なに？とか、名前をじつと見に来て、あ、カン・ヨンジャっていうの、変わった名前やなあ、先生何人なんや？みたいな。朝鮮人なんだよ、って言ったら、じゃあ韓国から来たんか、とか言ったり。いろんな会話をすることがあります。そのなかで、一人の女の子が、先生、日本のお名前は何ていうの、って聞いた子がいたんです。いや、私には名前は一つしかないよ、みたいなことを言つた時に、そう言いながら、ぱつと目を足下に落とし

た時に、その子の履いている上靴に書いているお名前が、日本のお名前なんですけれども、在日朝鮮人によくあるお名前だったんです。その子が私に急に、私のおじいちゃんとおばあちゃんは韓国人で、みたいなことを言いはじめたんです。よくよく話を聴いてみましたら、彼女はおじいちゃんおばあちゃんが韓国人で、日本人なのは母方のおばあちゃんだけということでした。あとはみんな韓国人で、だから私は四分の三やねん、とか。だから韓国の方が多いねん、とか。そういうことを言ってくれました。そして、その子は高学年の子なんですけども、二十歳までに国籍をどっちかに決めなあかんねんけど、でもどっちかに決めたくないねん、みたいなことを。そして、別の日に会ってしゃべっている時には、混じっているって悪いこと？みたいなことを私に聞いてきたり、ということがありました。悪いことじゃないよ、いいことだよ、だって、カン先生は、日本も朝鮮もどっちも好きやし、あなたそれ、お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんのなかに、両方いらつしやるんだったら、両方が仲良しつていう何よりの証拠やし、それはすごく素晴らしいことやんか、うらやましいくらいやで、みたいなことを、その子と話したりしています。

先日、学校の朝礼の時に、スクールガードリーダーの、いつも子どもたちが登校する時間帯に、学校の近くに立つて、登校する子ども達を見守つて下さっている方がいらつしやるんですが、その方が全校生徒の前で得意なハーモニカを吹いて披露して下さったことがあったんです。その時に、例えば「リングの歌」のような、君らはこんな古い歌知らんやろうなあ、でもおじいちゃんおばあちゃんに聞いてごらん、きつと知つているから、つて言いながら、そういうちよつと古い曲を何曲か披露して下さったんです。その日も後で彼女に廊下で会ったときに、私にいきなり、「そんなん、おじいちゃんおばあちゃんいわれても、日本の歌なんか知らはらん」、つて言うんです。その時はそのハーモニカと関係のある話だとはわからなかつたんですが、もしかして、学級の方でおじいちゃんおばあちゃんから昔の歌を聞いてみましよう、みたいな宿題でも出たのかしらつて、一瞬思つたのですが、話を聞いていると、どうもそのハーモニカを聴いた時に、「君らのおじいちゃんおばあちゃんやつたら知つてるよ」、と言われたことに彼女はひつかかつていたんですね。「うちのおじいちゃんおばあ

ちゃん、そんな歌知らはらへん、だつて韓国人やもん、韓国から来たんやもん」、みたいなことを私に訴えていました。「そうやね、本当やね、その代わりに、朝鮮の歌やたらたくさん知ってはるかもしれないね、またそんな歌も習つたらいいよ」、みたいな話をしたりしたことでした。

本当に、クラスが違うと、学年が違うと、ほとんど関わりはないんですけども、それでも、私のような者が学校にただいるといふだけのこと、本当に、何もできていないんですけども、いるというだけで、そうやって心を開いてくれる子どもがいるのかなあ、その子ども達の心つて、どういふことなんかあといふことを、いつも考えています。

その他の、日本人の子ども達の反応ですけども、クラスの子ども達は本当に喜んで、私が学校にチマチヨゴリを持つて行つて見せたりすると、本当に喜んでくれます。また、韓国、朝鮮の民話を読み聞かせたりするんですが、本当に喜んで聴いてくれます。今日も、朝、学校で、ちよつと一年間を振りかえるような授業があつて、今まで朝鮮のお話、どんな絵本を読んできたつて色々、思い出しながら黒板に列挙して書いていたわけですが、当然、子ども達は、わかつている子はわかつているんですが、北欧のお話とか、アメリカのお話とか、外国のお話と、もちろん朝鮮のお話も外国のお話なんですが、どれが、朝鮮なんや、とわかつていない子ども達もたくさんいます。それで、どんなのがあつたか思い出してみて、と言つたら、「三びきのやぎのがらがらどん」が、とか。ごめん、それは朝鮮のお話とちゃうかつて、とか。「おどりトラ」、とか、「へらないいなたば」、「おばけのトッケジ」、いろんな絵本読んだね、みたいなことを、そんな授業を今日してきました。子ども達がいろんなことを言つてくれますが、「私達のクラスにはカン先生がいるから、二組だけ得や」、みたいなことを子ども達が言つてくれたことがあります。「他のクラスの子達は、こんな話聞けないけど、私らだけ聞けるから得や」、みたいなことを、子ども達が言つてくれたりして、なんか面白いなあ、と思つたことがあります。

これは、昨年のクラスですけど、「カン先生の名前、カン・ヨンジャつて変な名前やつて六年生が言つてはつた」つて、教えてくれた子がいたんですね。「へえ、そんなこと言つてはつたん、ふーん」、とか言つてから、

「じゃあ聞くけど、君たちはどう思うって、カン・ヨンジャって変な名前やと思う？」って言ったら、一年生の子達が、大急いでこうやって、もう絶対僕らは思っていない、って、首を横に振ってくれたことがあります。本当に嬉しいなあ、って、そういう気持ちで勤めさせていただいています。

仲尾先生のお話にありましたが、一九九〇年代にはいりまして、京都市内でも常勤講師、任用期限を付さない常勤講師、ですか、外国籍の教師はたくさん誕生しているということをお聞きしています。京都市立の小学校にも、たくさん、現在勤めていらっしゃるということをお聞きします。そうでしたら、今日のパネラーも、私のように非常勤で働いている者よりも、そういう先生に来ていただいて、お話をしていたら、もつともつとよかったと思うんですけれども、ただ、残念なことに、本名で勤めていらっしゃる先生というのが、もつとも少ないんです。本当に、せっかく教師になりながら、本名を伏せて日本名で子ども達の前で自分が在日朝鮮人であることを明かさずに、お仕事しておられる先生方もたくさんいらっしゃると思います。なんか、すごく残念だなあと。私はその先生方だけを責めようとしてそういうことを申し上げているのではありません。まだまだ、本名で、教壇に立ちにくい、仕事をしにくい、そういう社会があるっていうことかなあとということも思っています。でも、本名で学校現場に入ると、こんなに面白いんだということ、これからもお伝えしていきたいらいいかなあ、というふうに思っています。以上です。



梨花氏 裏

仲尾先生 非常に感動的なエピソードをいくつか聞かせていただいて、有難うございます。

それでは、ペエ・イファ先生、お願いします。

ペエ先生 アンニヨハセヨ。ペエ・イファです。

私は、先程ご紹介いただきましたが、日本生まれの日本育ちの在日二世です。

この会場のなかにも、一度か二度、お会いしたことのある方が何人かおられます。また、今日の私のレッスンをキャンセルして、こちらの勉強会のほうに駆けつけていた、いただいた生徒さんもいらして、心強いです。二十分というお時間なんで、皆さんに私の思いを、少しでも伝われば、と思っております。

私は三十五年あまり、踊りのお仕事をしております。そしてその三十五年の間、本当に多くの人々との出会いがありました。もちろん、地域の方ももちろんですが、芸術や文化を通して学校の教壇、あるいは、朝鮮舞踊や韓国舞踊を通して、いろんな地域に行つて、私達の踊る姿を見ていただいたりしてきました。そんななかで、私は、ただ韓国、朝鮮舞踊を観ていただくだけではなく、私の両親、一世の両親が、どうして日本に来て私達を産むことになつたのか、私達がこのようにして生活しているのかというお話を、お話のなかに取り入れました。ただ、最初から、お仕事というか、そういう機会に恵まれたのではなく、約十二年位前に教室を立ち上げたのですが、その時は、私たちの国の芸術や文化をもっと知っていた、観ていた、観たい、大好きな踊りを皆さんの前に披露できる場が欲しい、そういう思いをなんとか表現するために仕事を始めたんですが、チマチヨゴリを着て街を歩いたりすると、その当時はまだ、あつたかいまなざしというよりは、冷ややかなまなざし、というか、視線がありました。そして、お仕事も、踊る場所がないものですから、近所の地藏盆から、ボランティア活動もあらゆるところに積極的にでていきました。そして、そんな甲斐がありまして、京都祭りにもたくさん出させていた、たきつけかけで、西京区の桂坂小学校の先生が、お声を掛けていただきました。是非うちの文化祭で踊つて、ください、お話ししてください、今を思うと、それが皮切りで、私がこの京都市内をはじめとして、滋賀県、そして福知山などの人権学習に呼ばれるきっかけになつたんじゃないかと、思っておりますが、その、桂坂小学校で、文化祭に出演して踊つたとき違う学校の先生が観に来られて、うちにも、うちにも、と言つて。この七、八年、もう二百校以上の学校で私達の公演を観ていただいたり、人権学習でお話を聞いていただいたりしました。そういった中で、私がいくつか学んだこと、あるいは皆さまにお伝

えたいことをお話したいと思います。

まずは、私が、外国人としての立場で、日本の社会やあるいは教育現場を見た場合のお話と、あとは、同じ日本に生まれ育った皆様、日本に生まれ育った方なのですが、その環境から、私は外国人ではありませんが、同じ環境で育った外国人としての、そういつたお話をさせていただきたいと思います。

先程、カン・ヨンジャさんが、桂坂小のお話、小学校にいらつしやるんですが、私もご縁がありまして、桂坂小学校には4年間、定期的に国際クラブというのがあります、週に一回、放課後のクラブ、全生徒さんが出席しなければいけないクラブがあります、その中に、国際クラブで韓国・朝鮮の文化や芸術を知っていただくというクラブがありました。当然、国際クラブですから、従来はいろんな国々の先生が代わっていくのですが、ご配慮から四年もそちらでお世話になりました、そして昨日もその桂坂小で、仲尾先生の講演の前に一曲踊らせていただき、そして簡単なお話をさせて頂きました。

その桂坂小での出来事を、まずお話させていただきましたと、韓国・朝鮮人という言葉を使うのをご了承いただけるとありがたいです。芸術をやっている私の気持ちとしましては、日本で生まれただけに、今、韓国舞踊というのが、とても耳にすることが多いですね。ところが、在日のなかには、朝鮮学校を出て、朝鮮舞踊をたくさん、たしなんでいらつしやる方もいらつしやいます。韓国舞踊、朝鮮舞踊ということを、二つに分けてお話しする機会が多かったので、今日もみなさんに、韓国、朝鮮、という二つのいい方でご紹介していきますが、宜しく願います。

それで、その桂坂小のお話なんです、私は日本生まれの日本育ちのペエ先生です、ということ、週に一回子ども達におじゃまするのですが、最初に、このなかで、先生と同じ外国人の方、手を挙げて下さい、と言ったら、シーンとして誰も手を挙げない。そうか、日本の子達ばかりなんだ、と。先生に、事前にこちらに在日の方はいらつしやいますか、ということをお聞きしたんですが、多分、いらつしやらない、前はたくさんいました、というお話だったので、じゃあ、韓国、朝鮮の打楽器チャンゴというのを教えたり、あるいは地図

を持って行って、そして場所はここです、そして大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国と二つこうなっていますよ、という話から、あるいは文化の話、いろんな話をさせていただき、言葉も一から三十くらいまでは、三ヶ月の間に覚えていただき、あいさつとか、いろんなことを、あまり日本語で話さずにやってきました。そんななかで、ある時、男の子が、カワキタ君っていう男の子なんです。授業もだんだんと盛り上がってきまして、そのカワキタ君がとて上手に叩くんです。だんだん優越感が増してきたせいもあつたんですが、私の耳元に来て、先生、実を言うと僕、韓国人やねん、「家の方から言うたらあかん」って言われてんねんけどな、カンっていうねん、つて。ああ、そう、じゃあ今日からカン君って言いますつて言つて、私がずつとカン君、カン君つて呼んでたんです。ずつと、二、三ヶ月それでよかつたんですが、最後の、そのクラスが終わる頃に、先生、やっぱりカン君っていうのやめてくれへん、家に帰つたら怒られてん、つて。私のなかではちよつと、こう、すごく残念で、でもいいじゃん、ここではカン君つてことにしようよ、ということ、お互い約束をして、その国際クラブは終わったのですが、その出来事が私のなかにしこりがちよつと残りました。

それと、あとは、大宅小学校にも、キッズというのがありまして、そちらにお邪魔したときに、そこには、在日の子の問題ではないのですが、体の不自由なお子さんがいらして、そのお子さんがとつても一生懸命チャングが好きで、勉強してくれるんです。そして、発表会のときに、私も当然そのお子さん達も出てくるかなと思つてたのが、その当日、ちよつと不自由なお子さんが三人くらいいらして、当日お休みされているんです。あとから校長先生にお聞きしたら、ある父兄からうちの子達、一生懸命やつているのに、前へ進まへん、つて、だから発表会のときはかっこいいとこ見せたいし、その子ら出さんといて欲しい、と、こういう声を聞いて今日の出さなかつたんです。と。それも、正直な話、私のなかで、ものすごく腑に落ちなくて。私が学んだことも多いのですが、学校での環境や、子ども達の状況が、繰り広げていることがあるのか。やっぱりそこに立つ教職員の方の立場というのが大切なんじゃないかなあと、痛感するわけです。

そして、また桂坂小の話なんです、チヨゴリの件なんです、チヨゴリを、皆さんに見せようと思つて着

てきました、すると、ある女の子が、また帰りがけに、先生、うちのおばあちゃん持ってんねん、と。ええ、あなたも韓国人？て言ったら、そうやねん、つて。あ、そう、いいじゃん、堂々としていいんだよ、言っているんだよつて言ったら、あかんねん、恥ずかしいねん、つて。あ、そう、と。その子は、チヨゴリを持っていて、つていう話と、又、家にチャングがあるつていう話がありまして、お家でおばあちゃんに教えてあげて、つていう話をしたわけです。そういつたことで、私は学校のなかで子どもさん達が、閉鎖的にしているわけではないですが、家庭の環境と学校側がきちんとフォローできる場であれば、子どもさん達が哀しい思い、あるいはいやな思いをすることがなかったんじゃないかなあと。まだ出しきれないお子さんも、たくさんいるんじゃないかなあということを感じました。

それで、小学校だけではなくて、中学校でもよく楽器の演奏を教えて下さいということで行くのですが、あの中学校の生徒さんも、やっぱりチヨゴリが着たい、先生、きれい、チヨゴリ着たいつて言ってくださつて。分かりました、したら先生があなた達のサイズを全部探して持って行きます、と言つて、明日お邪魔しますから、という電話を学校にかけましたら、その教職員の先生から、先生、それはちよつとまずいですよ、ということ。なにが、まずいんですか？と聞いたたら、まず保護者の方に許可を得ないと、つて。何の許可をですか？と言えば、やっぱりその韓国の、朝鮮の服を子どもに着せるという。その言葉を聞いたときに、また私は、がーんと、金槌で殴られたようになりました。結局、子どもさんの強い意志で、その時に着ることになって、発表することが出来ました。

私は、そういつた日本の学校で、外国人でありながら、日本の立場としての感覚と、あるいは、自分が、外国人である立場と、二通り見ることが出来るのですが、またしても、自分が外国人の育つた環境と違う環境があるんだなあということを目の当たりにすることが、多々ありました。そして、その、環境、学校だけの環境ではなく、今度、逆に私が、外国人という立場だけではなく、今度は、同じ日本、先程も申し上げましたが、皆さんと同じ日本に生まれ育つた、同じ空気を吸い、水を飲んだ者として、やはり、いろんな学校にお邪

魔しまして、やはり思うことは、もうそれは外国人という領域を越えて、本当に人間として、人が人を大事にしたり、思いやりを持つという感覚が、果たしてこの教育の場とか、あるいは、地域、社会で、学習できているのかなということも、強く思うことがあります。

私は人権学習でお邪魔したときには、必ず、私の両親が一世で、韓国、朝鮮で生まれましたが、私を産んでくれたのは、両親、自分の国は韓国、朝鮮ですが、育ててくれたのは、日本だと思っております。この育ての親の日本の社会、子ども達の未来のために、微力ながら頑張つていきたいというお話を述べさせていた。だいております。今、日本の子どもさんの将来、地域社会の将来が、最近とても危ぶまれているような気がしてなりません。特に痛感しておりますのは、私が一番大切な言葉を引用させていた。だくのですが、その、生き甲斐というものを、持っていないお子さん、あるいは人々が多いような気がします。最近いろんな報道で悲しい事件が多すぎるなかで、特に私は、生き甲斐ということが人に未来への展望と希望を与えていて、その充実した生活を与えることが、生き甲斐の本来の姿であつて、その人が生きるということをするためには、やはり何か目標を持つたり、あるいは自分がそうしていきたいという環境づくりが必要かと思うんです。ところが、私が、今、二百校あまりの学校、あるいはいろんな地域での活動のなかで思うことは、まず子どもさんには、教職員の方々や、家庭で、人権という立場、思いやり、愛情、そして、将来、どのように教育したらいいのかという学習を、日々繰り返し広げてほしいなあという思いがあります。また、福知山などは、とても人権学習を盛んにやっておられます。去年、一昨年、と十数回お邪魔したんですが、地域で、昔でしたら、公民館で、あるいは学校の区域で、子ども会があつたんですが、そういったかたちの、地域ごとに学習をしているんです。ですから、学校の人権学習に、地域の方がたくさん出席されます。やっぱり教育というのは、学校だけではなくて、地域も取り組み、そして、家庭も一丸となつてやるべきだと思つておりますので、そういったことを、講演に行く度に、感動したり、残念だなあと思う気持ちになつたりすることが多々あります。

時間の制限がありますが、たくさんお話をしたいのですが、最後になります、私の父の時代はとても悪い

時代でした。時代的背景は植民地というなかで、強制連行で日本に渡ってくることになりました。父がいつもおじいちゃんに問いかけた言葉のなかで、なんでこんなに貧しいの、なんでこんなに働いても勉強できないの、という問いに、私のおじいちゃんはハッポン、お前の生まれた時代が悪かった。その一言がかえってきたそうです。私は、その言葉を聞いた父が、この私達を育てるのに、その時代や背景を関係なしに、自分が生まれた環境で前向きに生きる姿をたくさん教えられたような気がします。そして、微力ではありますが、そういった父のメッセージを、私が多くの小学校、中学校、いろんな学校にお邪魔して、父の思いを伝えること、あるいは、戦争で、人が殺し合ったり、殺めたりするようなことを二度としないような気持ちになってもらうこと、もう一度「命」という大切なものを考え直すこと、そういった場を、少しでもエキスを与える活動をできればいいかなと思っております。

最後ですが、先程、造形大学の仲尾先生のご紹介にありましたが、大学の授業で、一つだけ感想文というか、レポートを口早に読ませていただきます。ここでは、一世、二世、三世、とテーマに分かれて、授業にはいるんですが、特にそのなかでは教職試験を受ける方が必須科目ということで受けています。そこで、多くの学生さんからいただいたコメントのなかに、差別とはなにかそれとはとてもなく醜く根付き、人間から離れようとしれないもの。そもそも差別は生まれたばかりの子どもには存在しない。差別は親や社会から知らぬ間に子どもの心に発生するものではないかと考える。差別は人間の弱い心に寄生するのではないか。自分と違う存在を受け入れられなくて、排除しようとする。そんな隙間が確実に存在するのではないかと私は思う。今回、リカ先生、手前味噌ですが、授業を通して在日コリアンを深刻な問題として向き合い、差別に関しては身近な問題としていろいろと考えてきたつもりであったが、自分とはさほど近い存在ではない者に対して、ここまで無知であったとは、自分でも情けない思いだった。例えば、外国人登録書を所持していなければ逮捕されること、選挙権がないこと、本名で生活していけない世情、など、こんなにづらいことがあるのだろうか。もうひとつは、毎回ベエ先生の授業はパワフルというお褒めをいただくんですが、私は体調を壊して、とても私は学校

の生活が、温度差を考えて、あまりいい生活を送りませんでした。ですが、そのなかでペエ先生のお話を聞いて、なぜか在日コリアンの差別を受けてきた立場の先生が、そんなことを微塵もかんじさせない、毅然とした態度でこの今を生きているということに、自分が甘い、ぬるい、ということを考え、もつと苦勞した人の話を聴いて、自分達は今、どう生きなければいけないかというエネルギーをいただきましたとか。たくさんいいコメントを、コメントというカレポトなんですけど、これからも、今日来た皆様との出会いを通じて、今日のこの出会いをいただいたこのきっかけに、また少しでも、京都だけではなく、日本の社会に、もう一度、命という大切さを考える、そんなエキスが広がることを願って、お話をこれで、有難うございました。

仲尾先生 大変感動的なお話を有難うございました。

いろいろな課題をいただいたと思いますが、それについてはいろんな皆さんの感想やご質問のなかで、皆さんの考えを聞かせてもらえればと思います。

では、最後になりますが、ソン・シルソンさん、お願いいたします。



宋 実成氏

ソン先生 皆様こんにちは。ソン・シルソンと申します。先にお話になった、諸先生方があまりにもよどみなく、かつ、心を込めてお話をささるので、僕はとても緊張しています。そういうこと、出来ませんので。

私は、在日朝鮮人の三世です。うちの祖父母が濟州島、チェジュドウといいますが、あそこから一九三〇年に日本に来ましてもう、七十数年ですか、日本に住んでいます。私はそこまで住んでいませんけど。私は、ずっと朝鮮学校に通ってきまして、今、大阪の府立高校二校で、朝鮮語を教えています。といつても、もう授業終わったんですけれども。それで、府立高校二校、日本の学校へ教えに行つて、いくつか思つたこと、

感じたことがあるんですけども、本日はそれについて、時間も時間ですけど、できるだけ手短にお話した後に、最も、高校で教えながら、あるいは、他の所でも、朝鮮語を社会人向けに私は教えているんですが、教えながら感じたことについて、レジュメを読みながら考えてみようと思います。

まず、私が高校へ教えに行つて、私は、ちなみに言いますと、特別非常勤講師という資格で行つております。特別非常勤講師という資格で、朝鮮語を二校で教えています。一校では、科目名は朝鮮語です。そしてもう一校では、韓国語という科目名で授業をしております。それで、一番私が日本の高校を教えに行つてびっくりしたことは何かと言いますと、ここ数年、よく学級崩壊とか言います。僕は、あれはテレビの中の世界だと思つていました。ところが、実際に私が行つてみますと、私がまさにそういう目に遭つたわけなんです。こんなに身近なところに、身近なところで、授業が壊れているとは、私は、全く予想だにしていなかったんです。私は、朝鮮学校を出た者ですから、そういうことをやった暁には、まさに、ボンボンと、あの辺まで吹っ飛ぶくらいにどつかれて、どつかれながら育ちましたので、私からしたら、全くそういうのは異常な行為なわけです。授業中に携帯いじるだとか、ガムを噛むだとか、勝手に教室を出入りするとか。小学生じゃ有りません、高校生です。僕はそういうのを見たら、許せない私たちの人間なので、衝突、しょっちゅう、衝突しました。実はこの前の火曜日、もう一校の、韓国語というタイトルで授業をやっている学校なんです、最後の授業だったんです。残念ながら私はそこまで寛容な人間ではないので、一番最後の最後についてに爆発しまして、とても後味の悪い形で授業を終えてしまうという、そういう結果を招いてしまいました。まず私がびっくりした、あるいは感じたのは、その点です。

そして、二点目なんですけれども、先程カン先生の話にもありましたけれども、また、仲尾先生の冒頭のお話のなかでもありましたが、私の行っている高校二校でも朝鮮人の生徒がいます、何人か。ところが、私が当初思っていたよりは、数が少ないんです。たまたま受講している生徒が少ないのか、全体数が少なくなっていることの表れなのか、どちらかは断言は私はできませんけども、とても少なかったです。それでなおかつ、両

親が朝鮮人、韓国人という子どもが少ないのに反比例してかもしれないが、特に私が体験した、経験したケースでは、片親、母親が韓国人です、という子が増えています、というより、多かったです。なので、そういうところでも、在日朝鮮人の数が減っていつている、言い換えれば、帰化をしている、日本の籍をとっている人達や、国際結婚をしていつている人の数が、それだけ増えてきているのかなあというのを、私自身実感しました。これが二点目の話です。

そして、三点目を感じたこと、手短かに申し上げますと、私はいたずら好きな人間でして、一番最初の授業の時にどういうことをするかというと、朝鮮語、韓国語という科目で教えに行きますから、最初自己紹介の時間に、こういうことを私はしたんです、これは毎年やっています。どういうことかといいますと、笑わはる方、笑っていたでいて結構です。「私、韓国から来ました、ソン・シルソンといいます」てなかたちで、延々三、四分しゃべるんです。それじゃ、生徒らは、「おお」とか、「韓国人や」とか言うんです。もういいかな、と、潮時、もういいかなと思つたら、「私、もつと、日本語上手ですよ」と言つて、普通の大阪弁でしゃべるんです。「君たち、今の話、おもしろかったですか？」とか聞くんです。一瞬、どよめきます。「えつ、どういふことや」、言つて。そして、言うんです。落ち着いた後で。「私は韓国で生まれたではありません、日本で生まれた在日朝鮮人です」、と言つたら、どういう反応が起ころと思ひます？全員が全員ではありませんけど、「ええーつ」と言う子がいるんです。驚きとか好感を抱いてというよりは、失望の、「ええーつ」、なんです。これはいつたいどういふふうに思われているから、そういう、「ええーつ」て出てきたのかなあ、と僕自身感じつつ、未だにその答えは解明できてはいません、残念。

そして、四点目ですけど、四点目は、やはり日本の学校に行きましたら、先程申し上げました通り、朝鮮人の子らもいます。それで、その子らにとつては、それは韓国人の先生つて嬉しいんですけど、やっぱり同じ境遇の、文化的な生活の基盤、基盤というか、それを共有している在日朝鮮人の先生に、やつぱりこれは個人の感想ですが、日本人の生徒らよりは、寄つてくる傾向があります。なので、結構なついでに帰ります。

僕は、なつてくる子ら、これは人間誰でも当然そうでしょうけど、私は、なつてくる人間には厚遇をするタイプですので、かわいがります。なので、やっぱり、在日朝鮮人、韓国人の生徒らからしたら、同じ在日朝鮮人の先生が来てくれたら、日本の学校現場はやっぱりほとんどが日本人の先生方ですから、やっぱり私とかが行ったら、安心する、というか、心強い、そういう気持ちを抱くようです。これが四点目です。

ちよつと前置きが長くなりましたが、今からお話する五点目、これが今日私が主たるテーマにしたい、テーマにしようとしてお話です。高校生ら、それから社会人にも私は教えていますが、教えながら一番感じた問題について、今からレジュメを読みながら、お話をしようと思います。レジュメの方ですけれどもご覧になって下さい。タイトルが、挑戦的、「挑戦」、といつても、コリアンの方ではなくて、トライアルな方の。「触らぬ朝鮮に祟りなし」、というふうな、かなり刺激の強いタイトルをつけさせていただきました。今からどういふ話か説明せずに、「一、はじめに」、の部分から読ませていただきます。

本論にはいる前に、皆さんが次のような発言をなさる場合、通常、韓国、或いは、朝鮮のどちらを使おうと直感的に思われるか、少し考えていただきたい。

例一。二十世紀には不幸な歴史があったものの、高句麗、百濟、新羅、などのあった古代には、日本と韓国、あるいは朝鮮とは、お互いに友好関係を築いていました。どちらを使おうと思えますか。

例二。ご紹介します。パク・ヨンシクさんは、一九二七年に、韓国あるいは朝鮮のプサンでお生まれになり、六歳の時にご両親と日本に渡つてこられました。この場合、自問してみてください。この場合、皆さんどちらをお使いになるでしょうか。

例三。おいしいって、韓国語、或いは朝鮮語、或いはハンゲル、あるいは韓国・朝鮮語、でなんて言うのですか。どちらをお使いになるでしょうか。おそらくは、ほとんどの皆さんは、直感的に韓国語、朝鮮語、或いはハンゲル、などの言葉をお使いになることだろう。言い換えれば、朝鮮、朝鮮語、という言葉は避けようとなされるものと思われる。

それでは、現在の日本で朝鮮という言葉はどのような扱いを受けているのかを、報告者が目撃、体験した事例を通して考えてみる。

例二。「テレビ欄のなかの朝鮮」。二月十、十二日、そして、十二日分には十二、十三日、十四日の分も含まれています。四日分の朝日新聞のテレビ欄の北朝鮮、朝鮮民主主義人民共和国、北朝鮮、とします、関連の報道内容を含むテレビ番組の見出しのうち、朝鮮、北朝鮮を、単独で指し示した言葉の入ったものを拾ってみると、以下の通りでした。二月十日分です。「六カ国協議、北が主導か」。二月十二日分です。「キム・ジョンナム氏、北京で撃殺(げきさつ)」。「神出鬼没、北のおし」。二月十三日分、「北、見返りめぐる攻防」。同じ、同日ですが、「難行する六カ国協議、北の戦術は」。二月十四日。「核施設を閉鎖、見返りは重油百万トン。北、大成果」。そして、二ページ目に移りますが、「六カ国協議合意の裏で、新潟に北朝鮮から貨物船入港」。そしてこの日の三つ目です。「北朝鮮の思惑どおり、六カ国協議今後の日朝関係はどうなる？青山がズバリ読み解く」。ちよつと蛇足ですが、私は青山さんはズバリ読み解けていないと私は思っていますけど。それはいいとして、上記七件のうち、朝鮮を朝鮮と記したものは0件、北朝鮮が二件、北が五件でありました。現在の日本において、朝鮮は北という方角名で片づけてもいい存在のようであります。外国人に方角を表す言葉で呼ばれている国は朝鮮以外にあるのだろうか。どなたかにご教授願いたいものです、と思っております。

例三。「誰も使わない朝鮮語授業」。報告者は、報告者は私ですが、大阪の府立高校二校で朝鮮語を教えています。一校での科目名は朝鮮語、もう一校での科目名は韓国語であります。報告者自身は、①朝鮮語という呼び名への愛着と、②南北朝鮮と、日本、中国、旧ソ連などで使われている言語、コリアンですか、の名称は朝鮮の南北分断の前から、先に挙げた地域の朝鮮人が皆共有していた朝鮮語という名称でしかくり得ないという考えから、朝鮮語という名前を常に使っています。これは、授業中も然りであります。但し、韓国語と朝鮮語を全く違う言語のように誤解している生徒たちに注意を喚起すべく、韓国語と朝鮮語を一緒に使うことも多いです。この言語の名称をめぐって、上記二校で次のような事例があったので紹介致します。

事例一。二校の生徒とも韓国語とは言っても決して朝鮮語とは言いません。

事例二。二校とも朝鮮人生徒が数人受講していますが、彼らも、韓国人、韓国語、とは言っても、決して朝鮮人、朝鮮語とは言いません。

事例三。チョンサラム、朝鮮人という単語を発音させた時の生徒たちの声が、ハングッサラム、韓国人、という単語がはいった文章を作成させた後に黒板に出て誰か書きなさいというと、すぐに手をあげるのに、チョンサラム、朝鮮人という単語が入った文章の場合には、誰も手をあげようとしません。上記の事例は何も、高校生に限った話ではありません。報告者が朝鮮語を教えている社会人学習者たちも全く同じ行動をとっているのです。

事例四。『触らぬ「朝鮮」にたたりなし』。高校生らや社会人らも口にしようとはしない朝鮮。日本人は言うに及ばず、今や在日朝鮮人すら口にしようとしません。

三ページ目にうつります。使おうとしないということは、言い換えれば朝鮮という言葉を使うことによつて、何ほどの良からぬ問題が生じることを自覚している、あるいは危惧しているということではないのでしょうか。それでは、朝鮮を使うことによつて起こる良からぬ問題とは、いったい何なのでありましょうか。

一、一見、表面的にはなくなつたかのように見える、あるいはなくなつたかのように見せなければならぬのであろう、朝鮮人に対する日本人、日本社会の差別、差別感情が、朝鮮という言葉を使うことによつて、思い起こされるからなのでありましょうか。

二、朝鮮という言葉を使うことが、拉致、キム・ジョンイル独裁、核、脱北者、ミサイル、偽ドル、などに想起される史上最悪の国家、北朝鮮を思い起させたり、はたまた、史上最悪の国家、北朝鮮の同調者とみなされる目安だからでありましょうか。

三、韓国人は朝鮮という言葉嫌い、韓国政府が韓国という言葉を使えと言っているから、韓国、あるいは

韓国人に配慮して、韓国と言ひ換えるのでありましようか。即ち、上記一のような朝鮮人と日本人の間の民族的アイデンティティーにまつわる葛藤の問題と、上記二、三のような、社会主義か資本主義かといった政治体制間の葛藤という二つの要因が、現在の日本社会から、従来、朝鮮と言つていたものを、韓国、コリア、と置き換えることで、朝鮮を駆逐していつているのでは、と報告者には思えるのであります。朝鮮という言葉が入つた単語のなかで、今なお命脈を保つて居るのは、北朝鮮と朝鮮半島ぐらいであります。それでは果たして南朝鮮とはどこなのか、と考える人はいるのでありましようか。疑問であります。

事例五。結び。「朝鮮」、今のご時世、ほとんど忌み言葉に近い。「韓国」、今のご時世、本当に身近でエネルギーな明るい言葉。「朝鮮」は、「韓国」あるいは「北朝鮮」か「北」に、「朝鮮人」は「韓国人」に、「在日朝鮮人」は「在日コリアン」に、そして、「朝鮮語」は、「韓国語」あるいは「ハングル」、という具合に、言葉の言い換えは着々と進んでいます。日本人はまだしも、朝鮮人の当事者たる在日朝鮮人たち自身が、自称たる朝鮮人を使うのがはばかられている今の状況は、日本社会の一面をよく映し出してくれているのではないのでしょうか。朝鮮という一言を言うか言わないかで、言う側も聞く側もピリピリしなければならぬ、そのような状況下で報告者はこの話しを終えようとして居るのであります。

ちよつと時間がすぎましたけれども、ご静聴有難うございました。

仲尾先生 高校の深刻な現場あるいはその生徒の反応、プラス、現在の政治情勢を反映して、あるいは文化情勢といましようか、非常に鋭い問題提起をしていただいたと思ひます。以上で三人の方のご報告は終わりますので、これから休憩に入ります。

司会 有難うございました。それと、こちらの用紙、本日パネリストのカン・ヨンジャ先生がお作りになつたレジュメが一つあります。これを先程の受付のところに置いておきますので休憩の間に読んでみて下さい。今、

皆様のお手元にこの質問、意見用紙があると思います。ここに、今のお話を聞いてご意見とご質問があれば書いていただいて、休憩の間にこの箱の中にお入れ下さい。回収しまして質疑応答にうつりたいと思います。今の時間があちらの時計で三時十五分ですので、おそくとも二十分までにこちらの箱にお入れ下さい。質疑応答の準備をしたいと思えます。

それでは次の質疑応答は、二十五分に開催したいと思えます。

仲尾先生 それでは時間になりましたので再開させていただきます。

五人の方からご質問ならびにご意見をいただいておりますので、全部紹介させていただきます、この方とこのこと、あるいは三人の方にご回答あるいは感想をいただくことに致します。

まず、ペエ・イファ先生への質問。子どもたちに、チヨゴリを着せようとされたとき、学校側が保護者の許可が必要と反対したことについて、①いつ頃のことですか、②その時、ペエ先生は学校側に反論されなかったのですか、③その反論に対する学校側の意見はどのようなものでしたか。こういう質問が、非常に具体的なかたちできておりますので、簡潔にお答え下さい。

ペエ先生 はい。いつごろのことかと言いましたら、四年前に人権学習講演を依頼されました、そのときに生徒さんをチャンゴの演奏で舞台にだしたらどうかという話を進めていきました。そして、生徒さんが約六名、事前に練習をして参加することになりました。子どもさんたちに直接私が、チマチヨゴリを着て発表したほうがいいですよ、ということ、担当の先生がその時いらしたんですが、先生は他の授業が兼ねてあつて、子どもさんたちと練習をしていましたので、では次の、次回にチヨゴリをお持ちします、ということ、帰って

きました。前日に、学校のその担当された先生から電話がありまして、ちよつとチマチヨゴリを着せるのは保護者に許可を受けていけないので、難しいかも知れないです、ということ。そしたら、とりあえずお持ちしますということ、現場に行つてお子さんたちが先生を踏ませて私がお話を伝えましたら、生徒さんがすごいブーイングで、「そんなことおかしい」、「なんでやのん」、ということ。私も直接に今までもたくさんこうして民族衣装を着てもらつて舞台上出してもらいましたから、保護者の方に許可を受けなければいけないというのは、先生どういう意味でおっしゃつていらっしゃるんですか、ということをお尋ねしましたら、特別深い内容はなかつた、という一言で、じゃあどうぞということだつたんですが、その言葉に私も特別つっこみをいれられなかつた状態ですが、いやな思ひを、私自身もしたんですが、生徒さんはあまりそんな深い感覚はなくて、家に持つて帰つてアイロンしてきて下さいと言つたら、その次の日に、どうだつた？と聞いたら、みんな、綺麗ね、つて言つていただいたということ、一件落着のような気はしておつたんです。担当の先生のお気持ちのなかには、どういつた感情があつたかは、想像でしかお答えできないという状態です。あと、そのときに、反論ではなくて、別に、という言葉で終わつてしまつたものですから、そのまま民族衣装を着せて素晴らしい舞台になりましたので、とても喜んでもらえたという、そういうつたことでした。

仲尾先生 はい、有難うございました。以上のようなことです。

二番目、これはカン先生への質問です。この方はご自分の本名を書いておられますが、あるいは他の方の本名といますか、名前も書いておられますが、この公開の席ですので名前は飛ばして読ませさせていただきます。二十三歳の女性です。私は桂坂小学校の卒業生です。私が在校していたときは、M先生という担任でない人気があつた男の日本の先生が朝鮮・韓国のことにごく興味があられて、私の家をしょつちゅう訪問したり、学校で声をかけてくださったことを憶えています。私は、本名で通していました。他にも、本名を隠していた在日の子はいっぱいいました。質問。カン先生は大変賢くて、人生の経験もあつて心配りのできる素晴らしい先

生だと思いません。だから、先生はみんなに好かれているのかな。私は性格が未熟だから差別を受けたのかな、と思います。このようなご感想プラスご質問ですので、これはカン先生、ご感想をお願いいたします。

カン先生　素晴らしい先生だと思えます、みたいに書いていただいて、本当にお恥ずかしい限りなんですけれども、本当にそんなことはありません。私自身も性格の未熟な者です。学校でもそうですし、一番ひどいのは家のなかだと思えますが、カッとしたら、よく失敗することも多いです。この方が、私は性格が未熟だから差別を受けたのかなと思えます、と書かれているのを読んで、じゃあもしかして小学校のときに、そのことで何か差別を受けた、いやなことを言われた、そういう経験をお持ちだったのかな、と、ちよつと心が痛いのですが、もしそういうことがあつたとしたら、あつたとしても、決してあなたの性格のせいではないと、そうは思わないで下さい、と申し上げたいと思えます。今日はお話できませんでしたが、私の娘も小学校時代本名で通っていたために、全然別の小学校ですけども、その名前がおかしいということだからかわれたり、また、みんなに、韓国人、韓国人、韓国人、つて、言われたり。それでもう、学校に行くのがいやだつて言つて、悩んだり。親としても私はそういう経験を持つています。そういうことがあつたからといって、それを言われた者の性格の理由だとしたら、ちよつとこれはたまりませんよね。それはいじめるほうが悪いんです、差別するほうが悪いんですから、差別されたことで、私は性格が悪かつたから差別されたんかなあ、誰それさんは、あの人は性格がいいから、素晴らしい人だから差別されない、そんなことは絶対にないということだけ、申し上げたいと思えます。でも実際は、差別されたりいじめたりされたら、そういう経験すると、やっぱ私が悪いんかなと思うのは、実はこれみんなそうなんです。そう思わないで下さい、つて今言いましたけども、でも、そう思ってしまうというのは、本当にみんなそうなんです。だから、差別されたりいじめられたりした人はみんな傷ついています。本当にそうじゃない、差別のほうが悪いんだからね、あなたは悪くないんだから、ということ、一生懸命、本当に言つてまわりたい気持ちです。

仲尾先生 はい、ありがとうございます。

次は学校のシステムの問題です。学校の職員会議に非常勤講師は出ていますか。常勤講師はどうですか。こういう質問ですので、これはカン先生とソン先生にお答えいただくと思います。

カン先生 非常勤講師にもいろいろあると思うんですけども、例えば、長期お休みされている先生の代わりに入られる先生の場合でしたら、そのまま担任をされたり、フルで働かれるわけですから、当然職員会議には出ておられますけども、私の場合は週二十八時間勤務、子どもたちが学校にいる時間、子どもたちと一緒に教室には出して、お世話をする、そういう役割かなということを思いますけど、その関係で、職員会議には基本的に子どもたちと一緒に朝学習の時間を、絵本を読んだり作文を書かせたりということをしなから、時間を過ごしております。ただ、放課後の職員会議のなかでも、自分として積極的に出て勉強させてほしいという時には、出させていただったりもしているという、そういうかたちです。

仲尾先生 では、高校ということですが、ソン先生お願いします。

ソン先生 はい、とても手短かに申し上げます。全く出ておりません。出るとも言われていません。以上です。

仲尾先生 ということは、出て出なくてもいいということになっているのでしょうか。それとも、出るべきではないということでしょうか。

ソン先生 出る資格がないと僕は思っています。別にこれを言われたとか、あなたはこういう、こういう業務をして下さい、という話はありませんでしたので、出る資格自体がないんやと思っっています。

仲尾先生 わかりました。学校や都道府県の対応によつて違ふと思ひますが、今、お二人のそういう現状を聞かせていただきました。

四番目。これは先ほどもありました、いじめの問題です。現代社会のいじめによる子どもたちの自殺についてどう考えられるか。教育側、親たち、又は大人たち、社会が、どのように対処するのがよいと考えられるか。命を粗末にする子どもが多いのが悲しく、参考意見を聞かせてください。ということなので、これはお3人の方にそれぞれ自分の意見をお話いただけたらいいかと思ひますので、カン先生からお願ひいたします。

カン先生 さきほどの質問にお答えするなかでも、ちよつと触れさせていたんですが、いじめられる側には何も自分を責めないといけないことは何も無いということ、本当に強調したいということ、それと、いじめ問題をみながら、やっぱり差別の問題と共通することが多いなあということ、いつも思っています。よく言われますけども、いじめられる子どもがいて、いじめられる子どもがいて、その周りで何も知らないふりをしている傍観者の子どもたちも同じ責任があるんだ、ということをよく言われますけども、差別の問題もやっぱりそうだと思います。私は別に、あなたは朝鮮人だから韓国人だからといつて差別しようなんか思ひませんが、と言つてくださる方は多いのですが、でも、私は別に差別はしません、していません、と言うだけで、この社会にある差別をなくすために何とかしようとする行動を起さないとすれば、それはいじめの傍観者と同じく、この社会に差別があり続けることを許している、もしかしたら積極的に加担している、そういう一員であるということになつてしまふんじゃないかな、ということも思っています。だから、いじめの問題もとても人ごとじゃないというか、本当に、子ども達には、いじめられていることで自分を責めないで、いじめがこの

社会にあるという、そのいじめが悪いんだから、この社会が悪いんだから、あなたが悪いんじゃないんだから  
ということをお伝えしたいなあという気持ちをいつも持っています。

ペエ先生　まず、いじめによる自殺、子ども達の自殺についてどう考えられますか、という質問なんです  
よくテレビを観ていますと、加害者の親御さんの気持ちもさることながら、被害者の親御さんがこういった状  
況をなんとか皆さんにわかしてもらいたいということで、勇気を振り絞って、学校とかいろんな地域に出て活  
動されているご両親を、最近よく見かけます。私も3人の子どもがおりますので、充分成人しておりますが、  
いじめられる、いじめる、ということに関しては、子ども、わが子であれば当然、加害者であつても被害者で  
あつても本当にこれは胸の痛いことです。それを一方的に、加害者が悪い、あるいは被害者だけが悪いとい  
見方をするのではなく、その、加害者であれば、例えばこの両親、あるいは社会がそういうものが見えていな  
かつた。そういうことをしているのが見えていなかった、被害者の立場は、親あるいはやっぱりその地域の人  
たち、あるいは周りの人たちが、見抜けなかつた。そういったものが原因で、この子ども達が死というもの  
を決断してしまうわけです。強い子どもに育てるといことは、やはりさつきも言いましたが、家庭のなかで  
ご両親の教育、そして学校のなかでの、人の人権と命を大切に、そういったものを、教職員の方が一丸と  
なつてやる必要がある。そういったことを、昨今特に痛感してなんとかならないものかなということ、この  
教育のなかで、私もよく、教育の現場に行くのですが、子どもさんが目を輝かして、人の話を聞くときに、目  
を輝かして聞いてくれる、そういった状況を見たら安心するんです。ところが、幾つかの学校に行きますと、  
塾とお稽古事に追われて、疲れきっている生徒さんが、たくさんいるんです。そして、もつと言うならば、桂  
坂小で一つあつた事実なんです、塾にたくさん通っている子ども達も、塾は一日ではなくて、一週間  
に四回行つてねん、とか言つて。もう、その子ども達のなかでは、それがとても、王様みたいな、頭がいい、  
そしてできる、塾に行つて、できる子がすごくえらいぞ、つていう、イコールみたいながあつて、チャンゴ

のレッスンをしている時になんか、じゃあグループごとにしなすう、とか、この一列にしなすう、とか言ったときにみんな、その頭のいい子の後に並ぼうとするんです。その頭のいい子らしき子が、できない子をつかまえて、馬鹿、馬鹿、馬鹿、馬鹿、つて。もう、なんかおまえは馬鹿だから、おまえは馬鹿だからつて、もうずつと言う。最初はちよつと普通に笑つていたんですけど、だんだん私のなかに、闘争心という、これやつけなすうやという気持ち芽生えてきまして、ちよつと君こつち来なさい、というこつとで、学校だけの場所だけじゃなくて、強いということはどういうこつとかわかる？という話をしながら、本当に強いのは、できない子を助けてあげることが、強いし、頭がいいのは、勉強ができるんじゃなくて、そういうできない子を助けられる能力があるのを、頭がいいつて言うんだ。ということ、その瞬間、固くなつて、またこの子に傷つけてるのかなと思ひました。一週間後に会つたときには、本当になつてくれまして、間違つてなかつたなあと思ひました。やはり子どもに教育するつてことは、度胸もいるし、それから決心もいりますが、やつぱり勇氣を持つて子ども達と日々戦うこつとが必要かと思ひます。

仲尾先生 有難うございました。それでは最後になりますが、ソン先生お願ひします。

ソン先生 はい。いじめに関するご質問なんですけれども、私としてはとても返答に困つています。僕、一つ、去年あたりからですか、いじめに関する報道がとでも多かつたでしょう。あれで一つ思つたんです。いじめられて自殺する子が去年何人くらいおつたんでしょう。十何人はおつたんじゃないですか。もつとですか。僕そこでひとつ思つたのは、いじめつていうものを歴史的に研究する方つていらつしやるのかなあ、と思つたんです。どういふこつとかといふと、二十一世紀の日本の子ども、いじめられて何人か自殺してると。ほな、一九七〇年代とか一九八〇年代とか、あるいはそれ以前、いじめられた子どもで自殺する子つておつたんかという疑問が湧いたんです。ただ、今こつこでは答えがでないでしょう。それを僕、疑問に感じています。もし、

その時代、いじめられても自殺する子が少なかったり、あるいはおらんかったんやったら、時代を経るにしたがって、子ども達が精神的に弱くなっている、と言うたらこれ、誤解をうむのかもしれないけれども、変化をしてきているんじゃないかと、仮にそうであつたらですけど、そういうことも考えたりしました。

それで、いじめつてもそもそも、ここでは子ども達の話ですけど、大人の社会にもあります。その子ども達なりの権力関係の反映つていうふうにみなすことができるんじゃないかなと。即ち、その子ども達のなかで、けんかの強い、発言力のある子どもが、ある子どもの特徴あるいは欠点をもつて、それに対して好き勝手な言葉を言うなり、あるいは実際にとついたり、いうかたちで、権力を振りかざして虐げるといふのか、いじめつて結局その反映ではないかというふうには僕は思います。ただ、このいじめの問題つておそらく昔からずっと、おそらく何千年前から人間社会であつたことでしょうし、多分日本だけでなく、今、韓国でもものすごく問題になっていきます。他の国でもあるはず、あると思うんです。これは人間にとつて、腕っ節の強い者、発言力のある人間が弱者を虐げたがるというのは、ある意味人間の持つている一つの本能といふのか、やないかと僕は思うので、これをどない解決するかという方法を教えて下さい、僕は、すみませんが言えません。但し、一つ、教育側、親達はどのように対処すればいいですか、ということに関して、申し上げますと、他の、僕が行つていない学校ではどうか知りませんが、どのように先生方が生徒らを指導しているのか知りませんが、僕が行つている二つの学校では、はつきり言つて、例えば、山田、そんなんやつたらあかんやろう、やつたらあかんぞ、わかつた？それぐらいです。はつきり言つて、僕からしたら、指導でも何でもないんです。ただ言つてただけなんです。それで当の本人は、いじめで怒られているんじゃないかと、例えば先生に暴言吐いたとか、教室勝手に飛び出したとか、その、怒られている、叱られている本人は、椅子をパーッとやつて、仰け反りかえっている、ふんぞりかえっているんです。だから、こういう、学校現場がこういう状態で、まともな指導とかつて、できないんじゃないかなと。やつぱり今の時代、生徒をどついたら、親にも言われメディアにも取り上げられ、結局のところ、先生らつて手足を、手をもがれた蟹みたいな、そういう状態ではないかと私は思つて

います。一つだけ、僕、高校行つて思つたのは、言葉で言つても全く効かない、或いは効果をなさない生徒つておると私は思いました。何べんも何べんも、おまえら携帯やめろ、勝手に授業中うろつくやつて言つても、無駄です。やつぱりそういう生徒らには、他の方法で対処するしかないんじゃないかな、というふうには僕は学校行きながら思いました。なので、いじめに関する問題に戻りますけども、教育側にせよ、親にせよ、対処はやつぱり今の段階では、今の状況では難しいのではないかなと。すみません、長々となりましたが。

仲尾先生 有難うございました。いじめとか子どもの自殺とか、これは私達一人一人が、そういう報道に接するたびに、大変心が痛む問題ですし、自分の身近で起こつたら、それこそ当惑するということが大部分ではないかと思ひます。そういうわけで、三人の方にそれぞれのご感想、あるいはお気持ちを率直に語っていただきました。私がいふのは、子どものことが今日は主題ですけども、今、日本の社会で自殺者が一年間にどれくらいいると思われませんか。三万人なんです。三万人を超えている。これがどうして「美しい国」でしょうか。やはり、命を粗末にする、あるいは人の命のことは大切に考えない。そういう社会になつていふからこそ、そのような現状が生まれている。勿論、倒産であるとか愛情の破綻であるとか、いろんな動機はきっかけとしてあるでしょうけども、やつぱりたつた一つしかない命をなくしてしまうということはその社会は健全な社会ではないし、「ましてや美しい社会」ではありません。ですから、私たち自身が自分の問題として、そういった問題を考え直す以外には手はないんじゃないかと、いうふうには私は思つております。そういう意味では、カン先生も言われましたけども、差別の問題とも共通致します。有名な言葉に、「差別は見ようとしないう者には見えない」という言葉があります。見ようとしないう者には見えない。ですから、いじめの場合も同じことで、いじめの問題を見ようとしないう者はいじめの問題を解決できないです。だからやつぱり勇氣を持つて現場を見る。そのなかで自分が最善と思われる方法をとる。さつき、ベエ先生が、勇氣を持つて子どもに接しなければいけない、と言われましたけども、そういうことが学校でも家庭のなかでもあると思ひます。だからこれはある意味で、

私は人権教育の基本だというふうに思うんですね。人権教育は人権教育の先生に任せておいたら出来るんじゃないかと、学校であれば、学校の全職員が人権教育をやらねばならない、そういう気持ちで学校運営をしていかないと、その学校はやはり、いじめや果ては自殺といったことも生みださざるを得ない学校になっていくんじゃないか、という恐れを持ちます。そういう意味では、学校の先生だけではなくて、私達一人一人の人権感覚が、今問われているんじゃないだろうか、いうようなことを、三人のご感想を聞きながら思いました。

もう一つの質問、最後の質問があります。これは、ソン先生とカン先生に一言ずつお答えいただこうと思いますが、まず、三人の方のお話を聞き、在日の方に対する差別の問題と、政治的状況を反映した北朝鮮にルーツを持つ方に対する差別という、若干内容の異なる二つの問題があり、それぞれについて考えていく必要があると思いました。こういう感想が寄せられております。このあたり、先程も少しお話をいたしましたが、噛み砕いてソン先生にお話をいたただけたらと思います。

ソン先生 はい。ご質問有難うございました。確かに、この私が先程お話しした、朝鮮という国の名前に関する問題で、結局のところ、朝鮮、あるいは朝鮮人全般に関わる、これは植民地の時代から連続と続いている民族的な葛藤、差別の問題と、もう一つ、こちら、ご指摘にもありますとおり、今の朝鮮の政治的な状況を反映した、二つのレベルの問題なわけです。この、朝鮮という言葉を使う使わないというこの問題で、現にこの二つの要素が混ざったというか、二つの層の上で進んでいっていることです。確かに、それぞれについて考えていく必要があるというのは、確かな話だと思います。ただ一つ、このご質問ご意見で私が補足しておかなあかんと思う点があります。どこかと言いますと、北朝鮮にルーツを持つ方に対する差別というところなんです。在日朝鮮人・韓国人のなかで、今の北朝鮮地域出身の人は二パーセントと言われています。残りの九十八パーセントの人が、南朝鮮、即ち今の韓国の領域から来た人なわけです。それで、よく混乱するのが、朝鮮籍という、あの籍に関する話ですけれども、朝鮮籍という、これは、日本政府が設定した、設けた、国籍分類と

いうよりは、何と言ったらいいんでしようね。

仲尾先生　これは、記号というふうに日本政府は言っております。一九四七年に、外国人登録令が出たときに、朝鮮半島出身者は全部朝鮮、台湾出身者は本土出身者を含めて全部中国として登録しなさい、こういう勅令が出たんです。これが根拠になつてるので、韓国の場合は後に国交回復後、あるいはその前から大韓民国国籍として登録する人が出始めまして、現状のようになっていくわけですが、朝鮮のままでいる人が一九五二年以降、そのままでいる人が便宜上、朝鮮籍と言つているので、まだ日朝国交が回復しておりませんから、いわゆる北の共和国の国籍を日本政府は認めようがないので、これは国籍ではありません。だから記号だということに言つた、その時点のものが今も生きていると考えていいかと思ひます。

ソン先生　有難うございます。なので、日本でよく誤解されるのは、外国人登録証に朝鮮つて、なつている人は全て北朝鮮の支持者であると、国民であると、いうふうに、誤解をする人が多いんですけれども、実はあれも複雑な、いろんなタイプの人を含んでいくわけです。朝鮮政府は、朝鮮民主主義人民共和国政府は、この日本の法務省の見解とは別に、朝鮮という国籍を設定しているわけです。それで、在日朝鮮人は全て朝鮮国民である、いうふうな見解をだしています。それは一九六三年でしたつて。朝鮮民主主義人民共和国国籍法ができた時の見解です。それは未だに踏襲されています。それで、こういうふうに、本国である朝鮮側からも、朝鮮という国籍は実は付与される。それで、日本の法務省でも韓国とは別個に植民地時代に朝鮮から来た人たちは、分類を朝鮮という分類にしてある、と。なので、この日本の法務省の朝鮮籍の見解の範囲内で話をするならば、自分は朝鮮民主主義人民共和国の国民であると考えている人もいます。一方、自分は朝鮮民主主義人民共和国の国民ではない、但し植民地前、分断される前の朝鮮にルーツがあるというふうに考えている人もいます。例えば、詩人のキム・シジョンさんとかは、そういう見解を何べんか新聞のなかでも語つておられます。そうい

う考えを持つてはる方です。他にも、いろいろな朝鮮というあれに對して、いろいろな位置づけを自分なりにしてはる方はいらつしやると思ひますけれども、すみません、ちよつと話がわけわからん話になつてきてますけど、まとめます。なので、北朝鮮にルートを持つ方に対する差別というのは、ちよつと誤解を生む恐れがあるので、今私がお話したとおり、普段、朝鮮籍と呼ばれている人のなかにも、いろいろなタイプがおるといふ話です。すみません、まとまつていなくて。

仲尾先生 はい。有難うございました。

先ほどレジュメに基づいて、ソン先生が詳しく説明していただきましたように、朝鮮民主主義人民共和国の国名を、マスコミが全く使わなくなつてしまつたのは、実は、あの拉致事件の公表以降のことですね。それまでは、そのとおり、やや長い名前ですがちゃんと国名を書いておりました。ところがそれ以降全く消えてしまつて、北とか北朝鮮いうことになつてしまつております。これはやはり緊張してしまつた現在の日本と北朝鮮との関係のなかで、マスコミがとても大きなイメージ操作をしていると、私は思わざるを得ないんです。その結果として、朝鮮という言葉が憚られるようなそんな雰囲気が出てしまつています。

しかし、まだ希望はないわけでもないのです。例えば、韓国に行きますと、ホテルやそれから新聞の名前でも、朝鮮という名前を使つたものがありますね。それから、韓国の観光宣伝、国のポスターですが、モーニング・カームという英語が書いてある。朝のきれいな、素晴らしい、鮮やかな国だという意味です。朝鮮という言葉の響き、その名前の意味は全くその通りなので、そういうようにきちんと意味を理解している人も韓国の国民のなかにもおられるということです。そして、私は朝鮮通信使の研究しておりますが、最初は今から十数年前、韓国では、朝鮮通信使という名前が、なんとなく憚られる雰囲気があつたんです。ところが最近はどう、そういうことは全然消えまして、朝鮮通信使の行列のパレードがプサンで行われたり、あるいは朝鮮通信使学会という学会ができていますね。ですから、まともに使おうという雰囲気は韓国のなかでも出てきて

おりますし、また日本のなかでもやはりきちんと使うべきところはきちんとして、本当の名前でつかっていくということが、政治的な緊張を我々市民の側から、緩和していく、そういう力添えになるのではないか、というように思いました。

最後、カン先生にお尋ねしたいんですが、学校において実際に本名で通している子どもはどれくらいいるのか。また、その子どもたちは、実際にいじめなどの問題が生じる場合が多いのか知りたい、こういうことですのでお願いいたします。

カン先生 今日、ちよつと手元に資料を持ってこなかったんですが、一番最近の京都市立小学校の資料で、外国籍児童が本名で通っている子どもたち、確か十数パーセントだったと。十二、三パーセントでしたか。十年前、二十年前の資料に比べましたら、本名で通う児童はちよつと増えてきて十パーセントを超えているという現状があります。但し、これには但し書きをしなければいけませんので、では本名の子どもが増えているのか、実は子どもの数自体が減ってきております。全体として非常に少子化が進んでおります。そのなかで、外国人児童の減少率というのをもっと急激なんです。先ほどソン先生ももっと朝鮮人の子どもがいるかな、在日の子どもがいるかなと思っていたら、少なかったというお話をして下さいましたが、近年帰化をされる方が多いというのと、それと、国際結婚される方が多い、要するに日本人と結婚する方が、今もう八十パーセント以上、在日朝鮮人の九割近くが日本人と結婚しております。そうすると、その間に生まれた子ども達は、国籍、日本国籍を引き継ぐことになります。二重国籍の場合が多いんですけども、二重国籍にしても日本国籍を引きついでいるわけですから、学校に入ってくるときには、日本人として、先生方には、この子、二重国籍ということが全然わからない状態で入ってくる。九割近くが日本人と結婚しているということは、その子どもの世代になつたら、国籍の上では、朝鮮籍、韓国籍の子どもたちが今もう激減しているという、そういう状況があります。だから、その激減しているなかで、本名の割合がちよつと増えているので、実数では実際のところとても

少なくなつてきているのではないかと思ひます。その子達は実際にいじめなどの問題が生じる場合が多いのか。こういうのは、なかなか統計があることではないので、そういうものに基づかないで、いじめが多いんです、なんて言うのはかなりいい加減な言い方なので、ちよつと難しいなあと思ひますが。ただ、実際に私の子どもも本名で学校に通つていじめられたり、また私の友人の子どもさんなんかも、名前のことからかわれた、どこからいじめという言葉を使うべきかなども、ちよつと言葉、名前のことだけでからかわれただけなのか、そのへんの線引きも難しいですけども、そういうトラブルはたくさんお聞きしているというのは確かにあります。ただ、最近の韓流ブームのおかげで、逆にその名前かつこいい、とか、いい名前やね、とか、うらやましい、とか言われることも増えてきたつていうことを付け加えさせていただきたいと思ひます。

仲尾先生 はい。有難うございました。

以上で、会場のみなさんご質問、ご感想と、それに対する三人の方々のお答えを全部致しました。今日は日本人の先生ではなく、在日の先生にご登場いただいたんですが、皆さん方、特に日本の方は、また、日本人の先生とは違う視点からの見方ということで、また新たな勇気をいただいたような気が致します。そんな意味で、私達はこの日本社会のなかで圧倒的にマイノリティーではありますけど、定住して、こうして学校現場でも活躍しておられる方が、おられることによつて、学校現場が少しやっぱり活気づいているんじゃないかという思いも致します。そういう点ではお三人の貴重なお仕事だったと思ひますし、そのことが、このように、大変勇気をいただいた原因にもなつていのではないかと思つています。

それでは、時間が少し超過いたしましたけれども、今日のセッションはこれで終わらせていただきます。ご清聴有難うございました。

司会 有難うございました。次回ですけども、来週金曜日二月十三日、「日本の学校を選択しなかつた、私と私

の子どもの場合」について、お二人パネリストをお招きしてお話を聞きたいと思えます。また同じくこの場で二時から始めたいと思いますので、またご参加を宜しくお願い致します。本日お話をいただきました四人の先生方に拍手をお願い致します。

第二回 「日本の学校を選択しなかった私と  
私の子どもの場合」

パネリスト

浜辺 佳子氏（日本）

金 秀煥 氏（在日三世）

コーディネーター

仲尾 宏 氏（京都造形芸術大学客員教授）

二〇〇七年二月三日（金）実施

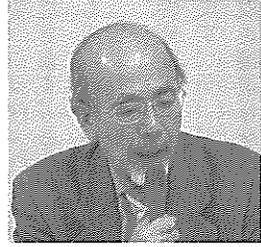


ただいまから、「チヨゴリときもの」十四回第二回目を開催いたします。本年に行う連続フォーラムは一九四六年からはじまりました民族教育六十周年を機会に学校や教育を軸に四回にわけてお話をいただいたております。六十年の間、社会の変化とともに、在日の方の年齢構成も変化し、多様な考え方が生まれてまいりました。第一回目は、学校現場に携わる三名の方をお招きし、お話を伺いました。本日は、「日本の学校を選択しなかった私と私の子ども」をテーマに、二人のパネリストの方にお話をいただきます。

今回のお話の背景となりますこれらの学校は、民族の継承を発展し、歴史や文化を学ぶ場として設立されたという経緯を持っています。それでは、本日のパネリストとコーディネーターをご紹介します。お一人目は、京都国際学園に通学するお子さんの日本人のお母様、浜辺佳子様です。国際学園は以前の韓国学園で、〇四年春から一条校（学校教育法第一条に該当する学校）として開設されています。そこを選択された経緯や思いを交えてのお話を伺います。お二人目は、幼稚園から大学まで、朝鮮学校に通学されたご経験のあるキム・スファン様。そしてコーディネーターをお願いしておりますのは、先日引き続き、京都造形芸術大学客員教授、仲尾宏先生です。一部が終了いたしましたら、お手元にございますご意見、ご質問の用紙に、ご意見を頂戴したいと思っております。途中に、事業記録のために、後ろから写真を撮らせていただきます。どうぞご理解賜りますようお願いいたします。それでは、先生宜しくお願い致します。どうぞ、前のほう、空いておりますのでお座り下さい。

仲尾先生 それでは早速、今年度二回目のフォーラムを開催させていただきます。今、司会の岡村さんからお話がありましたように、今日は「日本の学校を選択しなかった私と私の子どもの場合」と、こういう議題であります。





仲尾 宏氏

こういう方は、非常に少ないですけど、しかしながら、今、日本の全体の状況を見ると、日本人でない人、あるいは日本にルーツを持たない人で、日本の学校へ行っていない人がある程度おられます。ちよつとその数字を最初に紹介しますと、今、日本で外国人として暮らしている、つまり、外国人登録をしている人のうちで、子どもの数、小学校、中学校の児童生徒の数ですが、日本の小学校へ通っている子ども達は四二、七一五人。これは昨年の五月の学校基本調査の統計です。四二、七一五人のうち、中学へ通っている子どもたちは、二〇、四〇四人と

いうことになります。この人たちは日本の学校へ通っているわけですが、外国人学校へ通っている人たち、この人達の数は、二四、二八三人となっています。全体の傾向から申しますと、昨年十二月、今からいうと、一昨年末ですが、二〇〇五年末の外国人登録者総数は二百万人を超えております。つまり、外国人としての登録者、日本にいる外国人はどんどん増えている。日本で暮らしている子ども達の数もまた、増えております。ところが、外国人学校に行っている子供の合計は二四、二八三人で、これは少し減っております。減っている理由のひとつは、日本で暮らすんだから、日本の学校に行かせているという方が増えているのもひとつですが、もうひとつは、この外国人学校というカテゴリーが問題でして、いまここに挙げている外国人学校というのは、各種学校として承認されている学校ということになります。具体的には、お手元の資料にも書いておりますが、全国で朝鮮学校が約七十校あります。その七十校の校名があります、一つだけ抜けておりますが、一の三ページ、東海地方がございしますが、東海地方、愛知県からずつと始まりますが、一番最後のところが、印刷が消えておりまして、四日市朝鮮小中級学校というのが、読みにくい、消えておりますので、東海地方の一番下の欄に、四日市朝鮮小・中級学校をお入れ下さい。こうした朝鮮学校が約七十校ございます。それから、この朝鮮学校は全部が学校法人立で、各種学校として扱われていますから、先ほどの二四、二八三人が入っております。それからここに入らないのは、ブラジル人学校でございます。これは最近ブラジル人が非

常に増えているということ、皆さんご存知の通りですが、約九十校あるんです。

ところがその、ブラジル人の子ども達が行っている学校はいづれも各種学校ではありません。いわば私塾、あるいは英会話学校のようなものなんですね。これは各種学校になるについては、校地、校舎が自前であるか、長期借用、借地権を持つているか、ということが条件になっておりまして、今のブラジル人学校というのは、概ねが倉庫や工場、民家の一室を借りている、そういうった状況で開かれております。京都にはございませんが、滋賀県ではラテン学校という名前のところもございしますが、こどもやっぱり未認可なんです。だから、そういうブラジル人学校、私塾のようなところは、先ほどの二四、二八三人に数えられていない。ですから、これ以外にやっぱり少なくとも恐らく一万人から二万人くらいの子ども達が、実質的にはそういうった私塾に通っていると、そういう状況がございします。

それから、もう一つ複雑なのは、その各種学校にも関係いたしますけども、日本の学校教育法は、三つをカテゴリーの学校にしています。一つは、一条校。学校教育法第一条に定める学校。これがいわゆる公立・私立の学校ですね。小・中・高・大とございます。それから、もう一つ、八十二条の二項。これは専修学校です。いわゆる専門学校ですね。それから、三番目のカテゴリーが、八十三条で、これは各種学校ということになります。三つのカテゴリーからはずれているのが、先ほどのブラジル人学校等ということになります。問題は一条校にならないで、八十三条校になっているのはなぜかといいますと、一条校になるには文部科学省が出している学習指導要領に基づく教育をすること、それから、カリキュラム編成は、それに準ずるもの、こういうふうになっています。ですから、外国語で、例えば英語や朝鮮語、中国語、ポルトガル語で教育をするということになると一条校に入れないんです。だから、各種学校で運営されている、こういうことになります。一条校になると、例えば、校舎の建て替えという時には、国庫融資、国のお金が五十パーセント、これは無償で済みます。あとは、私学振興財団から、利子付きですが融資を受けて、いわば自前のお金がなくても、校舎の建て替えが出来ると、いうこともございます。それから、国からの運営費の補助もございます。公立学校へ行ってい

る子どもについては、年間百万円くらいの国費がかかっている、こういうことになりましたが、そういうものが支給されます。ところが、各種学校の場合はそういうものはございません。それどころか、指定寄付金制度とか、特定公益推進法人の税制上の優遇措置もないのです。つまり保護者の方が、自分の子どもの行っている学校のために寄付をする。寄付するとそれは全部、会社の場合でいうと、益金勘定になりまして、税金の対象となる。ところが、一条校だと、例えば京都のある私立の学校に寄付しようとするその場合、損金対象となつて経費として落とせる、と、こういう措置があるのですがそういうものもない。そういうところから、この各種学校の運営についても非常に経済的に負担になっております。そこで京都韓国学園は一昨年から、いろいろ長い間苦慮をされたあげく、韓国語で授業をするというのをやめて日本語で授業をする、韓国語は、外国語の一つとして子ども達に学んでもらう。つまり、授業時間がうんと減るわけです。そういう形で、心ならずも、一条校にかわつて、そして、名前も京都国際学園の中学校、高校と、いうように変わりました。その結果として今日お越しの浜辺さんは、日本人で、子どもさんもちろん日本人ですが、この学校へ子どもを行かせようということ、行かせられています。そんなわけですから、学校の基本である財政的な基盤が、このような日本の学校でない学校は非常に厳しいと、全く未認可であるブラジル人学校もそうですし、朝鮮学校の場合も、各種学校であつたとしても、先ほども申し上げましたような、補助金とか、あるいは税制上の特典が少ないか、あるいは全くないために、非常に厳しい運営を強いられているということが実情でございます。京都には朝鮮学校が三箇所ございます。それから、元韓国学校であつた京都国際学園がございます。このほかに、英語で授業をするという、そういう学校、いわゆるインターナショナルスクール、これが京都に一つございますが、これも財政的に大変困つておられて、西陣の、ある小学校が閉校したので、そこを間借するというかたちになつた。もうひとつは、フランス系の学校で、やっぱりフランス語で授業するために同じように間借りして授業を続けておられる、こういう学校もございます。今日は、このフォーラム全体が、在日ということが、おおきなしりばりですので、そうした欧米系の学校のこととはひとまず置きまして、元韓国学校であつた京都国際学校に子

どもさんを、日本人であるけれども通わされている、そういう浜辺さん。もう一人は、民族学校へ行かれていたキム・スファンさんのお話をお聞きすることになります。

いろんな資料がほかにもございますが、今日のことに関連するのは、この前もお配りしました在日韓国・朝鮮人関係略年表という年表がございます。これも少し説明しておきますと、年表が一九一〇年から始まっている表側の頁で、この一九四五年を見ていただきますと、三行目、各地に国語講習所、民族学校設置がはじまる、とあります。ところがこれが、GHQによって解散命令が出ました。これが一九四九年のことです。それで、そういう民族学校に行っていた朝鮮人の子供たちは、全部日本の学校に就学義務があるとされたのです。それで、日本の学校へ行くことになりました。ところが、

一九五三年を見ていただくと、文部次官通達で、韓国・朝鮮人の子どもは義務教育の就学義務なし、こういう通達が出ています。すると日本の学校に行っている子ども達は行き場がなくなる。それで、民族学校を続けなきゃいけないということも、当然のこととして当事者の間で生まれました。それから、義務教育の就学義務なしというのは、この前申しましたけれども、子どもにとっては義務教育ではないのです。教育を受ける権利が子どもにはあるんです。ところが、こういうような言い方をされるといったどこに行つていいのかわからない、こういうことになってしまいます。そんなわけで、これ以降、日本の学校での在日コリアンの子どもの居場所が非常に、座り心地が悪くなったという状況がでてまいりました。一九六五年を見ますと、文部次官通達で、民族学校の各種学校認可を認めない、日本学校で受け入れよ、とこういうふうになってきます。そういうなかで、在日児童の特別教科の課程の編成を否定する、つまり、韓国・朝鮮語の文化や歴史、あるいは言語を学ばせようと、そういうことが出来な





浜辺 佳子氏

くなってしまう。こんな経過をたどって参りました。誠に、朝鮮学校といい、韓国学校といい、苦難の歴史を歩んできたということができるとおもいます。一九九〇年代に至ってから、ようやく少し緩んで参りました。裏の頁になりますと、例えば、一九九八年に、日本弁護士連合会、日弁連が、政府と国会に対して、民族学校卒業生の国立大学受験資格と寄付金の助成等についての勧告書をおくりました。でもこれもすぐには実現されません。二〇〇〇年になりまして、民族学校卒業生の大検受験資格について、文部省は、日本の高校在籍要件を外すと決定いたしました。つまり、民族学校の高校生が日本の大学へ行こうと思うと、日本の、例えば定時制高校に在籍されて、更に大検を受けて、そしてやっと受験資格が出来る、こういうような三重のたががはまっていたんです。そのうちの、高校在籍要件を外すということになりました。更に、二〇〇三年になって、国立大学の受験資格について、文部科学省は、欧米系及び韓国学校などの受験資格を認めるということにいたしました。ところがここでも、イデオロギーのバイアスがかかりまして、朝鮮学校については、個々の大学が受験生の申請により許可の判断を行う、と、こういう決定をしたんですね。しかしながらその後、ほとんどの大学、国・公立大学は、朝鮮学校の学生の受験については認めるということをやってきておられますので、今ではこういった面での制約は非常に弱まっておりますけれども、基本はやっぱりそうした学校の運営が大変難しくなっているということとは、変わりはありません。そういう長い戦後の六十年の歴史を、日本の学校でない外国人学校は背負っておられると、そういうことを含めて、今日のお2人のお話をお聞き下されば結構かと思えます。それでは最初、浜辺佳子さんからお願ひ致します。

浜辺氏 只今紹介いただきました浜辺佳子です。宜しくお願ひします。

この、今日の題名にもありますように、「日本の学校を選択しなかった私の子どもの場合」っていうことなんですけれども、私は今ここへ来てよかったのかなど

いうふうには思っているんです。それはどういうことかと言うと、どうしても国際中学校に、行かせたかったわけではないんです。あえて、国際を選んで行かせたわけではなくて、ごく自然に他の私学とか、公立の中学校とかと同じようなかたちの選択肢の一つとして、国際中学校に行かせたという、たまたまの出来事なんです。だから民族学校をなんとか残したいとか、あえて韓国の民族学校を選んだわけではなく、行かせているということ、まず最初にお伝えしたいと思います。それなのに、何故ごく自然に国際学園に行くことになったかという経緯をお話させていただくことで、私の子どもの場合ということにしたいと思います。

まず、私は大阪の出身で、結婚して京都に来たんです。たまたま、東九条という在日の多い地域に、たまたま市営住宅があたって住むことになりました。仕事をしたいということがあったので、まず保育園探しからはじまりまして、一日の起きている時間ほとんどが保育園で過ごすということですから、これはあえて選ぶという思いでした。これに関しては、ごく自然じゃなくて、何件か保育園を見て歩きました。その時にたまたま出会ったのが私の子ども達が行った保育園で、その保育園は、子ども達一人一人を大事にしてくれはるというような、すごく暖かい気持ちにさせる保育園で、ああ、気に入ったという感じで決めました。そのころはまだ、待機とかいうようなことがなく、自分の希望がかなえられるような時代でしたので、その保育園に行かせたのが縁の始まりだったんです。その保育園は、東九条のど真ん中にありますので、在日の人達が、そうです、私のイメージとしては半分くらい、本当は三割とか四割らしいんですけど、イメージとしては半分くらいが在日の子ども達で、あと日本人の子ども達、ダブルの子ども達もいる。自然に韓国語の挨拶があったり、先生方も、キム先生とかチョン先生とかの在日の先生方もいらっしゃいました。その保育園のなかで、子どもはごく自然に日本人も韓国人も朝鮮人も何人も関係なく過ごしてきたと思うんです。保育園っていったら、親は送り迎えするだけのつながりということが多くんですけど、その保育園では新聞委員会というのがありまして、年間3回か4回くらいのペースで新聞をつくるんです、親が。それは、保護者全体に配って、もちろん先生方にも配るんですが、その新聞委員会というのが、いわゆる親同士の集いの場であったんです。ただ単に

集いというだけではなくて、例えば自分はいつから本名で生きるようになった、その時の生みの苦しみというか、本名で生きていかなかった自分はこうだったけれども、本名で生きるということはこういうことなんだというような話し合いを、真剣に子どもをそこらへんで遊ばせながら、真剣に話しをするというつながりをもつことが出来ました。そんな中で、被差別部落も隣接している地域ですので、自分が被差別部落のご主人の所に嫁いできた時に、親から反対されたとか、自分は初めてこの地域に来た時にこんなふう思ったとか、「こんな話聞いてもいいの?」「あなたのそんな話聞かせてもらってもいいの?」っていうような話をする会になったんです。そこで、送迎だけではない、もつとそれ以上の関係が出来ました。親同士の関係が出来るとは、その子にも反映し、子どもも仲良くなつていったと思つていきます。その日常のなかで、日本人がとか韓国人がとかいうことは全然子どもにとっては関係のないことで、煌びやかなチヨゴリなんか、うちの子ども達は大好きですし、着せ替えごっことかは、取り合いをしてチマチヨゴリを着ているというふうな、それがごく自然の日常でした。私が子どもの頃は、自分の子どもの頃を考えると、母方の実家が、猪飼野の、大阪の在日の多い地域、コリアンタウンが猪飼野の地域にあつたんです。そんなことで、在日の人と会うことは、割とあつたんですけれども、やつぱり違和感はずごくあつて、もちろん両親やおじいちゃんおばあちゃんからは差別しなさい。あの人は特別な人です、みたいなことは一切教えられなかったのですが、だから、私としてはそういうふうな育てられなかったとしても、ちよつと一緒には遊ばれへん人やとか、仲良くできひん人やというイメージを持つて育つた憶えがあつたんです。だから教えないことで、子どもに染みついでいくということはやつぱりすぐたくさんあると思うんですね。そういうことを、全然関係なしで生きている自分の子ども達を見て、これは大事にしなあかんやつて、せつかくそういうふう自然体で暮らしていることを何とか守りたいという思いが段々強くなつてきました。大体一般的にピアノをやつていたりとか、バイオリンを習つていたりしたら、すごいなあ、そうなん、つて言われるけど、チャンゴ叩いているつて言つたら、ええ、チャンゴ?いう感じで、なんで日本人のあんたが?というように言われるんですね。やはり韓国の文化、朝鮮の文化を馴染んでいるつて

いうのは、やつぱりちよつとどこか差別があるのか、何でなん？て言われていたんですね。でも、子ども達はもう全然そんなことを感じていないので、それを私は大事にしたいと思いました。

そのころ丁度二年前、中学に進学するにあたって地域の公立中学校に行くか、私学を受けるか悩む中、子どもは国際に行こうという気持ちが見えなくなりました。でも、自分の目で見なかつたら不安なので、どんな学校か、ということでも体育祭、文化祭を観に行きました。私は観に行くまでは国際中学校になった以上、日本人も受け入れて、ちゃんと日本人も韓国人も朝鮮人もみんな一緒にという甘いイメージを持って観に行つたんです。学校の中はコリアンタウンで、「何この匂い」、と思つたような、キムチの匂いなのか唐辛子の匂いがし、運動会がはじまつても全部韓国語でべらべらべらつて挨拶しはつて、なんか、国際いうても、国際ちゃうやんみたいな感じで、かなり私は引いて帰つてきました。こういう状態をどんなふうに感じるんかなあと思つて見ていたら、子どもの方は、「そりあそうやろう」って言ってます。だから、それに違和感を感じるわけでもなくてすごく自然で別に受けとめていました。そんな子どもに後押しされて、この学校を選んだということになります。

子どもがそういうふうには、感じるように育つたのは、私の子育てのしわざなんです、実は国際中学校に行つている子どもは三番目の子どもで、一番上が今年成人式を迎えて二十歳になります。私の子育ては、二十年前から始まつたということになるんですけれども、その時に「どんな子育てをしたいのか」私が思つたことを少しお話させていただきたいと思います。

まず、生まれつき右腕がなくて、右手がありません。三歳の頃から義手といういわゆる補装具を付けていたんです。その補装具はまさしく裝飾で、使えるものではありませんでした。だけれども、ぱつと見、両手があるという人間に見て欲しいという親の願いから、三歳のときから義手を付けていました。夏も長袖で、一年中長袖で暮らす、友達と海とか行つても、長袖のパーカーを着て海岸で座つています。お風呂には入らないついでに、片手でも出てくると義手を外すことが禁止されたような生活をしていました。片手でも出てくると

で、何の不自由もなく暮らしていたので長袖での生活になんの違和感もありませんでした。けれども大学生になつた頃、「なんでこの使い道の無いものを、体に負担が掛かるにもかかわらず、それをずっと付けているっていうのは、一体どういうことなのか？」と考え始めました。「じゃあもう外そう」と、私は障害者やからと言って、自分を卑下しているわけでもないし、隠そうとしているわけでもないの、自分自身が障害者を差別している気持ちもないし、される覚えもない。「じゃあもう外したらいいやん」と。しかし、外そうと思つても、それが、なかなか外せない。なぜ外せないのか？悩みに悩んだ末、ああつーそうか！「自分の中に差別する心があるんや」、自分が自分を差別しているから、堂々と片手で生きていくと、このことを選べへんのや、普通の人間、健常者という肩書きを持たないと生きていかれへんという価値観が自分のなかに一番あつたんやというのが分かつて、やつと外す決心をしました。日常的に外したのが、子どもが妊娠したのがわかつた丁度今から二十一年前です。子供を産む限りは、どんな子どもが生まれてきても、自分の子どもとしてしっかり受け止めて育てたい。ありのままに、片手である、在日である、被差別部落の出身である、そういう本人の努力でどうしようもないことで差別されながら生きていく世の中はおかしい。その社会の基盤がおかしいんやから、その基盤を変えていく生き方をしたい、そういう子育てをしたいと思ひました。今までは、健常者というか、両手のあるような顔をして、装飾の義手を付けて暮らしていましたけども、自分が、片手で生きることが、たいそうに言えば、生きる意味があるし、そういう人が生きていくことを世の中に出すっていうことが、私の使命かなというふうな思つて子育てを始めました。

その人がありのままに暮らせるような世の中をつくる人になつて欲しい。お互いがお互いのことを認め合える、口先だけじゃなく、認め合える人になつて欲しいということ。それは、「差別してはいけません」等と教育現場で言つても、実際、親の仕草や言葉じりや社会の流れによつて、子どもは差別をする気持ちになつて育つていつてしまい、簡単には差別がなくならないと思つています。だから、あえて言葉に出して、あえて意識して育てようと思ひました。二十年前。保育園の話に戻るんですけど、保育園は、在日の子ども達も、そこでは

被差別部落の子ども達も、障害を持つているダウン症の子ども達も、保育園は受け入れていましたので、いろんな人達が混在している場所でした。もちろん、いろんな人がいはるといふことは、問題も一杯あるので、いろんなしんどさもあるんですけれども、その中で暮らしていくというのが、私にとつては大きな意味を持つようになってきました。そういう自分の思いが、自分の子育てにも反映していったと思います。

このパネラーをお引き受けする時に、娘に、お母さんはこんなんでどうこやねん、と言うたら、なんでお母さんが行くん？て娘が言うんですね。選んだんは、私やねんから、つて言われたんです。日本人やけれども韓国学園に通わせているお母さん、かつこいい、言うて行くん？て言うんです。あ、そうか、あんたが選んだんやなあ、言うて。ほな、あんたがここへパネラーとして行くべきなのかなあという話までしてたんですけれども、国際を選んだ本当の理由を私が代わりに言うて来るわ、と言うことで、了承してもらってきました。言うて来るわ、と言ったものの、私は知らんことになってくるんですね、実はこれは学校の授業の中で、国際を選んだのは何ですか？みたいな話があったらしくて、そのときに本人は本当のことを書いたらいいんです、担任の先生にお母さんには言わんといてと頼んだらしいですけど、担任の先生が内緒で教えてくれはったんです。

その本当の理由というのが、小学校の時に、私が義手を外して障害者として生きる覚悟を持って生きてからの子どもですから、ぱつと見から、私が片手であるということは分かるんですね。その為に、子ども達はいろいろ苦労もしてきたみたいなんです。すごく自然に私の事を受け入れてくれる子どもも一杯いたけれども、始めて私と出会う子どもにとつては異物なわけですから、ひどいことを言われてきたこともあるみたいなんです。その中で子どもは、それなりに苦しんでいたらしいです。うちの家にとつては、ごく自然な事で、よくそんなことはあることなんです。お姉ちゃんが妹の話聞いてくれたり、お兄ちゃんがしゃべってくれたり、家族と話すことで、普通に受け止められていたので、本人自身はそれほど傷ついてはなかったと思うんです。むしろ、そういうことを真剣に深く考え、向き合える人がいないことが辛かった。片手であることを非難される、そのこと自体ではなく、娘の思いが伝わらない、理解されることがしんどかったようです。韓国学園に行けば、

在日韓国・朝鮮人としてある意味で差別を受け、痛みを分かる人達がいるだろう。だからその中でそういう民族的なことだけじゃなくて、自分の思いや自分の価値観や自分の生き方、お互いの生き方をぶつけ合える学校ではないだろうか、期待に胸を膨らませて入学したということです。これで、私の発表を終わらせていただきます。

仲尾先生 どうも有難うございました。ご自身の障害を持たれているということを含めてのお話でした。実は浜辺さんのお嬢さんに一度お目にかかったことがあります。というのは、去年の三月一日、この日は、韓国・朝鮮の人々にとっては忘れられない日です。一九一九年三月一日を期して、独立運動の火の手があげられました。その独立運動の宣言文を書いたのは、当時日本に留学して来ていた留学生達です。その人達が文章を書いてソウルに持ち帰って、それで運動を始めていたわけです。非常に名文です。但し、一九一九年、今からもう八十数年前のことですから、文語調の文章で非常に難しい。それが朝鮮語で書かれ、日本語の訳文もありました。民団京都府本部の三月一日独立記念式典がありまして、私も招かれて参席しておりましたけれども、その時に浜辺さんのお嬢さんが朗読されたんです。とても立派な言葉、態度でした。全然よどみなく話されたんです。前の年の四月に入って、そして一年足らずの間にそこまで韓国語を修得されて、もちろん、難しい宣言文です。

から意味のわからないところもあれば、暗記されたこともあるでしょうけども、とても素晴らしい朗読だったということは今も憶えております。その方のお母さんが、今日お迎えする浜辺さんだということがわかりまして、私も今日の浜辺さんの話しを大変今感動をもってお聴き致しました。私の蛇足かも知れませんが、報告させていただきます。それでは続いてキム・スファンさん、お願いします。

キム氏 皆さん、アンニョハシムニカ。只今ご紹介いただきましたキム・スファ



金 秀煥氏

ンと申します。私は幼稚園から、朝鮮学校へ通いながら民族教育を受けました。朝鮮初級学校には附属幼稚園というものがありまして、附属幼稚園のなかにも、年長組、年中組というものがあって、その下に保育班というのがありまして、私はそこから朝鮮学校へ通うことになりました。そこから私は大学に行くまで、朝鮮学校を出たんですが、計算してみれば十九年間に日本に住みながらも、民族教育を受けるようになりました。今回のお話のタイトルの中で民族教育を選んだ私、というふうに名をいただいていたのですが、厳密に申しますと私は四歳から民族教育を受けたので、自分で選んだというよりも、やはり親の意志があつたというふうに思います。民族教育を受ける人たちのなかでやはり一番多いのは、幼稚園から受ける方々です。その次に、小学校から受ける。そして中学、高校、また大学、今でもそういう編入班はいるのですが、やはり少ないんです。幼稚園、小学校から受ける方々が多いので、ほとんどの方々が民族学校を受けますが、自分の意志というよりも親の意志で受けているというのが現状だと思います。そういった中で、だからと言って私自身も、簡単に民族教育を受ける経緯になつたのではなかつたようです。私も物心ついた時に、親に何故民族教育、朝鮮学校に送つたのか、聞きますと、子どもを民族教育を受けさせるかさせないかで、家の中が大変だつたという話を聞きました。私の母親は民族教育を受けています。しかし、私の父親は、民族教育を受けていなかつたんです。子どもを学校へ通わせるときにどうしよう、といつて、大変な闘いがあつたそうです。私の父親方の母、おばあさんですね、おばあさん、おじいさん達の、だから私の父親の家族、兄弟の関係をみますと、六人兄弟で男が三人と女が三人でした。私の父もそうですし、私の叔父たちも、三人は、民族教育を受けていなかつたんです、日本の学校に通い。しかし、私の叔母たちは三人とも民族教育を受けているのです。やはり当時、一九六〇年代です、その当時をみますと、私のおじいちゃん、おばあちゃんも、いろんな在日一世の方だとか、いろんな知り合いの方に聞くと、本当に世話になつた人だ。いわゆる民族団体の活動家たちをすぐ手伝つてくれて、ご飯も食べさせてくれて、お酒も飲ませてくれて、またいろんなカンパもいただいで、民族学校のために活動をしてくれた、そういうおじいちゃん、おばあちゃんだつたということをよく聞いていました。そ

ういったなかで、そういう気持ちがあるにも関わらず、やはり女の、ちよつと言ひ方は変なんです、女性はとりあえず民族教育を受けて、自分たちのルーツを知ってそういう勉強をしろ、と。でも、男の場合は今の環境の中で、たださえ朝鮮人ということで差別されるのに、朝鮮学校に行つては、もつと不利になると。六十年代、あの環境、状況をみると、男は家庭を築いて子ども達を食へさせていかななくてはならない。その為には社会にしつかりと根を張らないといけないので、泣く泣く、日本の学校に送つたのではないかと、そう思います。そういったなかで、やはり私の父も日本の学校を出たので、民族教育に対する理解があまりなくて、大変母親ともめたそうです。私の父親と母親の関係、やはり、今では全然勢力関係が逆転しているんですけれども、昔は、昔ながらの家でございまして、やはり父親の意向で全てが決まっていたというぐらいの家でした。本當に食卓でも、二日続けて同じおかずが出たり、スープが出るとかいうのも、絶対にあり得ないような家で、お母さんが作つたおかずでも一口食べておいしくなかつたら、箸でお父さんがもう片づけろ、みたいな、そういうかたちだったので、そういう状況のなかでも、やはり私の母は頑なに、子どもは民族学校、民族教育を受けさせるんだ、ということ、その父の意志を折つたと申しましようか、本當に我が家のミステリーと考えられるぐらいの、今考えても不思議な状況だつたと思います。それでも、母は必死に抵抗しながら、結局は、私は三人きょうだいの末っ子なんですけれども、三人とも民族教育を受けられることになつたのです。そのことを、それじゃあ何故母の意見が通つたのかと、私は想像できないのですけれど、その当時母が意見を通せたのかと、いうと、やはり最後のきっかけは、私のおばあちゃんが私のお父さんを説得してくれたそうなんです。さつきも申し上げたんですけれども、その当時、私のお父さんが学校へ通う当時は、本當に差別がひどくて、朝鮮人ということだけでも、就職は出来なかつたり、まともな職につけなかつた、そのような状況と、僕たちが子供、僕たちが学生で学校に通うころとは、時代が変わつていんだと。自分を入れたくなくて、お前を日本の学校に、朝鮮学校に、いれなかつたわけじゃない。いれたかつたけどいれなかつたんだと。今は入れられるじゃないか、ということに、最終的には父が頑固に反対してきた民族教育を受けさせることを認めたわけなんです。

そういつたなかで、当時、私自身、そのようなことも全然わからなかったたので、親の言うがままに民族教育を受けました。ずっと小学校の時も民族教育と日本の学校というのを意識するのはあまりなかったと思います。時々やはり地元の小学校からの募集案内ですか、そういうのが来ていました。父親が、冗談なのか真剣なのか知らないですけど、来てるぞ、と。こっちに行かないか、こっちやったら家すぐそこやぞ。中学こへ行けばバス代、定期代がかかるのに。近くだと歩いていけるぞ。そうしてくれた方が楽なのに、と言われながら、言っただんですけど。僕にとつて当時としてはやはり、何て言うんですか、朝鮮学校、民族学校というのが、私達はそのをウリハツキヨと呼ぶんですけど、朝鮮学校、民族学校と呼ぶよりも、私達自身は、ウリハツキヨ、私達の学校、という意味なんですけれど、本当に自分たちのよりどころというか、自分たちの仲間と一緒に通っているそのような学校だというような、そのような認識があつたので、そこから離れるというのが全然考えられなかった、そういつた気持ちですつと通つていたと思います。

そうですね、小学校から中学にあがりまして、中学から高校にあがる時に若干、四人くらいですね。中学を卒業して高校からは日本の学校に行くんだという話をしました。やはり、そういう話、クラスでなると、みんなが寂しい思いをするんです。なにか家の事情があるのかないのか、そういうことを考えながら、日本の学校に行ってしまうの、と聞いても、これから将来のことを考えると、いうふうな答えが返ってきたり、やはり親が日本の学校に行けと言うので、という答えが返ってきたり。当時の記憶としてはそこに自分たちの踏み込めない何かがあつたのではないかと。遊ぶ時や、けんかする時は、全て本音で楽しく遊んでいたのに、その問題だけは、何か踏み込めなかつたという記憶があります。思い返してみたら、自分の無力感というんですか、何かすごく寂しいような、無力に立たされたような、弱者とまでの認識は得ていないと思いますが、そのようなすごく寂しい気持ちを持ったのは、今でも憶えています。

その後には高校に進みまして、次は高校卒業してどうするか、進路を考えたときです。ある意味やはり、小学校から高校までは、親の意向で自分がずっと生きてきたんですけど、次に高校卒業するとき、就職するのか、

専門学校行くのか、あるいは進学をするのか、というのは自分の意志になつてくるわけなんです。そういったなかで初めて自分の人生、進路を考えることになつたんですけれども、最初はやはりとりあえず生活しないと駄目なんで、どつかで働いて就職して、くらいで考えていたんですけれど。卒業間近になつてそれでは自分はどういう生き方をすればいいのか、社会に出て自分はどんな力を持つてどんなことができるんだろう。そういうふうなことを真剣に考えていくと、真面目に勉強してたほうでもなくて、また、サッカーが上手だとか、何も特技がなかった人間なので、段々不安になつて、すごく悩んでいました。悩んでいるときにある人に相談したんですけれども、自分にはやりたいこと、出来ることがあまりないんだ、どうしようと、相談した時に、朝鮮学校の先輩なんですけども、言つていただいたのは、何もすることがない、何も出来なかつたら、良いことがあるぞ、と。人の為にする、人の為になれなくとも、人の為にするということ、自分がたとえ、大きなこと、一流企業の社長、スポーツのトッププレイヤーになれなくとも、人の為にするということが、すごく素晴らしいことなんだと。その事を聞いて、それだつたら自分にも出来そうだということ、また考えました。それでは、何を持つて自分は人の為にするのか。その時にやはり何も持つていない自分でしたから、それも不安になつたり、やはり行き着いたのは、自分の中にあるもの、やつぱり自分が在日朝鮮人として育つた、これを持つて何か出来ないか、というのを考えるようになったのです。となつたら、民族学校を高校まで出ましたが、まだまだ自分は足りないのではないか、自分のことを全然わかつていないのではないか、というのを感じまして、朝鮮大学校に進学することを決意しました。その時に、でも、朝鮮大学校に行くということ、いろんな友達と話し合いながら、進路を決める最後の頃の時だつたので、そういう話をしてると、ある友達と電話でそのような話をしているときに、言われた言葉が今でも憶えているんですけれど、ずっと民族教育を受けて大学までそこに行つちゃうのか、と。お前、そういうことをしたら、視野が狭くなるぞ、というふうに言われたわけなんです。それを聞いて当時は、そうなのか、と。何か違う、というようなことは頭で言っているんですけれど、それが自分の中

で何か解らなかつたんです。そうなんだ、もしかしたら視野が狭くなるのか、と。大事な忠告として受け入れたんですけど、何か違和感を感じていました。その違和感もまとめて解決する為に、やはり朝鮮大学校に進んで、自分は勉強しようと思いました。

朝鮮学校に進んで、いろんなもの、いろんな友達と知り合うことによつて、いろんな民族の文化ですとか、歴史をもっと深く学びまして、その卒業するときにも、あまりよく分かつていなかつたんじゃないかと、今思っています。それが何を意味するものなのか。私が朝鮮人として生きることが何を意味するのか、わからなかつたんですけれども。本当にわかるようになったのは、最近、朝鮮学校を卒業した仲間達と、NPO法人コリアン・ユース・ネットワークスというのを創りまして、ハングル講座や、また日本の学校などに行つて、人権学習の時間にお話をしたり文化講演をしたりさせてもらつているんですけれど、その時に、私達が当たり前のように習ってきた言葉、私達が当たり前のように体験してきた文化というのが、すごく人に喜ばれるわけなんです。小学校で一緒に楽器を体験している子どもたちの姿、だとか、またハングル講座に学んでいた日の方の姿を見て、私達はこんな素晴らしいものを持つているんじゃないか、というのを、その時に気づいたような気がするんです。今、この日本の社会が国際化、多文化共生社会というところに向かつているなかで、こういう時に私達在日本・韓国・朝鮮人が消えてしまつたら、何の意味もないんじゃないかと。私達が消滅するとは、やはりこれからの共生社会、国際化社会の流れに逆行する流れになつてしまう。私達が民族教育を受けて、なかで育んだ民族的アイデンティティと申しましょうか、それをしっかり確立させることが、私達がこの国際化社会、共生社会で生きていく道じゃないかと。私達が、その存在自体が何か地域貢献に繋がるのではないかと、そういうふうな、考えるようになりました。今まで、私達在日本・韓国・朝鮮人というのは、日本社会の關係のなかで差別だとか抑圧、排除、そのようなイメージの中でずっと暮らしてきたのが、最近私達のことを、頑なに守り続けることが、それが、何て言うのか、そこから排除を意味するものではなくて、より素晴らしいレベルでの共生、異文化交流が生まれるんじゃないかと、そういうふうな思つたわけなんです。本当に、これ

から私達が民族教育というものをやはりずっと守っていかないとはいけません。それは、民族学校という形の話ではなくて、いろんな場で、日本の学校でもそうですし、様々な在日韓国・朝鮮人たちが自覚を持っているような教育というのは、いろんな方面で必要だと思います。そうすることによって、彼らは、私たちは、在日韓国・朝鮮人は、日本社会から孤立するのではなくて、よりよい日本社会をつくるために、よりよい地域社会をつくるために、貢献していける、それが、民族教育のすばらしさじゃないかなと、卒業しながら、卒業して、今思っています。

今、大学に進むと言った時に、視野が狭くなると言われたその言葉には、しっかり反論できると思います。私は、視野を狭めるんじゃない、ピントを合わせに行くんだ、と。ピントを合わせて、素晴らしいパノラマ写真を撮る為に、自分の事をもっとよくわからなければいけない。その為に大学に進むんだ。多分私はそう思っていた、と思います。そういうことを気づかせてくれた民族教育というものに、今すごく感謝していますし、先程いろんな苦しい歴史の中でも、民族教育を守ってくれた在日の一世代、二世の方々に、今すごく感謝をしているというのが、今まで民族教育を受けてきた感想で言えると思います。以上です。

仲尾先生 有難うございました。大変素晴らしいまとめをいただいたと思います。

それでは皆さん方のご質問、ご意見、感想、などを受けて、第二部に入りたいと思いますので、司会の方。

司会 それでは、第一部を終了致します。十五分のお時間いただきましてその間にご意見等につきまして検討させていただきます。出口の方に、この箱を用意しておきますので是非皆様、ご意見、ご質問等を頂戴できますようにお願いいたします。じゃあ、ここの所に置いておきますので、宜しくお願い致します。第二部は十五分から始めさせていただきます。

司会 宜しくお願い致します。

仲尾先生 たいへん長らくお待たせいたしました。全部で八人の方からご質問とご感想などをいただいておりますので、それを全部読み上げて、順番にご質問に対してはお二人からお答えいただくことと思います。

まず、浜辺さんへ。入学後の、子どもさんの様子をお聞かせください。キムさんへ。自分たちの存在、文化を守り続けることが共生社会の推進力となるのだと、頼もしいご意見、明るい、楽しい気持ちになりました。ありのままの自分を生きられる、そんな社会をつくりたいですね。これは、ご感想ですね。このことについてキムさんは何か付け加えることがあれば教えてください。まず、浜辺さんからお願いします。

浜辺氏 はい。そうですね、ルーツが日本だけという子どもは殆どいない状態です。戸籍上は日本になつていて、帰化された方とかはいらっしゃるんですけども、全くおじいちゃんも、おばあちゃんも、どこのルーツも日本のみという方は、中学二年の学年では、うちの子どもだけです。在日朝鮮人史という授業が、日本の学校とは違って国際中のなかにはあるんです。その授業の時に、ちよつと辛い。勿論、歴史を学んでいくんですけども、どうしても日本がやってきたことの歴史ということになりますので居辛かったです。自分としてはそんな気持ちはない、そんなつもりはない。昔々の日本がやってきた事、それはすごく反省もしなきゃならないし、そんなことは絶対に二度と起こつてはいけない、ということとは本人は思っているんですけど、「日本人としての立場がない」、その気持ちが悪くて辛いです、在日朝鮮人史の授業はすごくしんどかったです。最初の方は、ただ、それは日本人が悪くて韓国人が良いとか、誰が悪くて誰が良いとかの話ではなくて、二度と人が人を殺し合うような戦争を起こしてはいけない。人の命を守らざるして守る国はない、戦争までして国を守る必要は絶対はない。人が人を大切にするという話なんだ。家では娘に話してるんです。学校のほう

も、先生は歴史を学ぶということが基本で、その中で、日本人は日本人、それぞれのアイデンティティーを深めていきたい授業ですので、今はかえって、在日の子ども達の方がちゃんと考えてくれへん、って言うて、うちの娘は怒っています。それぐらいです。あとは、ハングルの授業は大好きで、今韓国に行っても暮らせるくらいだと思います。難しいことは分からへんですけど、ノリでかわせるぐらいの感じにはなっています。だからハングルは大好きです。在日の友達が私の家に来て、朝鮮語で「早く寝なさい、子どもは」とか言っていると、「はい」とか言っているの、多分わかっていると思います。すごく楽しんでます。人としてどう生きていくか、人がありのままに生きる為には？を考えさせられる授業の取り組みも多いですし、人権問題とかもきちり先生が向き合ってくたさるので、すごく楽しんでます。

仲尾先生 大変素晴らしい未来を、お嬢さんはつくっていらっしゃるようですね、有難うございました。じゃあ、キム・スファンさん。

キム氏 はい。今いただいたのが質問ではなくご意見なんですけど、本当に私達が在日朝鮮人の立場で皆さんに訴えたいのが、やはり共生社会を共につくっていく問題だと思います。在日朝鮮人がかわいそうだから、差別を受けているから、そういう問題じゃなくて、本当にこれから私達はこの地域社会を、本当に成熟社会と申しましょうか、健全な社会にするために、私達が共に負った義務であり、私達が共に取り組んでいく問題なんだ、ということ、必ずしも、やはり自分を認めるということが、まず始めにあり、その後、他人を認めること、になると思います。私が在日朝鮮人として生まれたのも、私が選んだわけじゃないですし、やはりそれは、自分が生まれたときにそうなっていたと。願わくは、アラブの石油王の子どもにも生まれたかったであろうし。その、いろんな恵まれた環境とか、いろいろあると思うんですけど、やはり自分が今いることを認めて、それでは今いる自分がどうしていかなければいけないのか。私ができること、やらなければいけないことを考

えることが、人間みんなに課せられている問題だと思えます。その中で、状況によってやる役割は違っても平等で一緒に頑張っている、そのような社会にみんなを取り組んでいけないと思えます。

仲尾先生 はい、有難うございました。次のご質問は、どなたという指定はございません。それから、質問は今これから申し上げますが、大変根元的な問題だと思えますので、お二人に聞くということだけではなくて、私達一人一人が自分に問い返さなければならぬ、という質問です、というふうには受け止めましたが、今日はこういうお二人にパネラーに来ていただいていますので、まずはお二人に、ご自分なりにどう考えたいかということをお聞かせいただきます。

自分のなかにある差別する心は、どうしてあるのですか。また、どうしたらなくなりますか。もう一回繰り返します。自分のなかにある差別する心は、どうしてあるのですか。また、どうしたらなくなりますか。こういうご質問です。それでは二人から一言お願いします。

浜辺氏 そうですね、すごく難しい質問なので一言ではなかなかお話しすること出来ないんですけども、まず、自分のなかに、差別する心がある、ということをお認めることやと思います。自分は差別してへん、何も一緒やと思っていると言うのが落とし穴で、知らないことも山ほどあるし、まず知ることをはじめ、知った上で、自分には必ず差別する心があるんだということを認める、自分はしているんだということを認めることから、私は始まると思います。それで、自分を認めると同じくらい、きつと人のことをそのまま、ありのままに、丸ごと認めることが出来るように、これは、努力することではないかなあ、と私は思っています。

仲尾先生 ではキムさん、お願いします。

キム氏 はい。大変難しい質問なんですけど、最近よく感じるのは、差別の問題でもそうですし、いじめの問題でもそうですし、僕は本当に強く思うのは、みんな、夢がないんじゃないかな、と。目標がないのじゃないかと、私は思う時が多いです。自分に目標、夢、確たるものがないが為に、自分という存在を他者から、他者との比較の中で、自分を確立させようとして、自分を優位に立たせるために、他者を排除したり陥れる、そのような心理的作用のなかで、いじめとか差別があるのではないのかなと思うときがあります。やはりそういう問題というのは人間誰でも抱える問題だと思いますし、それに対して先程もおっしゃったんですけども、まずそれを認めて努力すること。と、本当に、人間が人間同士、お互いを見つめあて、お互いの悪い所を探し合う、そうではなくて、みんなが同じ目標を持って、同じパートナーとして出るときには、差別とかそういう問題はなくなっていくのではないのか、と。いろんな人種の人々、いろんな境遇にある人々が、共通の目標を持てる、そのような社会がこれから大事なのではないかと、こういうふうと考えております。

仲尾先生 はい。大変難しい質問ですが、お二人の思いを語っていただきました。私もこのご質問をいただき、改めて思うんですが、やっぱり私自身いろんな差別をしてきたと思います。今もしているかもしれない。しかしやっぱり、差別する心をいつも自分自身が持っているかも知れない。それはもう防ぐことは出来ないと思うんです。だから、差別を私はしない、というよりは、差別をするかもしれない、してしまうかもしれない、けれどもしそれが差別とわかれば、率直に反省する。その心を持つ、反省する勇氣を持つ。そのこと以外には、私は解決策はないのではないかと、いうように、私は常々思っておりますし、今お二人のお話を聞いて改めて思いました。これは、この書かれた方も、人ごととしてお考えにならなくてはなくて、自分の事としてお考えにならていると思えますので、この機会に、今、今日ここにお集まりいただいた皆さま方、それぞれ自問自答しながら、私、だったらどう答えるだろうか、というようにお考えいただければ、今日のフォーラムは更に有意義になるんではないかと思えます。

三番目、これは非常な具体的なご質問です。京都国際中・高校と、朝鮮中・高級学校の、学費などの格差はどのくらいあるのでしょうか。こういうご質問です。京都国際中・高については、今日の資料の中に出ておりますが、まとめて、浜辺さんから、こうですよというお話をいただき、朝鮮中・高級学校については、キム・スファンさんからお願ひ致します。

浜辺氏 国際中学校の学費なんですから、ここにも書かれていますように、授業料が一万円、学生会費が五百円、PTA会費が千円、あと修学旅行、中学三年生の一学期に行きます韓国の修学旅行の積立が五千円で、毎月一六、五〇〇円を払っています。入学金は確か、十万円くらいやったと思いますが、他の私学に比べると、授業料ないし要るお金は雲泥の差で、少ない、安くて行けます。高校に関しては、入学の時点で十五万円、毎月は、少し値段が上がっていて、二八、〇〇〇円ということです。これ以外に、修学旅行の積立、高校生も韓国に修学旅行にいきますので、多分、中学と同じくらい、毎月五千円くらいが、要ると思います。以上です。

仲尾先生 はい、それではキムさん、お願ひします。

キム氏 朝鮮学校の方では、聞いた話なんですけど、中学で月に三万円必要だということ。その他交通費だとか、給食も出ませんので、全部自己負担になりまして、他の、修学旅行だとか様々な経費で大体三千円くらい月に必要だと聞いています。高校の方は、ちよつと上がりまして、三五、〇〇〇円くらいで、やはり諸々の経費、月に三千円から四千円くらいかかると聞いています。

仲尾先生 はい、有難うございました。このことについて少し付け加えますと、先ほども言いましたように、ブラジル学校があります。これは完全に私塾で、保護者のお金だけで成り立っているもので、それもなかなか大

変なようです。ブラジルには私立学校というのがほとんどないそうです。だから、日本の学校に行くという場合、仮に三万であったとしても二万五千円であったとしても、日本に今来ておられるブラジル人の保護者にとつては、信じがたい。じゃあ、公立学校に行く。公立学校は確かに無料ですが、ところが、給食費とか、いろいろな教材費がある。修学旅行も別で。そういう余裕が、今ブラジルから来て働いておられる、共稼ぎで働いておられる方々にとつては、余裕が全くないんです。公立学校なら無料と聞いたけども、給食代が払えないからやっぱり子ども行かせることを止めた。いうことで、不登校になってしまっている、そういう話も、つい最近聞きました。確かにこのような負担、在日の方々は生活基盤が日本にあるわけですけども、それにしても大変なことだと改めて思いました。

その次に参ります。この年度末、子どもが卒業式を迎えるにあたり、日の丸、君が代のことを考えると、憂鬱な気分になるのですが、韓国や朝鮮の学校では、国旗や国歌というものが、式典などで重要な位置づけになるのでしょうか。あるのであれば、どのような位置づけにあるのでしょうか。これは、浜辺さんの場合は、日本人の保護者ですし、韓国の国旗のことは勿論、京都国際学園では使用されていると思いますが、韓国人ではないですから、日本人としてどう思うのか、これは大変難しい質問ですが、もしお考えがあればお聞かせいただきたいと思えますし、それからキムさんには、朝鮮学校における国旗、国歌の問題ですね、これがどのように位置づけられているか、お話いただければありがたいです。

浜辺氏 小学校は公立の小学校に行っていましたので、日の丸、君が代がありました。たまたま、うちの子も達が行っていた小学校は民族学級もありますし、在日の子ども達も多分京都一多い学校だと思います。そんなこともあって、日の丸の不起立、君が代を斉唱しないというような流れは歴代、学校の中で多少は残っている小学校でした。子ども達が日の丸、君が代することに、どう考えていくのかということを考えられるという意味では、良い小学校でした。そんなことで、子どもは日の丸、君が代のことを考えていましたので、今、韓

国学園に行つてからも、国旗や国歌というものがあるんですけれども、起立して敬意を表するとうか、儀式として、何と言うか、正しい姿勢には立っていますけれども、韓国旗に対して礼を尽くすという気持ちは多分、その、反逆するとか、そういう意味ではなくて、国に支配されるみたいなのが、本人としてはあまり気持ちよくないというか。国が例えば戦争して、しに來なさいって言つても、自分がしたくなかつたらやつぱり行きたくないという思いが娘の中にあるので、どう考えれば良いのか、まだまだうまいこと、こなれていないんだと思うんですけれども、なんか手をこういうふうにするんですね。国旗掲揚の時にこういうふうには子どもはしないって言っていました。歌は喜んで歌つています。

キム氏 朝鮮学校の方では、やはり日本の日の丸、君が代の問題とはまた性格の違う問題になりますので、国旗、国歌というの、そうですね、最近ではあまりされていないというイメージが、私もあります。学校の年中行事の中で国旗が掲揚されるとしたら、運動会くらいですか。今、いろんな学校を訪問しながら思うのは、国歌というの、今はあんまり歌われていないというのが、現状だと思います。今、朝鮮学校のなかでも、やはり国歌、祖国という問題も、大変難しい問題になっていますし、かたや北は朝鮮民主主義人民共和国、南には大韓民国というのがあるなかで、やはり朝鮮学校の方では、単一民族、統一民族としての思考があるなかで、片方のことをずっとしていく。しかも、子どもの前でしていくのはどうかという意見もありますし、やはり、民族的な学校というところで、やはりその国歌、国旗というのを若干トーンを和らげている部分というのは、今あります。

仲尾先生 率直に現状をお話いただきました。

この方はご自身の思いも書いておられますが、私の場合は戦前、戦中の教育を受けていましたから、そのとくに君が代、日の丸がどういうシンボルだったのか、それが染みついていて。それでやつぱり、はつきり言っ

て拒否反応を示すんですね。ですから、いつだったかある年に、ある賞を京都市から私は受けました。その時に、君が代、式典ですから全員で起立して歌うという順序になったんです。私は一瞬迷いましたけども座りませんでした。座ったままでした、それはとても勇気のいることだったのです。おそらく、現場の学校の先生は、私のような世代ほどの古い人間ではなくても、ひとつの歴史認識の問題としてこだわっておられる方も今でも少なくないと思いますので、このお気持ちはよくわかります。それでは、私は研究会、シンポジウムで時々韓国に行きますが、そういう研究会はともかく、シンポジウムの際には大勢の人が集まります。すると、いま浜辺さんが言われたように、起立して、国旗の方を見ながら国歌斉唱という儀式があります。その時、私はこれは韓国の人が自分たちで選んだ旗で、それを大事にされているから、と、敬意を表する意味で、私は起立しております。でも、そういう使い分けが果たして妥当なのかどうかわかりませんが、今、私は少なくともそういう態度を貫いております。

それでは、その次に参ります。これも質問の趣旨からいくと、キムさんへ、ふるべきご質問かと思いますが、民族学校を出て共生というパノラマ写真を撮るための焦点を合わせることができたというキムさんのお話に感銘を受けるとともに、これからのキムさんゆえの役割を果たしていける活躍を期待するものです。どうぞ私達にも、日韓に垣根を感じたりする者が多いなか、風を吹き込んで下さればと思います。卒業後、他の友人達も、韓国と関わることをされている方が多いのでしょうか。完全に日本の社会のなかで、埋もれている方もいるのでしょうか。ここで、質問の方は韓国と表現されていますが、これは韓国・朝鮮と広く考えてお答え下さい。

キム氏 はい。卒業後なのですが、割合的にどうかというのはいちよつとわかりませんが、やはり当然日本の学校と比べれば、在日の民族団体のなかのいろんな職員として働く人もいますし、あるいは卒業後、韓国の方に留学して様々な貿易の仕事をされる方もいますし、また言語を活かして、今年高校三年生を卒業する子が、

客室乗務員というんですか、それを目指している子もいますし。やはり、自分の持つているもの、言語や文化、そういうものを活かしているんな仕事についている人達もいますし。当然、日本の会社に就職して、表現がどうかはわからないんですけど、日本の社会に埋もれている人たちもいるのも確かです。やはり、在日のなかでも、本場にいろいろな人達がいますし、今は何か昔のように民族関係の同胞企業でしか働けない、とかそういうようなことは全然なく、日本の大学に進学する子達もいますし、いろいろなかたちで、自分達の持つている能力を発揮できる、そのような状況に今なっていると、思っています。

仲尾先生 多様な進路が少しずつではあるが拓けてつつあると、そのように理解していいでしょうか。ということのようです。少し展望が見えてきたような気がします。

それでは、あと三人の方のご感想をご紹介します。

まだ例は少ないのですが、浜辺さんのお子さんのような学校の選び方ができる方がおられることに、嬉しく感動しました。私は小学校の頃、一九五〇年代、田舎でしたが近所に住む韓国人一家と祖父が親しくつき合っていて、韓国の文化や風習を身近に知っていました。差別意識もなく過ごしてきました。しかし、定年後ハングルを学び、朝鮮、韓国の歴史を知るうちに、差別の起こった長い経緯の核がわかり、今更のように恥ずかしくなってきました。日本の学校で、朝鮮半島の歴史を教えないのは、大きな問題とと思っています。こういうご感想です。

朝鮮半島の歴史を全く教えないというわけではないのですが、非常にウエイトが低いということが一つです。それから、特に近代、現代は時間がないという主な理由で殆ど飛ばしてしまっている。この結果、子どもにとって、韓国・朝鮮のことがよくわからないまま、隣国であり一番近い民族であるのに、何か難しい、分からない、知らない、ということが現実ではないかと思えます。このあたり、先生方に工夫、ひと工夫、ふた工夫も、お願いしたいんですけど、大学へ行けばこういった講座のあるところもありますし、私なりに私

は私の大学でやって参りましたけども、一般にはそういう機会が、小、中、高、では非常に少ないというのは残念なことです。ところが最近ではセンター入試に韓国・朝鮮語が入りました。それで、大学でも呼び方は韓国語、朝鮮語、コリア語、いろいろですけれども、外国語の科目としてとりいれるところはかなり増えてきています。だから、これもここ十年くらいの間少し様変わりしているのではないかと思います。問題は歴史です。この辺については、今のところは自分たちで勉強する、あるいはそういう勉強する芽を見つけると、いうことしかないような気がします。そういう意味で在日の方々とこうして、直接お話を聞いたり、直接お付き合いをさせていただくというのは、日本人にとつてはとてもいい芽が生まれているんじゃないかと思います。次の方にうつります。

私自身は、たまたま国際結婚し、名字を選択し、ダブルの子を産み、日本社会での外国人の生き方を体感し、今現在、子どもの進路を迷い、ダブルの子を持つ日本人、親と会うと、共感しあっているのですが、浜辺さんは公立の小学校に子どもを通わせていた経験もあるし、あると思われるので、そことの比較があれば、教育基本法で愛国心が言われたりするのは、多文化的な世界になっていないと思うものは、すごく危惧しています。こういうご感想です。浜辺さん、もしこのご感想についてご感想があれば、おっしゃっていただけですしょうか。

浜辺氏　そうですね。私は素朴にありのままの自分として生きたいと思っただけなんですけども、そう思っただけで生きていくと、公立の小学校のなかでは、マイナーな存在になっていた、とは思っています。ただ、その思いを共有する友達が、保育園時代の友達がたくさん地域にはいて、世の中まだ捨てたもんやない、というように思いで、やってきたなあというのがあります。在日の子ども達がいっぱいいるなかであなたの祖国はどこですか、とか、日本人としてどう思っていますか、とか、いろんな質問があるんですけど、在日の子ども達がどうやってこの質問に答えるんかということへの配慮が全くないので、それはいかんということを保護者同

士のなかで話をできる仲間がいるんですね。だから、子ども達も、その辺のところは、子ども達レベルで考えているので、全て上からというか学校側の方針、教育委員会側の方針で、全部を鵜呑みにするというようなことではなく、保護者が横の関係をつながらながら、つなげながら、子どもに何を今与えていったらいいのかということとは、小学校時代はいろいろやってきました。韓国学園、というか、国際になってからは、そういうことは全然ありませんし、先生との距離がすごい、短いというか、近いんです、国際の方は。だから、本当になにかあったら先生に素直に質問もできるし、これはこう思っているんですが、学校側としてはこう思ってはらんのですか、というような話も、すごくよくできるので嬉しいです。もうこの先生がやってくれてあかんかったら、あきらめるわ、というぐらい、信頼関係があります。そういう意味では公立の小学校の時に比べて、国際の方がすごく親としては楽です。

仲尾先生 大変適切に現状をお話頂きました。前回お配りして、今回もお配りしているかもしれませんが、京都府教育委員会が、「外国人教育指針」というものを出されております。私も教育基本法が今度のようなかたちで改められた時に、一体あの、京都市の教育指針、どうなるのかな、現場の先生、どうされるのかな、ということがまず一番心配になりました。私は、国家や国家の制度を意味する、英語で言うと、ステイツ、それから、私達が生まれた風土その土地を意味するカントリーとは、ちよつと違うと思うんです。あとの方は、ぐくだれもが普通に持っている感情だと思えますし、これは在日の人にとつても、日本が、生まれた日本が、あるいは京都が親しい存在だということで、共通項はありますけれども、国家ということになるとちよつと違うんです。それを、ひとつくりに愛国心を函養するという。言葉でくくっていいのかどうか。大変、疑問に思っております。ですから、現場の先生方がこれからのようにされねばならないのか、していく上での工夫の余地はあるのかどうか、大変気になっておりますが、今のお話のなかで、特にダブルの子どもを持たれた保護者の方、あるいは、浜辺さんの子どもさんのような方がどのようにそのあたりのことを考えていかれるのか、悩まれるの

か、大変気になることであります。それはまた別のテーマですが、とりあえず今ご感想いただいたなかで、わたしなりにそのように思いました。

それでは次へ参ります。浜辺さんのお話、日本人として親としてもすごくよく理解できました。保育園のころからの体験、親の考え方、態度、言葉、様々な人々のなかで大きくなられたお嬢さんが、中学生にしてあまりにしっかりと考えた考え方をお持ちなのに感動すら憶えました。一方、キムさんは、幼稚園から大学までと、ある意味で、同じ考え方の人間の中で過ごされ、視野が狭くなるという意見には私としてもそうかも知れないと思ってしまったのですが、お話を聴くにつれ、そうではない、多文化共生社会のなかでの、なくてはならない存在、なにか目から鱗が落ちるというのか、そうなのかと、改めて感動致しました。つたない意見でごめんなさい、ありがとうございます。こういうご意見ご感想が出されました。以上で皆さん方からいただいたご意見ご感想は終わりましたが、最後にお二人にそれぞれ何か付け加えることがありましたら、おっしゃって下さい。

浜辺氏 私の話を聴いてくださって、有難うございました。なんか、上手く伝わったかどうかですがごく心配です。どんな差別もルーツは同じところにあると思っております。私はたまたま障害者問題から世の中の不合理さ、自分自身の差別心みたいなものを感じて目が覚めたので、障害者というルーツは大切にしたいと思えます。しかし、それはあくまで突破口でどんな差別も、全部根本の所では繋がってくると思っております。女性差別をだめだって、ジェンダーフリーだって言いながら、障害者差別をしているというような人はたくさんいらっしゃると思っております。それではいかんと思うんですね。たとえ自分の目の前に見える入り口から入ったとしても、内までしっかりと見ないと、それぞれがありのままに暮らせる世の中ができない限り、しんどい思いをしている人がいる、ということ、ちゃんと子どもに伝えないと、次の世代の子どもに伝えなあかんと私は思っております。今ここにいらつしやる、子どもさんをお持ちの方がたくさんいらつしやると思っております。

まず自分の子どもから、次の世代を担う自分の子どもを自分がちゃんと育てる、というか、そのことを私はすごく感じていました、せめて自分の息子だけでも、雨が降ったら、洗濯物を入れなかわって思うぐらいの生活感がある子どもに育てたいと、常々思っています。そこから、いろんな問題が解決していく糸口になるかと違うかな。一つの問題で見えたことがあっても、それは全ての問題に繋がっている。それぞれの人がありのままに暮らす、暮らしていく世の中をみんながつくっていくかな。そやけど、まだなかなかそんなことはできませんが、これはみんなの力でまだまだ捨てたもんじゃないという気持ちをもって、日々頑張っていきたいと思っていますので、皆さんも良い世の中をつくっていきましょう、とお伝えしたいです。

キム氏 私最後に申し上げたかったのも、全く、同じような問題だと思えます。在日朝鮮人の問題はそれだけの問題じゃなくて、本当に人間が抱える、これから人間が求められる姿、本来の、本来のという言い方が正しいかわからないのですが、本当に私達が目指す社会をつくるにあたって、私達の抱えている問題が即ち私達の課題であり、それを乗り越えることは、みんなに課せられた義務というか使命なのではないかとそのように思います。皆さんに申し上げたいのは、在日朝鮮人の問題、在日朝鮮・韓国人の問題を、必ず他人の問題というように考えたり、あるいはかわいそうな人達の問題、そのように考えるのではなく、本当に日本社会に内在した問題と、日本社会の歴史の中の本当に教訓として、大事なところにあるところ、それをともにやっついていく、共に解決していくそのような共同作業をこれからしていきたいと思えます。私たちにとって、私たちも定住するこの地域社会ですので、本当に皆さんと一緒にすばらしい社会をつくれるように、がんばっていききたいと思います。以上です。

仲尾先生 今日八人の方からご質問、ご感想、ご意見をいただきました。そのことよって、このフォーラムは一段と充実したと思えます。次回からも是非ともたくさんのご意見をいただくようにお願いいたします。

それでは今日のセッション、これで終わらせていただきたいと思えます。どうもありがとうございます。次回は来週金曜日同じ時刻です。司会 有難うございました。第二回の「チヨゴリときもの」終了いたします。私の子どものころー在日の子どもと日本の学校ー、をテーマにお話をうかがいます。最後にお二人のパネリストの方、コーディネーターの方に、拍手をお願いいたします。

第三回 「私の子どものころ」

「在日の子どもと日本の学校」

パネリスト

朴 熙均氏（在日二世）

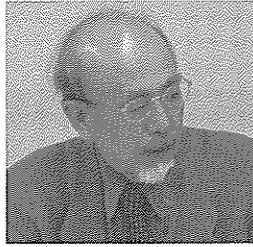
金 勇樹氏（大学生）

コーディネーター

仲尾 宏氏（京都造形芸術大学客員教授）

二〇〇七年三月二日（金）実施

司会 それでは、「チヨゴリときもの」の在日の教育と進路についての第三回目のフォーラムを開催させていただきます。本日の出演者の方をご紹介します。皆様のお手元の資料をご参照ください。まずお一人目のパネリスト、朴熙均（パク・ヒギユン）様です。そしてもう一人の方は金勇樹（キム・ヨンス）様です。また本日もじくコーディネーターとして、仲尾宏先生にコーディネーターをお願いしております。それでは今からはじめさせていただきます。よろしくお願いします。

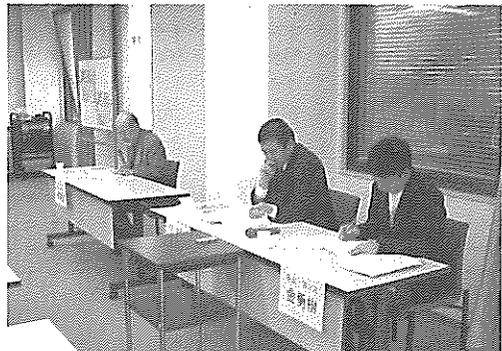


仲尾 宏氏

仲尾先生 皆さん、こんにちは。今日は「私の子どもころ——在日の子どもと日本の学校——というテーマです。今日、お二人に来ていただいておりますが、お二人は、いわゆる民族学校、韓国学園や朝鮮学校に行っておられない、日本の学校だけで、十二年間の教育と大学を卒業された方、あるいは卒業寸前の方であります。いつもでしたら大体同じ世代の方、そんなにお年が離れておられない方が並んでいただくのですが、今回はそれと違ひまして、三廻り違う、という組み合わせであります。前代未聞のことですが、それだけに世代の違いとその中で日本の学校、あるいは在日の子ども置かれた状況がどのように違ひてきているのか、ということが、逆に浮かび上がってくるんじゃないかと期待しております。詳しいご経歴については今日のお話のなかで伺います。私は今日、年表をお持ちしました。お手元にあると思いますが、岩波新書で二〇〇五年に中村政則という人が「戦後史」という本を書いています。これの終わりに、巻末に、年表が出ていますので、その部分のコピーを致しました。それを見ていただきますと、最初にお話をいただくパクさんは、一ページ目にあります、一九五六年に小学校に入られました。そのときに何があつたかと言いますと、ソ連共産党二十回大会で平和共存路線が出された。日本では「経済白書」、もはや戦後ではないという「経済白書」が出たわけです。そして、その年の年末には国連総会で日本の国連加盟が承認されたと、こういう大変昔々の時代ということになるかも

知れませんが、そういった時代に小学校に入られました。中学校に入られたのは、次のページをめくっていただいで、一九六二年のことになります。このときはいわゆるキューバ危機という事件が起こりました。ソ連がキューバにミサイルを持ち込んだ。それを理由として、アメリカがキューバを攻撃するという、非常に緊迫した状態があつた年であります。それから、高校に入られたのは一九六五年のことになりますが、このころアメリカのベトナム戦争が本格化しておりまして、二月には米軍機が北ベトナムのドンフイを爆撃して、それで、ベトナム戦争が異様な惨禍を極めた結果になりました。同時にこの年はまた、日韓基本条約が調印されました。これは一九五二年に韓国、日本と、連合国の講和が成立した後、実に十三年間に亘って、交渉があつたんですが、いつも日本側の、日本政府の発言が物議をかもし、ようやくこの時期に調印された、こういう年でありました。同時にこの内容を巡って日本でも韓国でも日韓条約反対運動がたくさん起こりました年であります。それから、大学にお入りになったのは、少し時間をおいて一九七〇年ということですが、一九七〇年、日米安保条約が自動延長した、いわゆる七十年安保の年、デモが全国で七十七万人と書いてますが、年輩の方はよく記憶に残しておられるかと思ひます。そういう年、あるいは年代を経て大学を出られたということになります。

もう一方のキムさんは、小学校に入られたのはずっと後のほうになりまして、一九八一年、もう平成になつてからのことですが、この年に小学校に入られる。この年は自衛隊が初めて海外派兵に応じて出ていったということになります。それから年末にはソ連が消滅してしまつたという年であります。そして、中学校にあられたのは、一九九七年です。



仲尾先生 それから、高校にあられた年が二〇〇〇年です。この年は、金大中大統領がピョンヤンを訪問して、南北首脳会談、そして、共同宣言に両者が署名をしました。ここから後のことは、皆さん、ご記憶に新たかと思えますので、特に用意はしておりませんが、そういう時代背景のもとで、お二人が日本の学校生活を送られたということになります。この間の在日のいろんなことにつきましては、先般、別の年表をお配りしておりますので、それを思い出しただければと思います。併せてご覧いただければ勿論結構かと思えます。

それでは最初は大先輩でありますパクさんから、この数十年のことを振り返っていただいて、私の学校時代の在日というお話をいただければと思います。宜しくお願い致します。



朴 熙均氏

パク氏 パク・ヒギョンといえます。韓国・朝鮮ではヒギョンですけれども、通常はキキンとずっと日本語読みで言っていますけれども。今、先生からご紹介いただきましたが、一九四九年、団塊の世代の最後の年ですけれども、滋賀県の大津で生まれおります。大体、私の話は全然面白くないんですけど、隣のキム君のほうがはるかに面白いと思うのですが、面白くないほう、先に言ったほうが、後が聞きやすいと思います。

在日という面では、私はそんなに変わったところはなく、一般的に在日なんか、私らの世代は貧乏というか貧しい時代でしたし、それは私が大きくなる頃、日本も高度成長の前くらいでしたから、そんな大して発展してなかったんですけども、その中で特に在日というのは、貧しくて、ごたぶんにもれず私たちも琵琶湖畔の今言うバラック建てですね、そういうところで生まれ育ちました。結婚して、二十八歳で結婚したんですけども、それまでそこに住んでいまして、大学卒業するとか、大学卒業はそこで卒業しております。ですから、小学校に入ったのが、先生のおっしゃったように、昭和三十一年、覚えやすいのは、三十一年に一年生で、一、二、三年と、割と数えやすいんですけど、ちよつと先生おっしゃったのと、

違うというか、違うことはないのですが、民族学級というのが、当時ありまして、要するに、午前中は日本の学校に行き、昼からは朝鮮語とか歴史を学ぶところにちよつと行っていました。ただ、昼からそういう所に行きますので、日本の主要五科目というか、そういうのがやっぱりどうしても授業が受けられないのです。

ですから、この民族学級というのも、行ったり行かなかったりという感じが、結局中途半端になって、正式に六年間行つたかというたら、そうでもなくて、半分くらい行つたかなという感じです。小学校はそれで、当時幼稚園が遠かったというのもあつて、また、当然金がありませんので、私らは、私の弟までは、幼稚園は行つていません。ですから、幼稚園中退とか、冗談ではなくて、全く最初から行つていません。そういう意味では、正式には私の妹の世代からが、幼稚園から大学まで日本の教育の恩恵を受けた世代です。ですから、中学校は丁度私が卒業する頃に、各地域で民族学校、総連系（朝鮮総連）の、学校が出来まして、私の、地域では、ほとんどが民族学校に行きましたけれど、私は日本の学校へ、日本の中学校へ行きました。それは一つは父親の方針ということ、父親の方針を話すと長いのですが、北朝鮮の問題ですとかいろいろありますので、はしりませんが、父親が反対したというのと、私も行きたくなかった、父親が反対したというのは、朝鮮語を覚えるくらいだったら、家でも覚えられる。そういう方針で日本の教育のほうがちんとした教育や、ということ、私は日本の中学へ行きました。そして、日本の中学校、高校、と行つたわけですが、自分は、ごく普通の中学生ですし、ちよつと変わったといつたら、高校に入りまして、私たちが在日というのは、先ほど言いましたように、そういう面で、嫌が応でも、社会的関心というのは受けざるを得ないという状況におりましたので、高校の二年の時に、朝文研（朝鮮文化研究会）というのですが、そんなのを作つたりしてやっていますし、これは無理やりというか、ラグビー部に入れさせられまして、ラグビーやったり、朝文研やったりで、高校時代は勉強そつちのけで、先生がさつきおっしゃられたように、大学へ入るのにちよつと時間かかりました。

そういうことで、大学時代も、先ほどおっしゃったように、七十年安保は私が入ったときには終わってしまして、ただ、私の学生時代は韓国のほうが政治的に流動的だったんです。一九六五年に韓日会談が終わつて、

北と南がかなり競争しだして、一九七二年に維新憲法というのが出て、朴政権の、いわゆる独裁政治が始まります。ただ私は、ついこの間まで、朝鮮籍があっただんですけれども、人脈的には総連系が多かったですけれども、総連とか、そういう組織には積極的に参加していませんでした。ですから、そういう点で、ごく一般的な在日というか、教育を受けてきていますので、隣のキム君に比べましたら、私の生活、学生時代というたら、ごくありふれたといってもいいくらいで、話す内容が不像なかなと思うのです。だから、二十分という持ち時間ですけど、そんな長いことしゃべるようなエピソードやなんか、持ち合わせていないのです。後で、質問やそういうことで。

仲尾先生 実は、そうはおっしゃいますが、いろんなご経験あると思いますが、それはむしろ皆さん方のご質問から引き出すということにしたいと思います。それでは、キムさん続けてお願いします。



金 勇樹氏

キム氏 アンニョハセヨ。キム・ヨンスと申します。今は京都産業大学経営学部の三回生。先ほど、もうそろそろ卒業とおっしゃられたんですが、まだ就職も決まっていないので、普通の三回生を送っています。今、バクさんが、こっちのほうが面白いとおっしゃったんですが、たいした話もできないんですけど、僕のような若い二十代はどういうことを思っていたのか、またどういことを思いながら、学校時代を送ったのかというのを、具体的に小学校、中学、高校を例に挙げて、ちよつと話していきたいと思えます。

まず始めに、こちらの、皆さんもらつておられるかと思うんですけど、僕のパネリストの下の段ですね。バクさんは在日二世と書いてあるんですけど、僕にはそういう肩書きが書いていません。なぜかというと、僕の

父親が日本国籍、日本人。母親が在日朝鮮人二世で京都に生まれました。なので、簡単に在日三世と書いてもいいと思うのですが、そうではないという現実、そういうような私があります。なので、肩書きはそういうかたちではなくて、何も無しになっています。

生まれてからずっと、幼稚園、小学校と進むにつれて、自分は親、家でも、勇樹、漢字を見たらわかるように、勇樹、と読めますよね。その、勇樹という名前が家では今でも呼ばれています。でも、「キム・ヨンス」という名前が、どうなったか、どういう経緯でつかっているのかというのは、後で、経緯について話すに連れてわかると思うので、今説明は飛ばしますが、そういう家で生まれました。家の周りは、パクさんと似ているんですけども、家の周りに、十何軒、十数軒の在日朝鮮人の家が今でもあります。もちろん、その、よく言われるような在日朝鮮人の部落といったような、そういうものではないのですが、今でも、家の周りの道路、そういったものは、あまり整備されていない、整備されていてもこぼこな道、そういう所に生まれ育っています。そこは京都市の西院、分かる方は分かると思うのですが、西七条のあたりにあります。そこで生まれ育っています。前置きはまだまだあるんですけど、とりあえず。

父親がマスオさん（長谷川町子『サザエさん』の登場人物）のようなかたちでうちの家に来ました。日本人の父親が来て、在日朝鮮人の母親とその母、祖母と一緒に暮らして、私と姉がいます。そのなかで、自分は在日朝鮮人ということをご昔から家ではそういうふうな教育されていて、日本人とは思わなかったんですね。家では朝鮮語を話すことは、なかったです。でも周りのおじいちゃん、おばあちゃんにはハルベ、ハンメと、そういう呼び方で。家のおばあちゃんにはハンメとは一切呼ばなかった。そういうような意味の分らない呼び方をしていました。親は僕が三歳の時、姉が五歳の時に、正式離婚をしたんですけど、その時に父親が出て行ったかたちになるんです。なので、今現在、在日朝鮮人として、育っているのを思いました。それが大体の僕の前置きということで、皆さんに分かってほしいと思いましたが、先にこういうことを述べさせていただきます。

今回のテーマである、教育、日本の学校のなかつていうのを、述べていきたいと思います。まず、小学校にはいつて、普通の公立小学校、七条第三小学校というところに行きました。そこでは、在日の学生が、本名は一人もいなくつて、でもその中に、日本名で行っていた子とかあわせると、小学年に大体三人くらいは常時いたという年代に僕はいました。一番はじめ、僕は日本名のもりおかゆうき、もりおかつていうんですけど、もりおかゆうきつていう名前ですか自分の名前を知らなかつたんです。でもなんで知つたかというつと、小学校三年生のときに、総連が行つている朝鮮学校のその時は高三のお兄さんお姉さんが朝鮮語を教えてくれる場があるんです。それは夏季学校といいますが、夏休みに一週間から二週間あります。そこに、小三の時にはじめて行つて、自分がキム・ヨンスつていう名前も持つているんだ、ていうことを知りました。僕はいじめというか、差別というものを、そこまで、ないだろうと思ひながら、周りの友達には、自分はキム・ヨンスつていう名前もあるんだ、キム・ヨンスなんだつていうことを言つて、ハングルで書いたりとか、小学生とか珍しいものが好きなので、ずっとアピールというか、ずっと話していました。ある時、小学校五年生くらいの時に、いじめを受けていました。そのいじめというのはいろいろあつたんですけども、そのいじめがそういうふうな発展していつたかというつと、差別に繋がつていきました。自分から朝鮮人というつことは言つていたんですけど、そういう人権学習を京都市は積極的に行つていけるにも関わらず、ただ単に、自分が周りの人とは違つていうだけで、朝鮮人とか、朝鮮帰れとか、キムチ臭いとか。あんまりキムチ食べた覚えがないんですけど、キムチ臭いとか、そういうことを言われ、やっぱり自分を否定するようなことの事件がありました。その後、母親が出てきて、みんなと、いじめというか差別をした加害者と一緒に話すことによつて、それは解決されたんですけど、その時に担任の先生から



言われたのは、ただ単に、いじめとか差別があつたからということとで終わらせたらよかつたのに、なんでお前は、君は、自分から朝鮮人や、キム・ヨンスということを名乗るのか、と。お前は日本人じゃないか、日本国籍だから、日本人じゃないか。そのように言われました。やつぱりそのなかで、自分つてものを、それまでは全然差別とか受けたことがなくて、差別だと思わなかつたことは確かやし、その、どういつたらいいでしょうか、その先生に言われるまでは自分はおかしいんだと思つていました。でもその先生に言われた時に、やつぱり自分はおかしいのかなと、思つてしまうような事件が小学校五年生のときにありました。そのときは本当に落ち込んだんですけど、落ち込むだけじゃあかんと思つて、それはほつとこうと、ほつとこうというか、自分のなかでそういう話は闇に葬ろうというかたちで、何もかも忘れるようにしていました。最近、こういう場とか違う場でもそうなんですけど、話す時に、話すことになつて、こういう先生に言われていたことを思い出して、今現在、今ちよつと言おうかなと思つて話しました。

段々話は進むんですけど、中学校になつて、他の小学校から登校というか、中学には集まるんで、そういう人達がいつばい来て、在日朝鮮人、いわゆるルーツを持つという在日朝鮮人つていうのは、五人くらい、学年に五人くらいはいました。言つていない子もいるし、本名じゃないんですけど、明らかに本名とわかるような、明らかに在日朝鮮人としていつている子達とか、ちよつと下の名前が読みにくい子とかいて、僕は自分から在日朝鮮人と言つていたので、逆に、俺も在日朝鮮人なんや、私も在日朝鮮人なんやで、と言つてくるようになって、大体五人くらいは最低いたのではないかと思ひます。そういう中学、中学は七条中学という普通の公立の中学に行つたんですけれども、そこで、またそことか、高校でもそうなんですけど、先程、小学校の時に行つていたハギハツキョ、夏期学校というものの繋がりたいな感じで中学一年生から青年学校、チョンニヨンハツキョというものが、総連の各支部であるんです。これは、週に一回、夜に集まつて、ハングル教室とか韓国語教室、朝鮮語教室というものなんですけど、そこに行くようになりました。そこで知り合つたソンベ、先輩ですね、先輩に誘われて「学生会」というものが在日朝鮮人の、日本の学校に通う在日朝鮮人の中学、高校

生が対象になつてゐる学生団体があるんです。そこに通いはじめました。ただ単に、それまで、僕が入るまでは、民族学校以外と言つてたんですけど、何故か僕が入る年くらいからは、いわゆる京都の方ならみんなわかつちと思ふんですけど、いわゆる韓国学園の子達もはいつて、参加するようになっていきました。この「学生会」という活動を中学一年生から行つていました。あと、中学は普通に行つたんですけど、中学から高校にあがる時、もう高校の時点でちよつと就職のことを考えていたんです。というのは、自分の家はそこまで裕福な家ではないというのと、片親というのでそんなに裕福ではない、公立の学校しか行けない、大学なんか行けるもんじゃなくと思つていました。だけど母親からは、おまえは大学まで行けと言われていて、大学なんか京都やたら京大とかあるんですけど、そんなところ行けるわけがないと勝手に思つていた、というか、絶対に無理なんですけど、そういう国立しか行けない、大学に行こうと思つても、そういう国立というか、国公立の大学しか行けないんじゃないか、というのを考えて、高校は商業高校、今は名前が変わつたんですけど、西京商業高校に入學しました。

やつぱり、僕らの時代つてそんなに差別を受けることもないですし、就職とかも、貧乏、貧乏というか、そこまで裕福じゃなくても奨学金でどうにかなつていけるんですけど、だけど親から昔から家にお金がなくて、そして祖父母は年金をもらつていなくて、母親自体は、大企業に就職したんですけど、差別とかもあつたんですけど、たまたま大企業にはいつて、プラス副業でいろんなところで夜は働いたり、東京で出稼ぎをしている、そういうことをしてるつていうことを聞いたので、自分には出来ないんじゃないかなと思つて。やつぱり姉も、高校を卒業してすぐ就職したんで、大学なんて行けるもんじゃなくないかと思つて、商業高校に行つてすぐ就職するものと思つていました。

高校生の時はいろいろ考えることもあつたんですけど、一つ大きな事件としては、高校二年生の時に、自分がダブル、日本人と朝鮮人のダブル、昔はハーフつて言つたんですけど、今はダブルという表現を使います。なので、今もダブルという表現を使うんですけど、そのダブルつてこと、ただ単に自分の名前、もりおか勇樹

で本当にいいのか。ダブルであつても、民族名でいってもおかしくないんじゃないか、ということをおかしくもないんじゃないか、というように変えるようにしました。ちよつと話したことの一例をあげると、ハーフからダブルっていう言い方に変えるつてことについて、ちよつと同世代の子と話したんですけど、ハーフっていうのは簡単に言ううと二分の一。二分の一の足す二分の一は一じゃないかかっていう感覚、半分と半分が重なつて一になるんだっていう感覚が、ハーフの言い方だと言うのですが、僕はどうでもいいのですが、ダブルっていうのはどういふものかについて、ある子が言ったのを例に挙げると、ダブルっていうのは、二倍っていう意味ですよ、その二倍っていうのが、幸せが二倍、いいところが二倍あるんじゃないか。日本人のいいところ、また在日朝鮮人のいいところが二倍になるんじゃないかということをおかしくありません。でも僕はその時すぐ、返答したことは、幸せが二倍かもしれないけど、その分考えると、苦しみ、かなしみ、しんどいことも二倍あるんやっていうことを言つたんです。ほんまに、その当時は自分が日本人としてまた在日朝鮮人としていられる自分っていうのは、いなかったんです。どつちかに偏るっていうのは、多分、偏るっていうのは出来ても、どつちか融合させるつてもは多分無理と思ひますし、その時考へたのは、加害者で、簡単に言ううと、植民地時代のことを考えると、加害者である日本人と被害者である朝鮮人の真ん中にある自分っていうのはどういふことなのか、を考へていました。でも自分は、その環境の家で生まれたが、周りには朝鮮人ばかり、自分は日本人として育てられなかつたので、在日朝鮮人としてしか生きていかれへん、生きていこうということとその時改めて思ひました。また、もりおかつてものを、もりおかつていう日本名を捨てるつていうのは、はつきり言つて親が付けたものではないんですけれど、世襲つていふか、父親もそのときいなくなつたんで、はつきり言つて使わなくてもよかつた、親と話したりとか、周りの人と話をしていても、自分はキン（金）でいつたほうがいいのか、また、「もりおか」という日本名でいつたらいいのか、また下の名前も勇樹でいつたらいいのか、またヨンスでいつたらいいのか、ほんとにそういうとこでずつと迷つて、でも、高校の間はとりあえずもりおか勇樹という名前で学校には行こうと、民族団体ですね、こういう「学生会」という所ではそういう名前で行こうと。中途半端かもしれないで

すけど、一生懸けて自分の中で結果を出して行こうという考えでいました。で、そうですね、小学校、中学校、高校と上がって行く中でよく教育の話をするんですけども、教育、学校の授業で歴史とか人権学習というものは、皆さんも受けてこられたと思うんですけども、僕たちもちゃんと受けてきました。歴史って言っても、僕たちが在日朝鮮人の歴史というのはどういうものかを知ってほしい、日本人にもどういうことを分かってほしいというところ、一番具体的な例としては四五年以前から戦後すぐ、朝鮮戦争が始まるまでのことをやっぱり知ってほしい、第二次世界大戦からのことを知ってほしいんですけども、中学、主に中学ですね、高校では世界史とか、そういうことはやらないんで、中学とかでは、先生の裁量に任されているとは思うんですけど、もちろん、でも僕の中学ではあまり第二次世界大戦以降というものは勉強しなかつたんですね、そういうことを今までではそうやってなかつたということを先生に話すとそういうことおっしゃっておられたので、自分は在日朝鮮人だし、まわりにも在日朝鮮人が一杯いると。五人いたらやっぱり歴史もちゃんと学ばせるというのも必要じゃないか、また人権学習を月に一回あればいいという人権学習の時間だけで歴史がちゃんと学べるのかっていうものを考えると、それでは無理なのでやっぱり歴史の時間でもそういうことをしっかり学んでほしい、先生からもちゃんと教えてほしいという事を先生に言うようにしていました。それが実は小学校の時から小中高全て先生に直訴というか、言っていました。ほかにその当時ですね、中学三年生の頃は、大学、民族学校の大入学入試資格、大学入試の問題とかが中学三年生位の時から上がってきて高三ですね、僕が高校三年生の時に一部解決したんですけども、そういう署名活動をただ単に在日朝鮮人の当事者だけを対象にしてやるんじゃない、日本の人達にも知ってほしいし、日本の人達にも署名を集めに行くようになりました。その中で僕がやった事は、僕一人でそんなに大きい事は出来なかつたんですけども、学校の先生とか、学校の友達とか、そういう人達に署名を集めたりとか、また、校長先生とか教頭先生とかそういう人達にも、自分一人で署名を集めに行ったりとか、一人で活動してた時もあります。そういう歴史、歴史というか教育の中で考えたこととか、そういうことがあって、いざ、高校卒業、高校三年生の時ですね、高校三年生の時に、やっぱり自分も

つと勉強したいという意欲があつたんで、また親からずっと大学に行け、大学に行けと言われて仕方なしって  
いうわけではないんですけど、もつと勉強がしたいという意思が強かつて大学に私立の大学なんですけど、大  
学に行くことが出来ました。大学では今現在、「留学同」(在日本朝鮮留學生同盟)という所に在籍しています。  
そこでも、その学生団体の中で幹部を今でもやっています。大学の事はそんなに話さなくても教育とはあまり  
関係ないと思うんで、あまり話さないうすけど、今現在大学一年生の頃から「留学同」という場に触れて今に  
至ります。そろそろ終わりやと思うんですけど、就職の事を簡単に話したいと思います。就職活動を今現在、  
大学三年生なんですやつてるんです。就職活動で、それまで大学でも「もりおか勇樹」という日本の名前で行つ  
てたんですけども、その時に親とか親戚です、主には親戚が金という名字をつける事について反対をした  
んです。もちろん「日本人と結婚した息子が、なんで金なんかつけられるねん」という昔からのそういうよ  
うな、いきさつがあるんですけども、そこで自分は金としては大学とか行けないんだなあと、正式な名前と  
しては行けないんだなあとということで、下の名前だけヨンスっていう名前に読み仮名、振り仮名だけなんです  
けれども、ヨンスっていう名前にしようと思つて、今現在、大学または就職活動では「もりおかヨンス」とい  
う名前で行つてます。

最終的には自分は、やっぱり日本人ではないという、別にただ単に日本人が大嫌いと、戦争で、どうこう  
したから、日本人だけが嫌いとか、そういうわけではなくて、自分はやっぱり朝鮮人、在日なんだということ  
を環境の中で思つて来たので自分は最終的には民族名で就職して「キム ヨンス」っていう名前前で就職して、  
生きて行きたいなと思つています。で、また就職活動で自分が「もりおかよんす」っていう名前で行つてるん  
ですけども、いわゆる大企業という所は行つてないんですけど、大企業へは何社か説明会とかそういうのは行  
つてるんですけど、やっぱりそういう所で、「もりおかよんす」つて言うときつい変な顔をされたりとか、今  
でも就職差別というほど、差別じゃないんですけども、目に見えない差別は、あるんじゃないかなと思つて  
ます。だからといって別に批判というか遠ざかるわけじゃないんですけども、今僕が行っているのは全てべ

ンチャー、新しい企業、百人とか二百人とかそういうような規模のベンチャー企業に就職を目指しています。また「ヨンス」って名前ってすごく珍しいんで、それを武器にして覚えてもらうのも一つの手にはなるんですけど。昔なら「ヨンス」って名前を付けたら、すごい差別とか偏見の目で見られたかもしれないですけど、現在はそういう事が全て大企業の中でも、また、ベンチャーの中でも無い所は無いですね。逆に有利になることが多くて、自分はそれで得した部分は一杯あると思います。そういうところが就職活動で今現在思っている事です。教育に関してはこのあとにしまししょうか。以上です。

仲尾先生 有難うございました。大変、内面的な思い、迷いも含めておっしゃっていたきましたので、よくお分かりいただいたと思います。では、みなさんからのご質問を受けて、お二人にまだいろいろお話をいたしてください、ちよつと枠組みの問題として、その前に私の方から、少しおたずねと説明をしておきたい事があります。まず、パクさんですが、小学校の時に民族学級に半分くらい出席されたとおっしゃいましたね？

パク氏 はい。

仲尾先生 その民族学級ですが、それは大津市内ですか？

パク氏 はい。

仲尾先生 民族学級というのは今、京都市内に三校あります。京都市の場合は、在日の子ども達、韓国・朝鮮籍の子ども達を正規の授業時間の時に選り出して、そして別に朝鮮語あるいは文化を教えると、そういう事で

教育委員会では抽出学級、取り出すという意味で、抽出学級、そういう名前でされております。

パクさんの大津の民族学級というのは、大分昔の事になりますけれども、同じ形でしたか。そうじゃなくて希望者だけですか。

パク氏 無論、希望者だけです。ですから私も入ったり行かなかつたり、姉も入ったり行かなかつたりです。基本的に昼から、午後からですね。午前中は、いわゆる日本の学校に行つて、昼から朝鮮学校に行く。別のクラスがありまして、同じ学校の中にそこは一つか二つぐらいの教室がありまして、そこで六年生まで朝鮮語や、歴史とかを教えていました。

仲尾先生 それは、今ちらつとおっしゃたけど、朝鮮学校、むこうへ行つてということなんですか。それとも学校の中に小学校の中にそういうクラスがあつた？

パク氏 日本の小学校の中にです。

仲尾先生 中であつたんですね。分かりました。はい。それは、京都と同じ方式ですか。

パク氏 京都の例は存じ上げませんが、四十何年前、日本の学校の中にはそういう形で、例えば大部分のクラスが日本の学級で、他のクラスが一つ二つ民族学級ですね。学校でなく学級です。

仲尾先生 分かりました。一方大阪では在日の子供でも希望者だけを放課後にやるところがあつて、それがかなり今も増えてるんです。そういう放課後ということではないんですね？

バク氏 放課後ではないんです。ですから私もね、日本の授業も受けられない、なんと中途半端、だからといって朝鮮語の教育も中途半端ということで父親が言葉習うくらいやったら家で教えたということでリタイアしたわけなんですけど。

仲尾先生 わかりました。どちらかというところと京都の形に近い、あるいは同じかもしれないですね。それとも一つは民族学校に、中学校の時ですか？お入りになるかどうか、これはやっぱり大津の朝鮮学校に行くかどうかという選択の時にそういうご判断だったんですかね？

バク氏 ええ。ですから詳しく説明すると時間が長くなりますので、ですから私の姉が北朝鮮に帰国してすぐ亡くなっているんですね。その辺のいろんな話は、話が長くなるから、はしりますけども、そういう北の体制に対する不信感いうのを父親は持っています、ですからそれもありましたし、私自身も中途半端な教育やったら日本の学校行った方がましやないかということで、日本の中学校に行ったわけなんですよね。

仲尾先生 はい。わかりました。それから高校の時の「朝文研」ですけども、これは在日の人だけが作った研究組織でしょうか、日本人も入ってたんでしょうか。

バク氏 いや、入っていません。要するに、どっちかというところとオルグされたという形ですね、彼もいつてしましたけども、総連関係の人にこういうのやつてみないかという事で、その時は私は民団、総連関係無しに、うちの高校自身は在日少なかったですね。うちの学年は多かつて三人、下の学年は二人、一級上は一人ですね、全部あわせて五、六人ですね。ですからその四、五人が集まって文化祭の時に展示をしたと。その程度ですけどね。ただ、それでも学校はかなり反対しましたけどね。はい。

仲尾先生 これは高校時代ですから、かなり昔の事になりますが、その後、大学ではそういった「朝文研」、「朝問研」、「韓文研」、色々出てきましたけれども、高校ではバクさんの世代では、その高校だけではなくってその世代常に幾つかの高校であったんでしよう。

バク氏 京都にも既にいくつかあったと思います。ですから、いわゆる一つの、思想的な事が絡みますけれど、一九六七年に北朝鮮が自主独立路線という事を標榜しまして、その絡みもあって民族の主体性を確立するという事で積極的に高校生までオルグしていったと。そういう時期に重なります。ですから、ただ私も関心を持っていましたし、朝鮮籍でありながら北の体制は、金日成を批判していましたが、民族的なものはいいじゃないかという事で韓国籍の連中らと一緒にやつたと、要するに総連系の組織とは違いますけどね。

仲尾先生 はい、わかりました。そういう組織だそうですね。それからキムさんがおっしゃった「留学同」ですね、これは私の理解では、朝鮮総連あるいは、北の共和国ではですね、在日コリアンは全て朝鮮民主主義人民共和国の公民であると、従って日本に定住し、日本で生まれた在日の子どもであってもそうであるから日本の大学に留学してると。こういういう建前で在日朝鮮留学生同盟という名前が付いてるんでしようか。

キム氏 そうですね、在日本は付かないですけど、先生がおっしゃられたように、僕は海外青年同胞団ということを言っていて、それ自身に別にその深く関心とか賛同をしなくても自分達がどういう状況に置かれてるか、在日朝鮮人学生が本当に思う事、私達高等教育を学んでるからこそ、どういう事を思うのかという事を考える場所が「留学同」という所だと認識してやっています。昔、バク ヒギョンさんが居た時、居たというかその頃とは、たぶんちよつと感覚が違うかもしれないですけど、はっきり言って民団系、総連系また違う在日の民族団体にそういうふうにしてる親またその子供、親がいてもその子供は、別に「留学同」って所に居たりと

か、ほんまになんか、大人の勝手なルールですけど基本的にはそういう概念で活動していますね。

仲尾先生 念のために申し上げますと今おっしゃった通りで、留学生というと海外から日本に来てる学生を留学生と言いますが今のご説明の様に、それではないので、韓国から今日本に来ている学生が留学生同盟に入っていることはまずないと思います。それから北朝鮮とは、まだ国交が回復しておりませんから、北からの留学生は日本には今一人もおりませんね。ですからそういう点で留学生同盟といっても全て在日の学生である。そういうことです。

パク氏 私も学生時代は一応「朝文研」と言いましたけども、誘われて「留学同」の活動にも顔を出した事があります。ただ、基本的には先生がおっしゃった様に北系の総連の傘下団体やということでも金日成批判するんですね。そうすると疎んじられて、一応入ってはいましたけども、ちょっと距離を置いていた。私の子供が三人居るんですけど、上が娘二人、下が一人男の子、今彼と全く同じ歳で私三回り違うんですけどね。一番下が男の子なんですけども、上二人は一応「留学同」に顔は出していました。「留学同」というのは基本的に総連の傘下団体ですから同盟員になるということは総連を支持することやと、私らの時は割と頓着しなかったですからね。今はつきり色分けされている面はありますので。ということでは私は釘を刺したら二人とも友だち作りはしましたけども同盟員となつて活動は無かった。私はそれで良かったかなと思つています。朝鮮の友だちもいっぱい出来て仲良くなつて、典型的な例が、こういう例があるんですけどね、良く言われる例で、私の親の世代は仮に日本のサッカーチームがフランスのチームとやつた場合、親の世代はどつちを応援するかいうたら、日本は絶対応援しないんですね、フランスを、敵の方を応援するんです。私の世代は日本とアメリカ、日本と外国がやつたら日本を応援します。うちの子供も小さい時はやっぱり日本を応援するんですね、仮に日本と韓国がやつた場合は日本を応援するんですね。ただ、大きくなつてくるとだんだん、色んな事に目

覚める事によつて日本と韓国・北朝鮮とした場合は日本を応援せずに韓国か北を応援する。そういう意識の変遷というものはあります。ですから、私の娘は二人とも顔を出してはいたけれど、思想的なことでもなく、同じ同胞の友だちを作るといふ意味で大学の四年間参加してはいました、とゆうのが彼女らから聞いている実情やと思います。で彼が言うように割と熱心な生徒もいると思えますけども、そうでなくて日本の中で色んな差別がありますのでね。そういう仲間が欲しいという意味で、「朝文研」に顔出ししたり、「留学同」に顔出ししたり、日本の公安辺りは「留学同」と言うたら、総連支援のバリバリの活動家みたいに思つてはいますけども、決してそういう人たちばかりではないということをや彼に代わつて説明しておきます。

仲尾先生 はい、有難うございました。そういう組織の問題、思想的な問題は複雑で色々交錯しておりますが今のお二人の説明で流れがどうなつて行くかということをお話をちよつとつかんでいただいたんじゃないかと思ひます。そういう事を前提にしてこれから皆さんの方でお二人に今までお話になつていた事の中のさらにもう少し話して欲しい事、あるいは細かく聞きたい事、あるいはもつと思ひを述べてほしい事、そんな事を中心にご質問、ご意見を賜ればいいかと思ひますのでよろしくお願ひします。

司会 有難うございました。みなさまのお手元にご質問ご意見用紙があると思ひますので、そちらにお書きになつて机の上の箱にお入れ下さい。

パク氏 教育と直接関係無かつたので触れなかつたんですけども、皆さまお手元にパンフレットというか冊子ですね、尹東柱（ユン ドンジュウ）といひまして同志社、裏表紙の所に詩碑の裏面と書いてある所に書いてあるんですけどね。尹東柱はコリアの詩人で一九一七年十二月三十日中国吉林省龍井郊外の明東村に父尹永の長男として生まれて、ソウルの延禧専門学校に学んだ後、一九四二年、同志社大学文学部に在学中の一九四三

年七月八日に思想犯として京都下鴨署に検挙され、一九四五年二月十六日福岡刑務所で獄死した鮮烈な民族愛とキリスト教信仰と、心やさしき童心とが溶け合つた尹東柱の詩は、同胞ばかりではなく民族を超えて人々の心を打つ。尹東柱を偲びこの詩碑を建てるものであると。これは、同志社大学のキャンパスの中に立っているんですけども、私が詩を建立するリーダーと言うか、事務局をしていたということもありまして、ただ、話し出したら長くなりましてので簡単に読ましていただいたんですけど、中に書いてあるページ数も無いので、もし興味のある方は読んでいただいて、今、チョンさんが持つた本はこれを記念して出版され、あとがきに私が経緯とか全部書いていますけども、これはちよつとただで差し上げるわけには行きませんが、これは同志社が記念して作ってくれて、詩碑を見に来る人たちに配ってくれている物です。昨日、大学へ行つて貰つてきたんですけども、「星うたう詩人」ちようど二千元で、日本に於ける尹東柱の生き方とか色んな事が書いてあります。もし、ご関心のある方が居られたらお買い求め下さい。端数は切り捨てて二千元です。

司会 それでは第二部を開始しますので宜しくお願ひします。

仲尾先生 ご感想並びにご質問をいただいておりますので、お二人を中心に答えさせていただきます。最初の質問はこの会場のことです。「縦並びの机の配列が良いです」。この会場はこのように横広がり、セッティングにしていますが、昨年からこのようにいたしました。つまりパネリストと聞いていただく皆さんとの間が出来るだけ近い方がいいという事で、本来はこちらがメインのテーブルになつてゐるんですが、このように変えてみました。お褒めをいただきましてありがとうございます。それから具体的な内容の方に入りましょう。

これは、ご指名が無いのでお二人に答えていただきますが「自分がその立場にない為実感する事が出来ない

のですが、在日の児童が学校で本名を名乗って通う事は難しい事でしょうか。また在日の児童が本名で通える環境をどうすれば作っていけるでしょうか。非常に大きな問題、しかも昔から語り継がれている問題ですが今日でもこの問題は、やはり大きな問題であると思います。バクさんからお願いします。

バク氏 私のケースと言いますか、私と私の子供のケースでも若干違うんですけど、私の場合は父親が一世という事で小学校の時から本名で行っていましたし、大学卒業するまで本名で通してきました。ですから、ただ、あとの問題とちよつと関連するんですけども、就職がありませんので何か自分で商売しなければならぬという事で、当時は本名で商売出来るかどうか日本の情勢は甘くなかったですので、いわゆる通称名を使って名刺を作つて、商売を始めました。ですから子供の場合は、それも含めて子供を育てる時は日本人の集落のどつぶりど真ん中にいましたので、どうしようかと迷たんですけどね、その時、私の父親ですね、日本名でもいいんちやうかなという事で、上の子らは日本名で行かせましたけども大学入つて先ほど言いました様に「朝文研」とか「留學同」とかそういうのに顔を出す事によつて、カミングアウトとか本名で、大学の途中から本名で行くこと事になりました。三番目の息子は今、通称名で行っていますけどもどうするかというのは本人に任せてます。

キム氏 はい。まず初めの学校で本名を名乗つて通うことは難しいのでしょうかっていう問題なんですけども、二世と三世なんですごい差はあるんですけども僕の周り、僕自身もそうですし、周りの事を、話したいと思えます。僕の周りは、基本的には通称名、通名ですね。日本名で皆さん通っています。その中で一つ大きい例を挙げると、卒業式に京都は全てでは無いんですけども、大体在日の子は二枚の卒業証書を貰うんですね。正式名称の本名、朝鮮名が書かれてる卒業証書と、通名、日本名で書かれた卒業証書の二枚を貰う事になってるんです。その時に貰うというだけではなくて、卒業式で名前を呼ばれる、小学校・中学校位までなら全て名

前を呼ぶと思うんですけども、その時にどっちの名前を使うかという事を先生が、担任の先生が話される場があります。たぶん感覚としてわからないという事をおっしゃられていてるけれども、大体その中でも、九割位はそのまま日本名で卒業式もいくんですけども、卒業式自体だけでも自分から、親が話すとかじゃ無くて、自分自身から朝鮮名でいきたい、卒業式は朝鮮名でやりたいという子ども達が一割位は僕の周りには、いました。本当に難しいのかと言われたら、別に難しくは無いです。自分から偏見を持つてる子もいますし、でもそうでは無くてただ単に親から言われた、親が日本名を付けたから本名、朝鮮名ではいけないという子達もいますし、また親が民族的な教育を家庭教育でもなされてるところであれば本名でいつてる子もいっぱいいます。本名といつても日本語読みっていうパターンもいますし、様々いるんですけども今現在ではそんなに難しい事では無いと思います。京都市では、教諭では無いんですけども先生の中にも、小学校の先生の中にも本名で勤められてる方もいますし、やつぱりそんなに今現在は、難しい事では無いと思います。

また本名で通える環境をどうすれば作っていけるのでしょうかという問題もあるんですけども、作っていくというよりは僕の場合でしかいえないんですけども皆さんの意識をどう考えるか。ただ単に生徒児童という子達にちゃんと教えることも必要ですけどもそれより保護者の教育というものがすごく大事なんではないかと思えます。僕にはそれくらいしか考えられないんで、これで以上とさせていただきます。

仲尾先生 今のお二人の説明でバクさんの場合はご自身のご家庭での体験から基本的に子供たちに任す。という方針でやってこられたわけですね。それから全体状況は今キムさんが非常に明確にお話いただきました、私も大体おそれるような状況だと思います。どのような環境を作っていくかということですが、これは在日の人の気持ちという問題もありますけど、日本人と日本社会が逆にどうして在日が本名を名乗らないのか。あるいは名乗れないのか。ということを考える課題ではないかと思うんです。制度上は今も仰ったように何の問題もない。けれども名乗れない、名乗らないという無言の強制がまだあるのではないか。その事が今一番大き

いのではないかと思えます。いまキムさんが就職活動で自分の名前をそのまま使ってダブルとして就職したいということをお話しますが、こういう例は非常に少ないんじゃないかと思うんですね、つまりこれは学校や家庭ではなく会社あるいは企業の考え方でですけど、そういうことも色濃く反映しているということが言えるのではないかと思えます。

パク氏 当然個人的な問題もありますけど、社会的な環境というのが大きく左右すると思えます。ですからわれわれの育った学生時代というのは北朝鮮もそうですし韓国も遅れた国やと、まして私が学生のときの韓国は朴大統領が暗殺されて新聞からは、悪いニュースしか日本では報道されなかった時代ですからどうしてもわれわれ在日についても萎縮する感じだったんですけど、一九八八年の韓国でのソウル五輪以後日本人の中でも若干見直すようになってきたと。現在はそれこそサムソンとか世界的な企業になってきて日本の中でライバルになってきている。そういう面で日本の中で多少見直し作業が進んでいると言った要素があると思えます。ですからある面でもつちでもええと申し上げたのは、日本人の意識が若干変わってきたから私が小学校・中学校、私自身は直接差別を受けた気がしないんですけど、私らが小学校・中学校で受けた差別、社会的な面で圧倒的な重圧があったのは事実ですし、そういうった面で日本の情勢とか世界の情勢が変わったことも結構あるんじゃないかと私は思っています。ですから本名を名乗る、名乗らないにしてもそういうった社会情勢を踏まえて、たとえば日立製作所の就職差別事件の裁判闘争とか、典型的な例としてはソフトバンクの孫正義が本名で帰化したとか、つい最近ではアジアオリピックの李忠成（リ・タダナリ）が本名で帰化したとか、そういうった時代の流れでも若干あるのではないかな。と私自身は思っております。

仲尾先生 有難うございました、それでは次へ行きます。つぎはキムさん。「家庭のお話で申し訳ないのですが、ご両親が離婚しておられなかったらキムさんの中でダブルの意識に変化があったのでしょうか？将来伴侶を求め

られるときがあれば、国、あるいは地域にこだわられることはおありでしょうか？」というご質問です。宜しくお願いたします。

キク氏 はい、まずはじめの両親が離婚していなかったらダブルという意識は変化したか？という事なんですけど、はつきりって父親は朝鮮特有の法事ですね「チエサー」には一切関与していなかったもので、しかもよく分からないですけどただ単にキムチが嫌いだったんやと思うんですけどキムチを祖母がつけているのを冷蔵庫に入れていたら怒ったり、違うところに入れてると怒ったとか、二階に台所があつてその裏に下の庭に続く階段があつてその二階においてもおいがするからやめてくれとか、ただ単に周りに朝鮮人と結婚しているのがばれたくなかつたのか、周りに朝鮮人ばかりだったんですけど、何考えているか分からなかつたんですけど。そういうところでやっぱり民族的な場には父親は一切関与しなかつた。それが父親のほうも両親がどういう関係かというのに関係あるんですけども父親のほうの母。父方の祖母は皆さん知られていると思いますがウト口。皆さんウト口知っていますか？ちよつと簡単にいえるか分らないんですけども、現在は個人の居住権ということで争っているんですけども、ちよつと前には、数十年前には日産車体があの土地を持っていました。日産車体自体がウト口の土地を持っていたわけではなくて、日産車体の社宅の地主がウト口の土地を持っていたんです。その土地を持っていた一族が私の、父方の祖母なんです。父方の祖父は戦争当時に呉で生まれて呉で育つて戦争に行つていないんです。なぜ戦争に行つていないかというとおそらく戦艦大和のようなもの設計士という親なんです。その後お互い結婚して日産車体の幹部にもなつたような人なんです、詳しく調べたわけではないんですけどもそういう話を聞きました。そういう子で別に結婚したんだから差別をするわけではないんですけど民族的な場は否定できないような父親でした。なのでもし父親が離婚していなくなつたとしてもやっぱり自分は朝鮮人として育てられたと思ひますし、日本人として育てられたことは一切なかつたので今現在と変わらなかつたのではないかと思ひます。またそのあとの国あるいは地域にこだわることはおありでし

ようか？ということなんですからけれども僕自身国や地域というものを定義するのは研究者でもなんでもないので難しいんですけれども、ただこだわりたいのは民族というものにこだわりたいな。と思います。はつきりって国や地域でこだわると言うよりは国と地域は日本と朝鮮とか中国とかの関係もあるんで、昔からずつと仲悪かったわけではないのは皆さんお分かりだとは思いますが、やっぱり国とか地域そういう形上のものでなくって民族というものにちよつとこだわって生きて行きたいなとは思つてます。以上です。

仲尾先生 はい。有難うございました。それではその次に移ります。バクさんは大学に行かれたとの事ですが、昔は大学や大学院をでても就職がなく、家業の焼肉屋さんで一日中肉を刻んでいたという話も聞いたことがあります。バクさんはどうでしたか？バクさんのお嬢さん。息子さんのときはどうでしたか？こういうご質問です。

バク氏 一応大学を出たということになってはいるんですけど、私が大学出たのはトラックに乗ってスクラップ屋ですね。それに乗って学費稼いで卒業していますし、今の話で大学出ても彼（キム氏）は今就活していますけど我々の時には就活なんて考えられませんでしたし、だからゼミの先生が他の学生には就活の話をするのですけど、友達が先生に頼んだらどうやと言うのですけど、頼む気もなかったんです。ゼミの先生はともかく当時はまず就職というのは考えられませんでしたから、話もせずに終わりました。我々のときはどの大学。私は同志社ですが、東大出ようが京大出ようが就職先は日本の会社はまったくありませんでした。理科系は一部ありましたけど私の出た文科系はほぼ全くありません。ですから就職するとしたら在日のパチンコ屋さんとかちよつとした民族団体の企業といったところですよ。ですから私はそのままスクラップやつて二トン車でスクラップ買いに走り回るような生活しています、一九四九年に卒業しているんですがそのとき石油ショックで暴落してやることないし、ちよつとした金で不動産やつたりごちゃごちゃしたりで今に至っているわけで、い

い例か悪い例か分からないんですけど私の高校の後輩で京大の工学部出た人がいるんですね。京大出ようが一緒ですしね、就職がなかって、あるマスコミに行ったんですね。そしてらドキュメンタリーか何かで流されて京大の工学部出たにもかかわらず、場末の鉄工所で働いている。と、それ聞いた我々の周囲は、あいつはアホちゃうかと、それを売り物にしているという意識でしたから。ですから就職差別は腹立ちましたけど、それからといてどうこうという問題ではなかったです。ただその後には日立製作所就職差別事件というものがありまして、在日の青年が日本名で日立に応募したところ、履歴を偽ったといわれて採用内定を取消しになったんですね。その就職差別の裁判闘争を経て、一つのきっかけで有力企業の差別が若干緩和された事実があるので、彼らのやったことは私にはある面では考えられなかったということではあります。ただ先ほどもありましたように在日やからと完全オープンにはなつたわけではありませぬ。現状として就職差別はあると思います。娘二人の場合には在日は差別がありますので何とか専門職に、ということでも専門職志向が強いんです。ですからウチの娘二人いますけど。上の娘は英語の先生、下の娘は薬剤師ということでも手に職つける方向で何かと、親父を見ているのでそういう方向に進みました。専門職ということで私の後輩も弁護士なつていくわけなんですけど、本名で開業すると客がつかないんですね。私の事務所の近くにも本名で医院を開業している人がいるんですけどね。私は決してその先生は腕が悪いとは思わないんですけど、やっぱり客はつかないです。そういうった面でも差別はまだ残っていると私は思います。

仲尾先生 キムさん。今就活中とのことですが何か差別は感じました？

キム氏 先ほども言ったんですけど、大企業に関しては少し差別があります。目に見える差別としてあります。どういう事かというと、私自身ではないんですがある先輩がよく言われるような金融系ですね。銀行に行ったときに差別というか普通に内定はもらつたんですが本名で行くと言つた時にそれは、ためだ。といわれています。

ただ単に日本で生まれて日本に育つて日本の大学を卒業したのに、キムだとかリーだとかパクとかそういう名前をつけて就職したいと言っただけなのに、それはだめだ。といわれて内定を取り消された先輩もいます。金融系には最近でもよく差別があるといわれているんですけど、やっぱり昔に比べたらそこまで厳しくはないです。実際その先輩も一流の証券会社に本名で就職されています。なので実際目に見える差別というものは少なくなっています。また目に見えない差別というものがあると思うんですね。先ほど僕が言ったように僕自身が「ヨンス」と名前を振り仮名で打っているだけで変な目をしたりとか、また「ヨンス」と呼びにくいから日本名のモリオカだけを言ったりとかそういう人事の方がたくさんおられます。基本的には最近はないとは言いたいですね。自分自身がまだそんな差別体験を受けたことがないんで先輩たちの話を聞くとまだまだいっぱい残っていると思います。

仲尾先生 有難うございました。今のお話の中でやはり名前の問題と会社の受け入れという問題。これが密接に係っているということが分かりましたね。先ほどパクさんが仰った日立就職差別事件というのは一九七一年。愛知県のバクチョンソクさんという人がアライという日本名で日立ソフトウェアという会社を受けたんですね、合格内定の通知をもらった。住民票をもってこいということで、在日の方は住民票ではなくて外国人登録ですから、外国人登録済証を持っていかけたところ、これは履歴詐称であると。つまり本名はバクなのに、なんでアライにしたか。これは履歴詐称であるということで内定を取り消されたんですね。パクさんもはじめはそうかと思っただんですがやっぱりおかしいと思って足掛け三年の裁判の結果名古屋地裁で勝訴したんです。その結果、日立がパクさんを受け入れる。そして社内で二度とこのようなことが起きないようにきちんと研修をして彼が安心して働けるようにする。そう約束しました。その結果、彼は今から三、四年前テレビに登場してましたがエンジニアとして課長レベルの仕事をして非常に会社にも貢献しているんですね、ですから在日だから、本名だから会社に損害を与えるというのはまったくの神話である。うそであるということが彼の仕事ぶりから

はつきりして、会社も認識しました。しかしながらやつぱりそうでない例も、キムさん仰ったように、本名はやめてくれという会社は非常に多いようです。私の大学でこんなことがありました。在日の本名でずっと通している学生がおりました。近くのあるラーメン屋さんでラーメンを食べていた。そこに従業員募集と書いてあったから、うちの大学の中国の留学生が採ってくれといったんですね。そしたらラーメンさんはあんな外国人やからダメダメと断ったんです。そのことを見ていた在日の学生もバイトをしたくなつて、一週間ぐらい経つてもその店がまだ募集中と書いてあつたので応募しようと思つた。ところが中国人の留学生が断られているからやつぱり本名でいつたら断られるに決まつていると、それで心ならずも生まれて初めて通称名を使ってラーメン屋さんのアルバイトに応募したら採ってくれたというんですね。それが実は日本社会の在日の方々へ名前のこだわりというものは非常に強いという事を改めて実感させられました。これを正式社員の場合でなんだからだ言うんだつたら別ですよ。アルバイトです。しかもそんな長期でないようなアルバイトだけれども、そのような現実がすでにありました。それが二・三年前のことですから状況はあまり変わつていないのではなにかと思います。ですからキムさん言われるように直接今ぶつかつておられないけれど、そのような現実はこちらで存在していません。ではないかと思ひます。

それではその次へ参ります。次はバクさんへのご質問ですが、これはちよつと文化的な問題にも係りませんが、「朴熙均さんの氏名の由来についてお聞かせください。想像ですが朴正熙元大統領に傾倒していらつしたんでは？」ということですが、これは名前ではなく姓の問題ですから別のことだと思ひますが、ご本人からお伺ひいただきたいと思います。「お姉さんが北朝鮮で帰国、死亡されたということ。朝鮮民族の南北間で揺れ動く姿が垣間見えるようです。」そんなご感想も含めて書いていただいておりますのでご感想をお述べ下さい。

バク氏 朴正熙大統領は我々が学生時代のころはそれこそ独裁ということだ。朴正熙打倒なんて言つていたんですけど、その後、韓国でもそうですし、私もそうなんですけども結構評価は変わつてきております。私も学生

当時は朴大統領打倒というような感じでやっていたんです。けども韓国が今発展しているおかげのひとつは朴大統領が韓国経済の発展する土台を築いたということで、いいことはいいこと、悪いことは悪いことで評価し、凄いなら凄いなといえる立場で私は今考えております。

ただ大統領に傾倒したかということちよつと、私が生まれたのは一九四九年で大統領が出てきたのは一九六二・三年のクーデターで出てきましたので彼が出てきたときに私はすでに生まれています。別に「チョンヒ」の「ヒ」が一緒だからって傾倒しているわけではありません。

私に限らずそうなんですけど朝鮮の名前というのは陰陽五行の思想にのつとてずーと回るんですね。だから同じ世代の人は同じを使うと。「熙」を使っている人はたぶん私と同じ世代。ただそれが何代かずれる場合があるので必ずしも同じ年代やから、同じ年やからじゃなくて、例えばこないだまたま韓国領事館の人と名刺交換したんですけども、それはぱつと見て、「熙」(名の一部)を見たら私のおじさんと同じ世代にあたると言うんですね。私とそんな変わらないんですよ。年は。大体韓国ではそういう具合に名前を付けるんですね。最近それはなくなってきましたけど。だから同じ「熙」というのは十干(ジュツカン)十二支に基づいた字の当て方、文様でもありますね。「土」とか「火」とか、それを使った名前をつけるんですね。だから同じ「熙」を使っていると多分同じ世代、ようするに先祖代々の系図から考えると同じ世代やということ、兄弟とかね、だから私の弟もそうですし私のいとこもそうですし皆「熙」を使っています。だから同じ世代やなあと思っっているんです、だからそういう意味で朴大統領に傾倒しているわけではありません。姉が北朝鮮へ帰って亡くなったということで色々思いがあるわけなんですけども、それも含めて先ほども言いましたけれど、私つい最近まで朝鮮籍でありながら金日成、金正日の批判ばかりしていましたので、朝鮮総連からかなり嫌われていたんですけども、今日は拉致事件の質問あるかもわかりませんが覚悟しておいてくださいよといわれたんですね、私もまあ、ああいう問題があつてさすがに愛想尽かしてしまつて、朝鮮籍というのは基本的にワンコリアンの立場で、朝鮮というのはもともと日本の植民地時代は、大韓民国も朝鮮民主主義人民共和国もなかつたです

らね。そういった意味でワンコリアンの立場で朝鮮と使っていたんですけども、この中に公務員の方がおられるかもしれないんですけども、市役所に行つて「朝鮮」と言つたら朝鮮民主主義人民共和国を支持しているといわれそうやから、私は支持してないからコリアンに変えてくれと言つたつたんですね。そしたら法務局に電話しますわ、と言つて法務局に電話して「あきませんでした」といわれましたけどね。ただその面で朝鮮籍から韓国籍に切り変えたのは私に関係なしに朝鮮籍を持つていると、北朝鮮を支持していると言われそうですか。韓国も今かなり民主化されていますので、もともと私の先祖の故郷は南の地ですのでね。韓国籍に切換えてもいいんじゃないかと思つてこの一月に切換えたところです。ですからその面では民族の問題とかは否が応でも我々はぶつからざるを得ないと、名前ひとつにしてもそうですし、籍ひとつにしてもそうです。例えば彼の言つている「留學同」に顔出すか「韓文研」に顔出すか。それぞれ大した意図をもつていなくても周囲は判断してしまいます。ですから最近よく問題になつている在日の科学者協会というのがあつて、北朝鮮に色んな技術を輸出したとか言われていますけど、先ほど言つたように何も北朝鮮支持しているわけではなくて、そのなかに他の何かを求めたりして参加している。というのが大部分です。確かに一部狂信的に北朝鮮を支持している人もいますけどそれは本当に一部だと思ひます。だから圧倒的多数は、私みたいにあんまりたいしたことないけど中途半端に動くと思ふ色んな目で見られるのであえて動かないといつた部分だと思ひます。

仲尾先生 有難うございました。名前の問題から、今の南北の分断状態、それから政治状況。日本を含めた朝鮮半島の政治状況も全て在日の方にはピンピン反映している。あるいはそれに対して自分なりのスタンスをどう一つ一つ付けていくか。大変難しい問題に当然といえば当然ですが在日の方にはぶつかつておられる。という中でこのしつかりしたご返事をいただけたと思ひます。それから今在日コリアンとして登録したいということですね。これは法務省まで問い合わせてくれたということは、その区役所の方大変勇気があつたと思うんですね。勇気というか係員が知らなかつたこともありませぬ。

パク氏 私がだいぶ詰め寄ったんですよ。

仲尾先生 一九四七年の五月に外国人登録令で地域としての朝鮮ということ、朝鮮半島出身者は全て朝鮮として登録させた。これが出発点です。その後、韓国籍に変える人がどんどん増えていったということでありまして、今でも在日の方が登録を外国人登録される場合は朝鮮又は韓国として登録せよということに法務省は言うと思うんですね。つまりコリアンの方がいいとおっしゃってても地域でもない。国名でもない。そういうことなんでしよう。

最近私も戸惑っているのは在日韓国・朝鮮人という言い方してきまして、やっぱり何かしら変だなあと。本日の在日の方の気持ちにそぐわないんじゃないかなという気もする。それより在日コリアンといった方が私も在日の方の気持ちにそぐ得るのではないかと、言う風に思いますが、このコリアンというのは英語でして、本来の民族名ではない。ではどうしたらいいのかとちよつと私も今迷っております。だから時によりいい加減に使いわけたりしますがそのあたりの思いもそのうちいろんな方からお聞かせいただければいいかと思っております。次へ進みます。

お二人に、「最近特に日の丸・君が代等のナショナリズムが強まっております、日本人も不自由な思いをしていると考えています。そういった事がお二人の在学中に感じられることはありませんでしたでしょうか？」これはまずパクさんに、少し。在学中ですから三十数年前のことですけどもどう思うでしょうか。こういった問題をお考えになっていたのか。同志社大学一年生のころをちよつと思ひ出して下さい。

パク氏 大学時代、学年が進むに従って差別というのは少なくなってきたと思います。小学校時代くらいに、やっぱり田舎でしたので親の噂話とかひそひそ話とかを聞いて、朝鮮人はニンク臭いとか、そういった

話を聞くことはありましたけど、私自身の差別体験としてはそれは少ないです。一つの例として先ほど言いましたとおり朝鮮人部落におつて、はつきりつて悪ガキがたくさんいましたので、まあむしろ差別したら逆に殴られる。私自身はそこまで参加しませんでしたけど、同じ一党やと思つて恐れられていたんやないかなと私勝手に思っています。だから中学・高校とほとんどなかつたですけど、具体的にね、お前、ニンク臭いと面と向かつて言われるようなこともなかつたですし、何もなかつたですけど、ひとつ。私、先程ラグビーやっていたといいましたけど、今でこそ高校生は国体に参加できますけど、私達の当時は絶対駄目でした、私は勉強あんまりせんかつた代わりにラグビーをそこそこやりまして、近畿高校選抜というのに滋賀県代表として選ばれたんです。ところが滋賀県選抜の国体のメンバーには選ばれなかつた。近畿代表の二十二人には選ばれたけど、滋賀県代表の二十人には選ばれなかつた。具体的に一番大きくぶつかつた差別はそれが最初ですね。あとは、目に見えない形では一杯あつたと思えますけど、具体的に差別の実体験としてはつきり言つて国体選抜とかに選ばれるのは名誉なことですし、他の私より下手といつたら怒られますけど、そういう人が選ばれたのに、私が何で選ばれないんやという思いがありましたからね。ただ大学入つてからというのは、就職に関しての差別はありましたけど、我々の時代はどちかというところと学生運動とかあつて一般の学生はどちかというところと同情的な、支持が多かつたです。見えないうところと差別はたくさんあつたと思えますけどね。強烈な差別というのは高校の時の国体選抜に選ばれなかつたことと就職ですね。大学の就職。後は世の中、差別沢山ありますけどそんなのいちいち取り上げたらきりがありませんので、はしりますけど大体そんなところですね。

仲尾先生 有難うございました。この方は「差別問題でバクさんに体験をお聞きしたい」ということですが今答えていただきました。日の丸・君が代という話がここで出てきているんですがそのへんの思い少し簡単にいただければと思います。

バク氏 そうですね。当然私らの世代、一世はいろんな思いを引きずっておりますし、私も小学校ぐらいのと

きはラジオやテレビなんかで観て日本の、まあ抵抗はありましたけど、そんなにむちゃくちゃ日本人がやっているのと同じように、今でも君が代も歌えるわけですね。私の場合は特殊で君が代も歌えば韓国のトンヘムルガベクトウサン（韓国国歌の出だし）も歌えますし、北朝鮮のアチムピンナラ（北朝鮮の国歌の出だし）も歌います。三つとも歌えるんですが、むしろ軍歌に対して思いというか、私の思いというか親父の思いでね。あるときテレビで軍歌の特集があつたんですけども、親父がああ歌聞くと身震いすると、親父も歌が好きでナツメロとかよく歌うんですよ。ただ軍歌を聴くと身震いがすると。それを聞いて私も軍歌は絶対歌わないようにしました。だからそのような面で日の丸とか、当然君が代とか日本人とは思いますが、むしろ私は軍歌のほうが私にとっては日の丸・君が代以上に直接的に色んなこと聴いたりして、それに親父が身震いがする、身震いすると日本語でなく朝鮮語で言うたんですね、日本語にすると身震いがする。身の毛がよだつという事なんですけどね。ですから我々と感覚が違うなということで私は二度と軍歌は歌わないようにしています。

仲尾先生 有難うございました。私も非常に不思議なのは日の丸・君が代もそうですがいつの間にもやら軍艦マーチがじゃんじゃんあちこちで演奏されるようになった。パチンコ屋さんでもしょっちゅう流れますよね。どうしてこんなことが戦争終わってから十年もしないのに始まったのか、日本人としても考えられなかった事態ですね。今そんなことはあんまり考えないような状況だと思えますけど、おそらく身震いされたのはそういうことだったと思います。この日の丸・君が代の問題はキムさんにも発言していただくことと、もうひとつキムさんというご質問があります。「ダブルの方は一方を切り捨てご自分を納得させている方が見受けられます。キムさんの場合もう少し詳しくお話し願えないでしょうか？」この二点です。お願いします。

キム氏 はい。一番初めに日の丸・君が代の問題について、これはそうですね三年前ぐらいに東京都で裁判が

どうこうで問題があつたんですけれども、一番初めに出了のが僕が中学三年生のときですね。中学三年生の卒業式を迎えるときに東京都とか全国的にカセットテープで流すとか、またピアノ演奏はしない。しなあかんとかそういう問題が日本のメディアに流されるようになったのが僕が中学三年の頃なんです。僕自身小学校のときも、パクさんも仰られたんですけれど僕も君が歌えます。小学校の頃は何も拘らず僕も歌が好きなんでパンパン音楽の時間に習つてたんで歌つてたんですけれど。なんか卒業式当日になつて僕は歌わなかつたんです。日本名の始めが「もく」なんで一番後ろの席やつたんですね。一番後ろつていうのは保護者とか来賓の方とかの真横やつたんで立たないのはちよつとおかしいなと、おかしいというか先生方に迷惑がかかると思つて立つたことは立つたんですけども一切歌わずにまたずつと下を向いていました。別にその時はそこまでその君が代とか日の丸がどういふものかそこまで具体的にわかつていなかつたんですけれど、なんでか知らないんですけど僕は歌う気がしなかつたんですね。感覚的に。で、中学の時に色んなメディアとかの報道とかによつて色んな事件があつて、でもそのときも「もく」なんで一番後ろでしかも保護者がいて、そのときもまた一組やつたんで端で来賓の方が横にいてまた教育委員会の方も来られるからつて言う変な圧迫感を僕に先生が与えさせたんですけれども、その時に僕は座ろうと思つたんですけども、いろいろあつて立たなければならぬ状況になつたんですね。そのときもやつぱり一切歌わずに下向いたままです。それは何でかという、やつぱり教育委員会の方がかられて自分の担任の先生がどういふ処分を受けるか。そんなに大きい処分は受けないとは思いますが、でもやつぱり何か処分を与えてしまつたらすごい悪いなあという思いだけで立ちました。実際後ろを見てみたら保護者の中にも何人ぐらいですかね。保護者が百名くらい来られたんですけれど、そのうちたぶん「〇名くらい座られていて、また私の母親も来てたんですけれども退室していました。保護者の方はみんなそういう意思表示したんですけれども、学生はその時誰も反対とかはしませんでした。

高校に上ると、僕が高三になるとまた東京都のそう言う事件があつたんですけれども、僕は堂々と座っていました。僕の高校は京都市でも一番きれいな学校。新しい学校。新しいというか名前が変わつて特進の学校に

なつたんですね。その一期という事で凄い注目浴びてまあ、たまたま教育委員長とかそういう方は来られなかつたんですけども、来賓の方とかこられていたんですけども、僕は座って。何にも言わずに座っていました。やつぱりその日の丸・君が代というものがどういふものなのかって思えばやつぱり、自分のハンメ、ハウベ。お婆ちゃんお爺ちゃんが、日の丸を見てどう思うのか。また君が代を聞いてどう思うのか。そういうことを考えると自分は何も出来なかつた。自分は立てなかつた。というのが真実、実感ですね。また大学。私立の大学なんですけども皆さん僕の通っている大学がどういふ大学か大体分かつていると思うんですけども、入学式には国旗掲揚。君が代斉唱がもちろんの如くあります。毎日、本館という大学の一番上のところですね。山の上の大学なんですけど一番上の棟と言うかキャンパスがあるんですね。その上には毎日日の丸が掲揚されています。その大学で、また入学式では学長が留学生とか我々が在日朝鮮人とか在日の外国人の方が一杯いるにもかかわらず、「よき日本人になつてください。」とかそういうことを言うような。こんなに批判してよいのでしょうか？（笑）こういうような大学に通つて、僕はなんで通つていふのか分らないんですけど、まあたまたま入れたんで通つてはいるんですけど、やつぱりそういうことがあつて自分はそれはおかしいんじゃないか。大学まで行つてそれはおかしいんじゃないか。と思いますし、国立であつても学長がそういうことを言うというところは凄い問題にならなきゃ逆におかしいんじゃないか。と思います。今現在そのことについて、ある先輩と。日本人の方もいるんですけど新聞局の方と話してどういふ批判をして行こうとか、学長に対してパブリックコメントの欄があるのでそこに書き込んで一切返答はないのですけれども、そういうことをちよつと個人的なのもかもしれないけれども今現在やつております。そういうナシヨナリズムが自分たちが在日朝鮮人。自分に対してどう思うのかって言うのはたぶん今の話で分かると思うので、それ以上深くは話さないですけどもやつぱり何かしらちよつと変じやないかなというの自分たちも身にしてみています。

次にダブルの方は一方を切り捨ててご自分を納得させている方が見受けられます。ということなんですけれども、確かにそういう方が多いですね。ましてや日本という国に、植民地にした日本という国にいて、じゃあ

自分たちの生活のためにやっぱり日本国籍をとろうとか、また韓国籍を取って少しは偏見をされないようにするとか、そういうことは分かるんですけど、一方を切り捨ててというのはある意味仕方ないこと。でもその一方を切り捨てている自分を疑わなかったんじゃないかと思つています。僕自身は民族団体に所属したりとかいろんな人と触れ合ったり、また自分自身韓国の学生とか。また朝鮮の学生、北の方の学生にも会うことが何回もありました。で、そういう人たちと話せるという環境、そういうことが自分を確認するためのひとつの手段であつたし、その確認があつたからこそ自分はダブルだからどつちかを選ぶとかそういうのではなくて自分自身を考える。そういう場があつたのではないかと思ひます。先ほどから何回も言つていますが、一方を切り捨てて、ということは確認をしなかつた。で、自分を疑わなかつた。疑われなかつた。そういう環境がなかつた。そういうところにあるのではないかと思ひます。以上です。

仲尾先生 有難うございました。以上で皆さん方からのご質問はおわりです。最後は感想をいただいています。これはどちらかという私の専門分野に係るご感想ですが紹介をさせていただきます。「私の高校三年のとき昭和三十六年、一九六一年ですね。日本史の授業は明治初期年代ころまででした。三月の学年末の事で時期的に進学・卒業間近のときであります。いわゆる近現代史はしつかりと授業は出来ません。日本と朝鮮半島の方々のよき時代は仲尾先生のご本から教わつたのですが、朝鮮通信使が数十回（正確には十二回）、徳川政権下で相互信頼の関係があつたという事を教わりました。古来からわが国は文物文化制度等々半島からすばらしいものを伝授してきた経緯があります。今この時代に生きている日本人は半島の方々の恩恵を忘れひどい差別等に結び付けている。この原因は学校、家庭生活で是正されねばと思ひます」。こういうご感想をお寄せただいております。有難うございました。

以上で本日のご質問・ご感想は全部終わりました。今日お二人のお話を聞いていてバクさんは五十数年間日本社会の荒波の中で自力でご自分の生活。それからご自分の在日としての立場。というものをどういう風に考

えていくか、ご自身の力でそれを築きあげ。或いはまたそういう意識を作ってこられた方だと言うのがよく分かりました。またキムさんはダブルという生まれですけれども、それを自ら問い返すことによつてこれからの自分の新しい人生の生き方を探つておられる。そのように見えました。在日の方どなたのお話を聞いても日本人にとつてはそれぞれ私たちが経験し得ない、或いはなかなか理解の出来ないところもありますけども一つ一つ新しいものをそこから学ぶ事がたくさんあるというふうに思います。どうも今日はお二人とも有難うございました。

司会 有難うございました。次回のご案内を申し上げます。最後になります三月九日金曜日。「日本の外から見た日本の学校と民族的マイノリティー日本社会から飛び出した在日コリアン」というテーマです。海外で留学或いは生活された在日の方をお招きし、外から見えてきた在日の話や、日本の学校の教育についてお話していただきますのでぜひお越し下さい。

本日はどうも有難うございました。



第四回 「日本の外から見た日本の学校と民族的マイノリティ  
―日本社会から飛び出した在日コリアン―」

パネリスト

金 晃氏（在日二世）

河 東吉氏（在日二・五世）

コーディネーター

仲尾 宏氏（京都造形芸術大学客員教授）

二〇〇七年三月九日（金）実施

司会 「チョゴリときもの」第十四回を開催致します。教育と進学をテーマに進めてまいりましたフォーラムも、本日が最終日となります。ひと月に亘りましてお越しいただきました皆様感謝申し上げます。学校現場に携わる方のお話をスタートに、第二回目は、民族学校や国際学校に通われた方やそのご家族の方、それから第三回目は反対に日本の学校に通われた方、それから、本日最終日の第四回目は、日本から海外に勉学の場を移された経験をお持ちのお二人の方から、お話を伺いいたします。お二方からは、日本という国の外側から見た民族的マイノリティーをどのように感じられて、どのように考えられたかということを織り交ぜてお話を伺ってまいります。進行はこれまで同様、第一部でパネリストの方々のお話を、第二部で質疑応答を予定しております。お手元の質問用紙にお書きいただきましたまして、休憩時間に回収させていただきます。では本日のパネリストとコーディネーターをご紹介します。お一人目は、日本の高校を卒業されまして立命館大学に進まれ、その後ソウル大学院に進まれました。卒業後KBS、韓国のテレビ局ですが、KBSで二年間お仕事をされまして帰国なさいました。現在、ご自分で映像制作の会社を運営されています、キム・ファン様です。

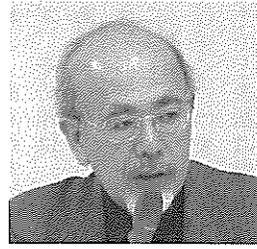
キム氏 どうも、はじめまして。キム・ファンです。

司会 お二人目は、東京で小学校からずっと日本の学校に進まれまして、高校を出られました後、ソウル大学に進まれて、十一年間貿易会社に就職されましたが、その後独立されました。その間に韓国、アジア、それ以外の多くの国にいらつしやるが多くなりました、ハ・ドンギル様です。

ハ・ドンギル氏 皆さん、こんにちは。宜しく御願います。

司会 そしてコーディネーターは、京都造形芸術大学客員教授の仲尾宏先生です。

時々、写真を、記録写真を撮らせていただきます。どうぞご理解いただきますようお願い致します。それは先生、宜しくお願い致します。

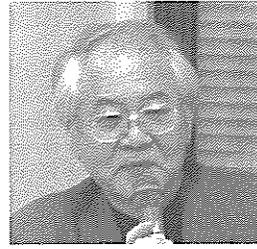


仲尾 宏氏

仲尾先生 皆さんこんにちは。今、司会の岡村さんもおっしゃいましたように、あつという間に第四回目をむかえました。今年もいろんなテーマのなかで教育のこともいろいろやりましたけども、おそらく角度が変わって皆さんお聴きいただくお話は初めてのことになると思います。今、日本社会で暮らしている在日の方は全部で約四十五万人くらいになっています。勿論、日本国籍をとられた方やダブルの方をいれますと、おそらく百万近い数字になっていると思います。そのなかで、日本社会に暮らさずに、外へ飛び出してみよう、飛び出した方はかなりおられるんです。例えば、研究者になったり、あるいは芸術や芸能を学ぶために、アメリカやヨーロッパで学ばれ、そこに暮らしている、あるいは学んでまた帰って来られた方は、少なくないんですね。また、その祖先の国である韓国に行つて勉学をされたり、仕事との繋がりを見つけられたり、そういう方もまた少なくないわけです。

今日、お二人の方は、そういった韓国の今お話もできましたけど、ソウル大学での研究、勉強、というご経験のある方ではありますが、二人はそのまま韓国へずっと永住されるのではなくて、日本に帰つて今日本で仕事をされております。このなかでも、韓国へ行かれた方、少なくともだと思いますが、今ソウル大学は、ソウルの南の郊外の方に移つております。韓国を代表する大学ですけど、お二人が行かれたのは、ソウルの中心部、今も名前だけが残つております、テハンノ二大学路、というところで、雰囲気は、原宿みたいなと言えはいいでしょうが、そういう若者の街のようになっております。お二人が行かれた頃は、ソウルの中心にあつたソウル大学の頃です。そんなことも含めてお二人にお話いたさこうと思います。

最初は、今、お戻りになって会社を經營されているキム・ファンさんから、お話をいただくこうと思います。宜しく願います。



金 晁氏

キム氏 皆さん、はじめまして。キム・ファンです。

どこから話したらいいのか、非常に難しいのですが、後の質問の時に、皆さん方がイメージしていただいていた質問が出来るように、ポイントだけお話しさせていただきますというふうに思います。

一九四六年に生まれております。京都の田舎です、長岡京市、しかも生まれた時は、飯場でございます。九番目の末っ子、飯場で生まれました。生まれた時から極貧でございます。兄弟ではじめて昼間の高校に行けるようになりまして、京都市の洛陽工業高校、はいつたときは、洛陽高校、普通科もある総合高校でしたが、私が入ったときに、普通科と工業科がわかれてきました。卒業したのは洛陽工業高校電気科です。そのときに、就職活動をしていたわけです。その年は、一九六四年、オリンピックの年です。就職は困難をきたしましたが、何とか受かったところがありました。ところが、オリンピックが終わった後の不景気に見舞われた時期で、採用取り消しを十二月の冬休み前に受けました。今、コピーという綺麗ですけど、あのころのコピーは青写真です。この中で青写真のコピー、ご存じの方いらっしゃれば、相当年輩だと思うのですが、その青いコピー一枚送られて、採用取り消しをくれました。そのときに担任の先生も、お前の就職は絶対に任せておけと言ってくださったんですが、そのとき私は先生に、「もういらんです」と、「どうすんねや」。「大学行きます」。その時に私は明確な大学進学の意味を持ちました。単純です。なんで俺がこんな目に遭うんか、この世の中どうなっているのか、知りた。これは、確固たる目標意識、ありました。ただ、もう一つ、九番目の末っ子で貧しい家ですので、全て自分で解決しなければならぬ家でしたので、そのときに担保として持っていたのが自分自身の経済力です。幸

いにも高校の時には、牛乳配達と、二年生の時には家庭教師を、中学校の先生に紹介していただきまして、この二つ合わせて、当時一万五千円くらいの初任給の時にもう私は二万円ほど稼げていました。大きな担保です。これがあったから、進学してみようという決心が出来たと思います。

今振り返ってもありがたいのは、中学校三年生の担任の先生、それも副担任の先生が、高校生の私をわざわざ探ってきてくださったお前、家庭教師やってみるとおっしゃって下さった。この先生は、本当に恩人です。この先生のおかげで、経済的基盤がこの後も確保できたということです。受験勉強の「受」もしていない私です。卒業と同時に予備校に入りました。関西文理学院という、そのころ鞍馬口にありました。そこに入ったんですが、一生忘れられない点数があります。二百点満点の英語が十二点、そして、国語は二百点満点で百四十点。受験勉強で何もしていないので、十二点はこれは当然やと思っただけで、なんと国語が百四十点も取れたのは、非常な自信になりました。二年間かかりました。一回目の受験は、運が良かったら受かる、という程度でございました。何とか二年かかって立命館大学に入りました。問題意識がそういう問題意識です。歴史学をやりました。東洋史専攻で入りました。それで、立命にはいったときは、吸い取り紙が何でも吸収するという、そういうような速度で、民族サークルに出会い、そこで必死に言葉を勉強しました。丁度そのときは日本でも学生運動が盛んな時ですが、正直言つて私は自分の座標軸を探るのが精一杯で、日本の友達の問題意識、学生運動についてはほとんど関心がありませんでした。その大学で四年間、必死になつて歴史を勉強し、言葉を勉強し、そして卒業と同時にソウルへ留学しました。この動機というのは、そのとき私は日本に關しては何の希望も持っていなかったし、体ひとつでやれる分野、祖国で、母国で、学問で勝負してみたい、私は明らかに永住する気持で留学をしました。

韓国、ソウル大学で一年間語学研修、二年間大学院で学ぶのですが、まさにこの時期が一九七〇年代の朴正熙独裁の時期です。学園には、催涙弾の匂いが立ちこめている、まさにあの時期です。そういうところで、歴史学を学びそして卒業と同時に、韓国放送公社、ここに入社しまして、日本向けの短波放送、これを担当しま



した。約二年間。ところが一九七五年の冬に、在日の学生達、私の後輩ですが、たくさん捕まるといふ大事件が起きたんです。そのとき私はひつぱられることは何もなかったんですが、一九七六年一月一日、そのころ私達は一年に一度必ず帰ってきてます。再入国許可の期限が一年間しかありませんので。そういう時期でして、帰ってきて肝臓を悪くしたこともあるんですが、友人と相談しながら、日本から辞職届けを出しました。それから二十七年間、ですから、二〇〇二年の十月まで、金大中の政権ができて民主化が実現されるまで、韓国には行っておりません、二十七年間。そういう意味で、日本社会から飛び出したのはいいんですけど、挫折をして帰ってきたということですが。これぐらいでざっと骨組みだけお話しさせていただいたと思うのですが。もうちょっと時間あるんですかね。

仲尾先生　そうですね、もう少し、今の骨に肉を付けていたかどうかと思えます。立命館大学に進まれた動機はわかったんですが、韓国へ行こうと決意された動機、あるいは永住をあきらめられた動機に触れていただいた方が、皆さんわかりやすいのではないのでしょうか。

キム氏　永住を、その時私は二十五歳でソウルへ行きました。なにせ、九番目の末っ子ですので、自分のことだけ解決すればいいという気楽なところもありますが、韓国には私が生まれる前に帰った実の姉がおります。この姉を私の母がどうしても探したい、ということをや常日頃から聞いていたということもあるし、母親の弟、妹家族が、テグ（大邱）市に住んでおります。ここもやはり訪ねていきたいという動機もありました。そして何よりも、自分の母国、そこを見てみたい、そこで生活してみたい、それが一番でした、動機は。行ってまたこ

れはいろんなこと考えさせられたことも事実です。民族とは何か、もちろん、韓国で生まれて韓国で育っているわけですから、言葉は上手い。でも、私が行った放送局でも、ミスター・キムとかミス・リーとか、こういうのが飛び交っている時代でしたので、こいつら一体何考えているんだと、正直思いました。そしたら、私は言葉は下手だけれども、お前らよりもっと韓国人だ、という思い。私は何回も経験しています。これは、日本の皆さん方、移民という歴史をお持ちなので、その方々と皆さん方と交流なさったことがあるかよくわかりませんが、外国で育った二世、三世が、祖国、母国に帰ってきたときに、皆さんもどういふふうに接しられたのか、どう感じられたのかというのは、多分私と同じような共通点があるんじゃないでしょうか。動機としてはそういうことです。それともう一つ、教育とも関係があるので、帰って来たら結婚して子ども三人生まれました。留意したのは、子どもには名前を一つしか付けないということです。

私が、失敗したのが、大学入るときから名前にこだわらして、ずっと本名でやってきたんです。それで日本に帰って来て、結婚して家内の父親の会社で新しい部門を興す時に、その時が三十一歳です。やはり日本の名前を使ったらというアドバイスがあるわけです。それで、使っちゃったんですよ、商売で。これが、名前が一人歩きするんですね、一生懸命仕事すればするほど、名前が一人歩きする。だから、これは意外なことだったんです。だから、これは初めてのことだったんです。だから私は常に本名の名刺と二枚もって、親しくなる人には必ず二枚渡すというこういう経験をしました。だから、子どもには一切、名前は一つ。表札も本名しかあげておりません。面白いことあります。取引先の方が私にお歳暮贈ってくれるんですが、日本名で贈ってくれるんです。それが近所の私と同じ日本名のところに届くんです。そしたら、どうして私の家に届くのか、ちゃんと探してきてくれるんです。これもまた不思議なんです。



私はお歳暮が届こうが届くまいが、事業とプライベート分けていましたので、そういう珍事もありません。だから、名前というのはいろんな要素があります。子どもは幼稚園、小学校までは日本の学校にいれたんですが、いつも先生の質問書には、チウオンというんですが、わざわざルビを打つんです。先生、このルビのとおりに発音してほしい、と。だから、日本読みすれば、キン・シエンとなるんですけど、これをわざわざルビのように読んでください。これを三人の子ども全部の先生に主張をしました。だから、家庭訪問来ても、先生達もチウオンちゃんとかチミヨンちゃんとかチソちゃんとか、こんなふうに呼んでくれて、幼稚園、小学校に過ぎませんでした。中学校は現在の京都国際学園（旧京都韓国学園）、そこに入れました。そして卒業後は日本の高校、大学、こういうふうに進んでいます。これ、またひとつの大きなきっかけとなりまして、中学校でもPTA活動に参加することから今まで在京都韓国、国際学園の理事を十何年やっています。また後で質問があればと思います。

仲尾先生 どうも有難うございました。先程のお話のなかで、再入国許可が当時一年限りということでした。これは、日本人の皆さんには関わりのないことなので、ご存じのないかたがいらっしやるかと思つて説明させていただきますと、例えば大阪、関西空港に帰つてくると、外国人、日本人と分けてあつて、再入国と書いてあるのは、皆さんご存じでしょう。つまりあれなんです。日本国内に住んでいて、外国へ行く場合、どこへ行こうと再入国の許可証というものをとつて行かないとだめなんです。そうしないと日本に帰つてこれないということになります。それを事前に、日本の入管当局でとつて、それを記録してもらつた上でそれを見せて入国する。お二人のように、二世で日本で生まれ育つた方でもそうなんです。それが当時、一年という非常に短い期間だったので、留学している人は、一年に一回帰らないと、日本に帰れないということになっていました。今は少しゆるみまして、今は確か三年ですかね。

キム氏 四年です。

仲尾先生 四年になった、四年の間は何度でも一度とっておけば往復できるようになったのです。ところが、例の北朝鮮への締め付け以降、朝鮮籍の方については一回限りという条件が付きました。従って、一回行ったら一回日本に戻ってくる、それはいいんですが、韓国籍の方のように二度、三度は行けないと、こういうような規制が最近加えられております。それから、もう一つ問題なのは、その再入国の許可の期限と、それから外国人登録の期限などがずれております。あるいは持つておられる韓国のパスポートならパスポートの期限ともずれている。だから、人によっては留学期間中に何回も帰ってこなければいけない。あるいは、それをうっかり忘れていて、もうそれで、特別在留資格を取り消されてしまった、一般外国人と同じ立場になってしまったという方もおられるんです。日本人にとっては関わりのないような制度ですけど、この在日の方にとっては、再入国許可制度というのは、一つの縛りになっていると言わざるを得ないような現実がありますので、それも併せてご報告しておきましょう。

それでは、もう一人のかた、ハ・ドンギルさん、宜しくお願いします。



氏吉東河

ハ・ドンギル氏 こんにちは。ハ・ドンギルと申します。ご案内の方に二・五世と書いてありますけども、母方にしますと三世、父方にしまして二世ということ、一応二・五世としています。キムさんよりも私の方がちよっと若いのですが、一九五〇年東京の荒川、在日朝鮮人の集住の地域ですけれども、荒川という地に生まれまして、小学校からずっと高校まで、ご紹介のとおり日本の学校に行っております。一九五〇年ということで、寅年らしいんですけども、そこにまた私、B型らしんですね。B型に十月生まれで天秤座いうことで、ある在日の先輩なん

ですけど、典型的な朝鮮人の性格や、と。どんな性格や、と。言うてええか？て言われたことがあるんです。結構気が強い、気性が激しい、そして結構アバウトやと、思いつきでやるような感じで。あまり聞いてよくなような性格なんですけども。実際今も五十六歳ですけど、その間の自分の人生振り返ってみて、この性格があつたから良かったんかなと思うことがあります。

ざっと私の履歴を申し上げますと、荒川で生まれまして、ここまで六十九年に一応卒業なんですけども、ソウルの方で予備課程一年、文理学部、なぜだかアメリカ式で政治学科が文理学部にあるんですけど、七十年に入学しまして七十四年に卒業しました。先程のキム先生のお話のように、激動の時代です。実際、大学の前に銃座っていうんですか、機関銃が並べられて、いわゆる学校にも入れないという、衛戍令というのが何回も発令された記憶があるんですけども、激動の時代で、一番勉強しなかつた学年じゃないかという噂もあるんです。そこで、七十四年に卒業しました。訳があつて、またこれは後で話しますけども、大学院で勉強できる雰囲気ではないということで、日本に戻つて参りました。その後は十一年間日韓貿易の商社に勤めまして、残りの十三年くらいを自分が独立しまして、日韓貿易ではない貿易、主にアジアとか南米とかヨーロッパでも後進国が多かつたんですが。機械の関係の取引を従事しております、二〇〇一年にビジネスはもういやだ、と、いった人生の思いもありまして、このままいわゆる商売だけをやるのはいやだという転換をむかえまして、六年間は在日の人権の研究団体、大阪には社団法人が一個あるんです。その事務局的職員というかたちでスタートしまして、在日の高齢者の介護事業、そちらの方に五年ほどいまして、その間、大阪、京都、こちらの方に、エルファという在日の介護事業体がありまして、名古屋にもあります、神戸の長田にもできていますけど、そういう在日系の介護事業をまとめるネットワークをつくろうということで、4年前に介護をはじめて今年で三年目になりますが、それが私の肩書きです。在日コリアン高齢者支援ネットワーク、ハナ、と、こういうかたちで今日に至っています。

日本の学校での、なにかこう、印象に残ることをということ、お話をしてくれということ、印象に残る

先生が何人かいてます。中学、それから小学校、高校、なんですけども、ちよつと象徴的な言い方になりますけども、小学校の先生はあまり印象は残っていません。朝鮮人なのに勉強は出来る子、つていうことで、公立の中学に行きなさい、ということ。朝鮮人なのに勉強は出来る子。聞いた瞬間に、じゃあ朝鮮人はみんなあほなんかいな、という反発が。うちのおふくろも、同じように怒っていましたけども。中学の先生、この方は、朝鮮人だからいうてぐれてどないすんねん、と、どつかれました。この先生、陸上部の顧問をやつていて、私が丁度中学一年のとき、学校でも悪ガキやつたんです。そういつたあれで、どつきながら、朝鮮人だからいうて、どないすんねん、と。親が悲しむで、という話をして陸上部に連れてくれたんですけど、それからもうずっと走りづめ。長距離のランナーになりたい、とそういつたあれですつとやつていました。高校の先生で、二年の時に、その当時はいわゆる理科系、文科系、というかたちでわけました。進学するのにどつち行くねん、ということ。高校では本名の漢字を使つていましたけど、日本読みです。おい、かわ、お前どないすんねん、と。私は大学、体育系の大学に行つて、体育の先生になりたいです、と。その高校は東京教育大学の先生が多かつたんですけど、あの先生みたいになりたい、と。お前は朝鮮人だから医者になれ。世の中に出て、体育の先生にはなれない、と。これは公立でもそうですけど、私立でも朝鮮人だから先生にはなれない、と。だから、その夢は、希望はすぐに捨てなさい、と。朝鮮人だからこそ、医者になれる力があるんだつたら、医者にならなさい、と。それが唯一、朝鮮人が日本社会で社会的な信用を受けてやつていく道ですよ。これ、十六歳のときにこういう話を聴くんです。自分の希望、いうか、夢を、一旦へしおられた後に、これにもすぐく違和感というか、反発がありましたですね。

この三人の先生方の印象のフレイズがあるんですけど、とりあえず今申し上げたとおり、二つの、私、転換点があつたと思うんです。高校一年の進学、進路を決める際に体育の先生にはなれない。中学の時から体育の先生になるつていう希望を持ってきたんですけど、なれないということ。そうなんや、と。日本で在日が生きて行く上では、医者になるしか、まともにはやつていけないというか。私は親戚のなかでも、ええ大学を出

ていても、パチンコの裏にまわつてたまを磨いたりすることが普通でした。国籍を変えていけばいくらでも大企業にいった状況が、国籍を変えたくないという方が圧倒的に多かつたんですね。そのなかで医者というのが資格的に国籍が問われない職業であつたということでしょうね。歯医者さんももちろんそうなんですけど、それでそういうもんなんやということでもつもりをしてみましたけど、やっぱりもやもやしていました。それから体育会系だつたんですけど、先程のキムさんと同じかも知れませんが。世の中、ちょっとおかしいんじゃないかと。何で在日はこんなふうになつてゐるのかと、おかしいなつてことで、それまでそんなに本読まなかつたですけど、必死で社会学系統の、今でも憶えています、キム・ダルスさんの岩波新書の「朝鮮」という本を読んでびっくりしました。自分の國つていうか、自分の親父にしろ、おじいちゃんにしろ、どれだけ苦労してきたかつていうことをその本を通じて日本の体験にひきつけて考える。そういつたなかで、体育の教師になれなかつたら、医者になろうとこのを変えまして、私は新聞記者になりたいと、ジャーナリストになりたいと、いろんなことを正していく、ジャーナリストになりたい、という気持ちになつて、ジャーナリストは当然、その当時、一九七〇年代、一九六九年卒業なんですけど、一九七〇年代はいつて以降だと思ひます。日本の企業が在日の者がある程度採用する。採用する際に關しても、通称名とか国籍変更、帰化をすることという条件が多かつたような気がしています。ジャーナリストになるためには日本で無理だと。では國に帰ろうと。そういうかたちで留学を決定したのは三年の時の春やつたと思ひます。この時印象に残つてゐる事件は、キム・ヒロさんという在日の一世か一世半かと思ひますけど、静岡のほうで大々的な事件がありました。やくざの方、二人殺して、警察官は差別した、謝れというようなかたちで、すごく大きな報道をされたのを憶えています。やはり日本社会が在日に対してという一つのシンボリックな事件やつたと思ひますけど、そんなかたちで、決意で、國に歸つていったわけです。日本社会からはじかれた、いうことやと思ひます。

ただ、向こうに行つて、大学を卒業したときに、その当時の「東亜日報」という新聞社、ジャーナリストになりたい、ということ、その当時「東亜日報」が頑張つたときなんですけど、入社の手続きにいつたとき

に、あなたの場合は軍隊の問題よりも六年間韓国で教育を受けていません、と。教育というのは、義務教育なんです、それでは受験資格が有りません、ということ、応募出来ませんと出てきたわけです。どうしたら、応募出来るんですか？そうですね、大学院二年出はったら、大学の四年間プラス予備課程が認められない場合は、一応、大学院まで出れば受験資格は生じますよ、ということ。ただ、その時に一応、帰国、永住帰国するかなという考えもあつたんですけど、家族が日本にいます。それと、軍隊にいかなければならなかつたんです。永住帰国した場合に、年齢的に若いですから、軍隊にいかなければいけない。しんどいですよね。それで結局日本に帰つて来ざるを得なかつた。今度は韓国のほうが私をはじいたようなかたちになつて、何が出来るかといつたら、韓国語をしゃべれるのと、英語をちよつと知つていけると、あと、運転技術があるぐらいの、文系の出身ですから、貿易の商社ぐらいいしかいけないということで、民族系の商社にはいつて子会社の部長までやつて、一応自分で貿易の仕事をしたい、日韓の貿易じゃないところで仕事をしたいという希望がありました。英語圏の仕事のほうがすぐビジネスライクにできる、といいますか。日韓の間というのはすぐどろどろして、在日やから大変やから買つて下さい、というような泣きをいれているようで、釈然としなかつたんですけど、英語圏っていうのは、条件守つてきちんと契約を履行するというようなかたちで割り切つていける、言うんですか。あまり、人とうんぬんされるようなことがないので、そっちのほうが気楽やろうなということ、アジア中心にそっちの方にいきました。その中で、十三年過ぎましたんですけど、印象的に残つているのは、各国にいてる朝鮮族と会う機会があつたんです。中国も仕事でいきました。中国に来てい、例えばロシア系、ロシアの朝鮮族ですね、それとまた、アメリカのマサチューセツ工科大学、MIT、いうんですか、その最高の学位を得た方とも仕事をしたりしたんですけど、在中、在米の、在日とか、在中、在露とかいう方とお会いして、海外に住んでいる在日ってこんなにいるいろんなんだと。ただ日本に住んでいるのが一番しんどいかな、と。国籍があるかないという問題も含めてなんですけど、いろんな同じ在日、同じ在日というのはおかしいですね、海外のいろんな在日を見て考えると、そこが多かつたです。それと、ニュージーランドや

オーストラリアに行きますと、少数民族がいます。ニュージーランドでは、マオリの方々は非常に優遇されています。例えば、漁師であっても、マオリが優先で、漁業権とか、いわゆる枠の量が多いのです。白人よりもやっぱり優先的にそういう制度を与えているというのを見て、逆にオーストラリアは、援助金だけ、お金与えていただまして下さい、みたいな政策をとっている。アポリジニーが自立していかないという、そういう姿を見て、いわゆるマイノリティーのあり方というのが、その国の政策というのに、すごく影響しているんだなというのを感じました。

そんなこんなをいろんな考えて、商売、もうぼちぼちたむ時期かな、というのもありましたし、拍車をかけたというか、転換をさせたのは、二〇〇〇年の南北の頂上会談です。在日にとっても非常に統一という問題は身近な問題でもあるんです。例えば、私の場合でした、父の叔父が朝鮮動乱のときに義勇軍に参加して、北に撤退していったかどうかわからない、生死がはっきりしていません。うちの親父は戦後でも五十何年以降は、みんなの守りもしながら、弟が生きているかだけでも確認したいということで、総連の方とか、四方八手を尽くして、生死の確認をやつたのを憶えていますけども。死んだという確実な保証はないから生きているやろうなという、希望を親父が持っています。叔父さんがもし今も生きているんだしたら、叔父さんとお前が一番よく似ているという話も聞いていますので、是非一度お会いして、というのもあって、統一がなれば、生きていれば、叔父さんに会えるかもしれないという切実さもあります。国がよくなつてほしいという思いももちろんありますから、そういつたなかで、残りの人生、在日の為に、今まで培ってきたものを生かす道をやらんと、お前の一生は一体なんだったんだということ、半年くらいいろいろ充電期間しながら、先ほど申し上げた六年前に在日の人権の啓発とか研究する機関にはいつてやってきました。

ですから、ピンポン玉がテーブルの上で行ったりきたりするような感じで、あまり格好いいものではない、非常に無様なものもあるんですけど、ただええ加減な性格も幸いしながら、結構、小さい時から打たれてきたなど、夢を絶たれてきたこともあるんですけど、しぶとくやってこれて、とにかくあまり、日本とか、韓国と

か、いうかたちで、あまりこだわらないで、在日で、在日のままで、そのままでええやないかと。もちろん親父達、一世たちが守ってきた自分達のプライドというものがありますね。日本の社会が、他の朝鮮族、マイノリティーの人達、朝鮮族の社会のあり方からしたら一番日本が厳しいような、排他的な感じがしますけど、その中でも私共の国籍を守って、国籍を守るといいうのは誇りを守ってきたと私は思っているんですけど、その誇りを守って国籍を守ってきた人間が今でも四十数万人いてるという話はこれはすごいことやと思うんです。そういうったプライドを私らが持ちながら、在日として、外国人として私らが住みやすい社会を作っていく。

それは、北へ帰る、南へ帰るといふ話しはもうないわけなんですけど、そういうったかたちで、次の世代、私も子ども三人いてますけど、やっぱり下の娘も地方公務員で、日本の学校の先生ですけど、カワ・ヨンビという、日本読みとちよつと朝鮮読みが半分半分なんですけど、そういうったかたちで、自分の出自を明らかにしながら、生きていけたらな、と。在日らしくあまり肩肘張らんとやっていくというのは一つの結論で、そういうった考え方に至るまで何十年かかかってきたんやなあと思っています。以上です。

仲尾先生 有難うございました。今のお話にあつたことで少しだけ解説めたことをさせていただきますと、お生まれになつた東京都荒川区、おっしゃつたように東京都、大変広い地域ですが、戦前の生活史を反映して、在日の方の集住地区がございます。常磐線という三河島という駅の近くですが、そこにお生まれになつたわけです。そこには今も通称、枝川朝鮮学校と呼ばれている朝鮮学校があります。そして昨日の夕刊か今朝の朝刊に、その朝鮮学校が敷地の一部、グラウンドの一部が東京都のもので、東京都の方から、返還を迫られていた。ところが、裁判官の粘り強い努力があつたんでしようが、和解が成立した。一億五千万円を学園側が出して十年間は学園として使用する。そしてその後は、学園側に東京都が譲渡するという記事が小さくでておりました。そういうことも在日の方々、小さい記事ですけど、大きな問題かと思ひますので報告させていただきます。それからもう一つ、体育の先生になりたかつたけどなれなかつた。お手元にこの年表がございますが、

一九九一年のところを見ていただきますと、公立学校教員は教諭を認めず、常勤講師となるという項目がございます。この一九九一年までは、外国籍の者は日本の公立学校の講師、教師、になれないというのが原則でした。いろんな運動があり、そしてこの時、日韓外相会議の覚書が出た関係で、管理職になる教諭は認めないけれども、常勤講師ならいいということがやっと認められたわけです。ですから、ハ・ドンギルさんご自身は体育教師になるという希望は打ち砕かれたわけですが、今お話を聞いていますと娘さんはこの常勤講師としてお勤めになつていてということですね。その世代の変わるなかで、この制度は生きていますか、制約は残つているもの生きていてというのが、世代の問題と関連してできていますかというように思いました。それからいろんな在日以外のところで、在外の同胞がいるという話ですが、中国東北部、旧満州には二百万以上の朝鮮族の方がおられます。この方々は中国国籍ですが民族名、中国では五十以上の少数民族がおりますから、皆、民族の出自をはつきりさせることになっている。その朝鮮族の方がおられるわけですが、ダブルの方を含めるともつともつと増えていると思います。それが世界で最大です。もう一つおっしゃつたのは、ロシアです。日本の戦前の植民地支配のなかで生活できなかった方が、中国東北部ではなくて、ウスリー江、トマン江を通してロシアに入られた。その方々が沿海州（えんかいしゅう）の近くに住んでおられたんですが、スターリン時代に中央アジアに強制移住させられたわけです。それで今のウズベキスタン、タジキスタン、カザフスタンあたりに、およそ三十万人の方が強制移住させられた。そして、そこで生活された。すると主な言語はロシア語。この方々は朝鮮族としての誇りを失いたくないということで、名前は勿論、創氏改名なんていうのはありませんでしたから、そのまま、そして最近も行ってきた人に聞くと、キムチも食べられるし、チヂミも食べられたと、非常に懐かしい感じがしたという。私の同僚の話です。勿論、ロシア語とともに朝鮮語も飛びかつていて、そういう世界が今中央アジアにあるんですね。そういう方々の一部ともハ・ドンギルさんは接触されて、在日とはどういふことかというのを改めていろいろとお感じになつたのではないかと思ひます。私の気が付いたことは以上ですが、また皆さんからお二人の話のなかででてきたいろんなことをご質問、あるいは

ご感想をお述べていただけたらと思います。それから今の在日の年表とともに、戦後日本史の年表を前回から戦後史年表というのをお付けしておりますので、お二人が日本をいったんは飛び出そうというようなようになった時代、あるいは、お二人の小学校から高校までの時代、どういう時代だったかというのも、参考にしながら想像を高めていただけたらと思います。

それでは、第一部はこれくらいにしまして、第二部は皆さんのご感想を含めたセッションにいたします。

司会 それでは第一部を終了いたします。お手元にございます意見用紙をご利用いただきまして、前のほうに箱を置きますのでこの中にいれていただきますようお願いいたします。時間ですが、三時五分に第二回を開催する予定にいたします。それまで大体五分、五、六分ぐらいで質問を書いていただけましたら幸いです。よろしくお願いたします。

司会 お待たせをいたしました。では第二部を始めさせていただきます。今回は五つ質問等頂戴いたしましたので宜しくお願いたします。

仲尾先生 それではいつも通り、五人の方のご質問とご意見を一つずつ紹介させていただきます。

まずお一人目の方は、お二人に質問いたします。韓国の人々の在日に対する接し方はどうでしたか、またどのように感じられましたか。これは多くの在日の方、日本人の方がよく質問されることですけれども、今回も韓国で何年間かお過ごしになったお二人のご経験を通じてお話を伺いたいと思います。じゃあ、キムさんから、よろしくお願いたします。

キム氏 まずです、ね、一番に言われるのは、なぜ言葉が出来ないのか、ということが圧倒的に多いです。だから、民族の象徴というのは言葉ということを痛感させられます。私自身は大学時代に基本的に読み書きはクリアして韓国へ行きました。だから、大学院の授業なんかは基本的に支障はなく受けられました。これは特徴があるんですが、学術に関する本、新聞、日本でもそうですけど、漢字の言葉が多い文章というのは知識を持っていけば非常に分かりやすく、漢字を韓国語読み出来れば、基本的に解決できます。そういうことがあって、私はよく褒められました、反対に。普通の人は、ほとんどしゃべれないのに、というので褒められたことはありますが、圧倒的に言葉、これがあります。それともうひとつ。一九七〇年代というのは、韓国が非常に貧しい時でした。まだ、大きな都市の大通りでも、小さな一、二歳の子どもが下半身を丸出しにして素足で走り回っているという状況はざらでした、もちろん、水洗便所、水洗トイレなんていうものは、完備されておりません。ソウルでもそうでした。ふつうの食堂とかそういうところでも基本的に、まだ解決されていませんでした。そういう状況のときに、学生であるならば、まじめな学生に対する見方、そして在日でもいろんな動機で韓国に行くのですが、そのなかで、言葉を覚えたい、というだけで行く人もいれば、学校でちゃんと勉強したいという人もいれば、様々ですが、半分以上は、在日のお金持ちの子ども達が来ます。そうすると、勉強しないで遊びまわる。そうすると、反感がものすごく出てくるんです。お前達何しに来てるんやと、しかも言葉下手やないか、と。そしてもう一つは、特に大学でまじめに勉強するほう、こっちの見方もまた皆さんが想像なさるのとは全然違うんです。お前何しにここまで勉強しに来るんや、日本で充分勉強出来るやないかと。こういう態度です。そして一生懸命勉強すれば、いわゆる、情報部に監視されるという。そういう風な非常になんて言うんでしよう、普通の人間として普通の同胞が故国に来て、というような見方をしてくれる人もいますが、特徴的には今言った二つ。これは、私には印象的でした。

仲尾先生 はい、有難うございました。言葉の問題、とおっしゃいましたけど、今キムさんがご経験なさったように、朝鮮語と日本語とでは、語彙がおそらく三分の一以上共通しているといわれています。なぜかという

と、漢語なんです、漢語から借用した言葉。例えば、大学という言葉、それから、学生という言葉、テハツキヨ、あるいは、ハクセンという言葉は、そのまま日本語に置き換えられるでしょう。私も朝鮮語は出来ませんが、日本、日本の漢字、漢語に置き換えれば理解がとて早いのです。ですから私もハンゲルで書いてあつても、これが日本語で何かということは、漢語を類推すればちゃんと頭に残るのです。ですからそういう点で日本人にとつてはある意味で、あるいは在日の方にとつても学びやすい言語だつたということがあるのではないかと思ひます。

それではその次、ハ・ドンギルさん、お願いします。

ハ・ドンギル氏 韓国の本国の人々が在日をどう見ているかというのを、その当時の記憶を私はたどつていたんですけど、おしなべて、悪いです。これは先ほどキム先生おっしゃつたように、その当時、韓国は非常に貧しい、そして日本がとて豊か、そういうところに対するやつかみいうのもあつたと思うんですけど、一般的には悪いわけです。朝鮮戦争のとき、日本はお金を、特需景気で金を稼いだ。そのなかに、在日も入れられているわけです。お前らも、苦勞しなかつたと。樂して、対岸の火事みたいな、と、これがすごく大きいと思ひます。それと、一部には例えば政治家なんかもそういうた発言をちよちよこ聞きましたけど、日本にいてる在日はドン百姓の出身や、と。韓国でも結構新聞の表現は厳しいこと言つたりします、ヤンバンと言つたりいろいろ言つたりしますけど、いわゆる食うや食わずというか、元々、出身が悪いというのが圧倒的にあつたんです。そのなかで留学生のなかでもいるんな人がいらして、勉強する人がいれればしない人もいる。円の力も相当に強かつた時代ですから、そういうことも目立つてということもあつたと思うのですが。ただ、ある程度親しくなつて私がいまでも親しく付き合つている友人らは、ハ・ドンギル、お前、大変やつたな、と。先ほど申し上げたような、話が出てくるくらい親しくなりましたら、大変やつたな、と。わしらが今度力になつてあげるといふ人間もいるんです。これは人間関係の浅い、深いによると思ふんですけど、おしなべて、"ハンチ

ヨッパリ”とよく言われるんです。”チヨッパリ”っていうのは日本人に対する侮称なんです。韓国人であるけど半分ぐらいやな、という。言葉が出来ない、思考方式が違う、髪型から全部違う。雰囲気も違う。それに対する距離感を置くという意味で、“ハンチヨッパリ”という言葉を書くたびにいい気はしなかつたです。そのなかで、在日であるということとで国に救いを求めていったような人たちはすごくシヨック、めげます。私みたいに、どつちかと言ったら、ちゃらんぽらんで、在日やし、しゃあないやないの、という感じ。こういう人間は免疫があるというか、ええ加減やから、そういうことに対処が出来たんかもしれません。二世のなかでも、非常に、逆に国の冷たさを感じて日本に戻ってきて、日本人に、国籍をとってしまったという同世代の人も実際にいます。それはやっぱり本国の人がおしなべてそういういった悪い感情を持っていたところによるのかなと思います。

仲尾先生 今お話になつたなかで、朝鮮戦争のときに、在日は儲けたじゃないかと。これはちよつと誤解ですね。朝鮮戦争は一九五〇年にはじまりまして、一九五二年に終わっております。それまで日本社会はどんだつたんですが、いわゆる特需で、うんと会社は儲け、これが戦後日本の復興の出だしになつた。そういう点で、戦争という人の悲惨につけこんで、日本は、ええ目したではないかと、と、こういうのがまず韓国、朝鮮の方があるとあります。けれども、この時代、在日の方は先ほどキム・ファンさんおっしゃつたように、多くの方が極貧時代、まだ極貧時代だつたと思います。在日の方が自力で経済力を付けられるようになったのは、六十年以降の高度成長がはじまつたあの中で、それこそ、必死の努力のなかで、会社を興し、そして成功していく方がようやく生まれ始めたということなので、朝鮮戦争というのは韓国の人々の誤解があるんじゃないかと思いません。そのへん、時期的なずれがよくお分かりにならないまま、そういう意識がのこっているんじゃないかという気がいたしました。それから、農民に対する蔑視ですが、これは日本でもありましたね。この一九五〇年代、一九六〇年代に、「百姓の分際で」、というようなことを平気で言っていました。それが韓国の場合は、大体十

年から十五年経済成長が遅れてはじまっていますから、そういった農民に対する偏見というか、差別意識はまだ、ハ・ドンギルさんが行かれた頃にもまだ濃厚に残っていたというのじゃないかと思うのですが、いかがでしょうか。

ハ・ドンギル氏 おっしゃるとおりだと思います。

仲尾先生 はい。有難うございました。

そのようなことだと思います。

それから次の方はお二人に、韓国への永住をあきらめられた事情をもう少し詳しくお話いただければ有り難いです。さしつかえのない範囲でお願いいたします。

キム氏 自身は前半にも申し上げましたが韓国で仕事をしたい、韓国で家族を持ちたい、という気持ちで行きました。ところが、その時の状況が全くもって、まじめに生きようとする若者、学生にとつては耐えられないという状況だったのと、これが理念的に大変だっただけではなくて、具体的に我々の後輩、同僚がたくさん捕まっている、監視される、こういう状況が実際にあつたんです。もちろん皆さん、関心の深い方々は、韓国であつた在日の学生達が絡んだ事件というのはよく見られていると思いますが、想像以上にたくさんの方がその時期にひどいめにあつていきます。まじめに勉強して、まじめに、という角度からは現実に住めない。勿論、商売で成功したりとか、うんぬんの方はたくさんいらっしゃると思います。ところが若い時期にいわゆる政治的な意識を持った人間には住みたくても住めない状況があつた。だから私は挫折して帰ってきている、そういうことです。

仲尾先生 日本での想像以上に厳しい政治情勢があつたということですね。

キム氏 そうです。

仲尾先生 はい、ではハ・ドンギルさん、お願いします。

ハ・ドンギル氏 はい、今キムさんがおっしゃつたような状況を前提にしてお聞きいただきたいのですが、私が、先ほど、「東亜日報」に、就職というか、入社試験で動いたときに、他の新聞社にも動いたのですが、「東亜日報」と他も一緒でした。二年間の、義務教育六年間、大学四年間、プラス、大学院二年間のために、大学院にいったんあがりました。二年間なので、大学院を終えて、その六年間の資格を勝ち取つて入社試験を受けんか、という多分、そういう問いかけにもなるのかなと思いますが、ただ、在日は韓国で私もみたいに若い青年というんですか、その当時はすさまじい反共国家です。日本はなんだかんだ言つても共産党があるために、民主国家というんですか、そういったとらまえ方がありまして、在日はそういったところで染まってきたので、やばい、と、思想的に反共に徹していないということで、大学院を終えて六年間ゲットしても無理やろうという話が先輩やらから聞いてきまして、やつても無駄やつたら二年間、その当時はアルバイトしながら自分の学費を確保していましたけど、徒勞に終わるんやつたら意味ないなということで、進路を変えた。一応それがあきらめた事情です。

仲尾先生 今のハ・ドンギルさんのお話もそうですが、やはり思想、言論、集会、結社の自由ということがどれほど大切かということを改めて感じます。昨今の日本も少しづつそういう時代に戻ろうとしていますけれども、自分の正しいと思う信条、思想が、すこしでもこの社会で実現できればよいということが、それぞれみん

な思っているんだけれども、それが疎外され、そういうことをやろうと思えば、逮捕されたり投獄されたり、あるいは、時には生命の危険があると、そういう社会がどれほど恐ろしいかということをお二人は今問わず語りにおっしゃっていただいたと思います。これは決して、朝鮮半島の出来事ではなくて、戦前の日本がそうでした。そういうことの教訓から、私達は二度とそうあってはいけないという思いで戦後の日本社会の再建を目指してきたはずなんです。そういうことを改めて今思い返しました。

それでは次へ進ませていただきます。

日本の外から見た日本の学校について、お二人にお聞きしたい。今の日本の学校の教育のレベルを在日の方から見て、どう思っておられるかお聞きしたい。日本で学ぶ在日の子ども達は、日本の学校教育についてどう思っているのか。私には現在、高校生と中学生の子どもがおりますので、お二人の意見をお聞きしたい、いかがでしょうか。一番目のご質問と二番目のご質問は、全く独立したそれぞれの大きなテーマではあると思いますが、お二人から一言ずつご意見をお伺いしたいと思います。

キム氏 はい。日本の学校の体験というのは、私自身の体験と、そして子どもが三人おりますが、幼稚園、小学校までは日本の学校、そして、中学校は京都の韓国学園に三人とも入れております。ですから外から見た日本の学校というのは、私自身、今皆さんにお話できる内容というのは、一般、新聞で得られる情報、そういうものしかありません。ただ私が今の時代になぜ子どもを民族学校に行かせたかというのが、何かの反応であるのかもわかりませんので、その動機を少しお話させていただきます。私は幼稚園のころから子どもたちに本名で行かせています。小学校も、もうちよつと自我が生まれる中学校のときに私が教えてあげたかったのは、その学校で言葉が完全に学べるような状況ではないというのを私は把握しておりました。朝鮮学校だけが言葉、完全にマスターできるという状況です。残念ながら京都にある韓国学園では言葉をマスターできないというのは知っております。ですから特別にそこで言葉を学ばせたいとか、特別な教育を受けさせたいとかいうのは

一切ありませんでした。ただ中学のこの時に、お前たちにはこういう仲間がいるよ、ということを知らせたりできなかった。だから、群のなかに子どもを放り込んだだけです。そのことが後、何を得てくるかというのはそこからの話で、中学校の時代にお前たちの仲間はこれだけいるよ、と。ここでは何しやべってもいいよ、と。ここでは、ハンメ（おばあさん）、ハルベ（おじいさん）のことしやべってもいいよ。そういうふうな環境だけは与えてやりたかった。知識をどうのこうのと考えずに私は送っています。これが何かの反証になればと思います。

仲尾先生 もう一つのほうはいかがでしょうか。在日の子どもたちは、日本の学校教育についてどう思っているのか。

キム氏 これも、子どもというのが果たしてこのようにお聞きになるような見方を出来るのかどうか。一般論でいろんな雑誌、新聞なんかには、いろんな教育論、出てきます。それを私も目を通しています。でも実際、ここにいらつしやる若い方々も、自分がいた時代にその学校教育、その時に目で客観的に何か表現できたのかどうか、疑問に思うのです。ですから私は自分の子どもに、そして中学校は民族学校を出ました、そして、高校は日本の学校です。末っ子だけが中、高、と韓国学園に行きましたけども、正直いつて私、子どもにお前の学校どうや、とか、日本の学校ですけど、教育方針はどうやとか、実は聞いたことないんです。だから、子どもたちが日本の学校をどう見ようとか、私は一切関心を示したことがないんです、私自身は。だから、今論議されているようなことが、どこまで具体的なことかどうかは、もう私は紙上だけでしか私は知りませんので、答えることが難しいです。

仲尾先生 有難うございます。私もそれは存じた上でご質問があつたのであえてご紹介したのですが、やはり、どういう学校に行かせるかという複数の選択肢があつた場合に、やはり学年が幼いほど、親の意向が強いです。

親は子どもに対する責任を持つて決めてあげる、ということに尽きると思うので、子ども自身が幾つかの選択肢があつて選ぶということが出来ないと思うので、日本の学校のシステムを批判できる、面白いが、面白くないか、日々の授業のことは別にしてですよ、そういうことは無理ではないかという気がしました。そういうことでよろしいでしょうか。

キム氏 はい。

仲尾先生 それでは、ハ・ドンギルさん、その2つの点、お願いします。

ハ・ドンギル氏 ご質問がすごく難しいので正直今どうお答えしたらいいか悩んでいるところなんですけど、今の日本の学校の教育のレベル、正直、ちよつと的外れているかもしれないですけど、私の娘のことでお話します。昨年、大学を出て、時間講師として建国中学校、大阪市大の近くにあるんですけど、韓国系の民族学校に時間講師として出て、その間は、公立高校の教員を目指すということで、大阪府の教員の試験にパスをしまして、いわゆる常勤講師ですね、教諭ではありません。と、ちゃんと念押しの内容をくれます。あなたは教諭ではなくて常勤講師として採用されました、ということなんですけど、本人にどこが違っているか分かってる？と聞いたら、うん、分かっている、と。教頭とか校長になれないと、そんなものになるつもりはないと、本人もはつきり言っていましたので、それでええらしいんですけども。待遇面とかそういうのは一切差はないらしいんですけど。申し上げたいことは、本人の名前なんですけど、大阪の府教委のほうで、子どもらに本名宣言をさせていく、本名で学校に通ってもらうようにという方針があるので、先生の中でまあ、言うたら本名で教壇に立つてもええとという可能性の方は以外と少ないですって。十名ぐらいしか今年、韓国・朝鮮籍の方は採用されなかつたらしいんですけど、その中で全く通称名しか私は使用した事が無いんで勘弁して下さいと

いう方が圧倒的に多かつたらしいんですね、娘の方は民族学校の時間講師もやっていた関係で通称名ではなくてハ・ヨンミ、ヨンミは朝鮮読みなんです。ただ河じゃなくてハで行って欲しいと、その説得に四回位府教委に呼び出しを受けたということなんですけれど、その時も娘からも相談を受けました。いろんな話と言うんですかね、府教委の方針はわかるんですけど、本名を宣言したらそれで良い子で、本名を宣言しなかつたら悪い子でという教育をするんやろうかというか、そういう問題が出てきたんです。例えば民族学級という問題もありますよね、大阪では非常に活発ですけれども、在日の子だけ集めて民族的な意識とか、言葉とか、遊びとか、純粹培養する様な感じがあつて、問題なのは、例えば在日の子をどういうふうにするか、遊びとか、どういうふうに扱うか、どういうふうにいじめないかという問題なんですからね。ですから、なれども、子どもに対して本名だけやつたら、それでええんかなつていうのが、なんかやつぱりこぼれ落ちてるねと、いう話をちよつとしてたんですけどもね。まだまだ私らの知つてる学校つていうのは差別が当たり前でした。今は差別はいけないうつていう、そういつた人権教育が大分拡散してきたと思つてんですけども、まだまだ何か的を外してるんやないかなという感じが私の感じとしては、ちよつとあります。娘の本名の関係で今お話をしたんですけども。あと、二番目の在日の子ども達がどう見てるか、私は子どもらを小中は一応、公立学校に入れました。ただし、高校になつてある程度考え方、私の考えとか、そういつた話が出来た様になつた段階では、私学のクリスチャンの学校に入れました。負担が大変やつたんですけども、日の丸に対しては無い方がええやろつていう私の考えです。で、上の息子だけは建国高校に入れたんです。彼の場合は中三の時にひどい暴力という差別を、いじめを受けまして、ほつておくや問題やなということで家から約二時間ぐらい掛かる所でしたけど通わせました。本人はやはり建国国に行つて仲間と出会えた事が非常に良かったような、いじめで私の中一と同じようにぐれはじめましたけど、そこから立ち直つて、その後、今はもう二十七歳になつてるんですけどね、がんばつてやつてます。こういつた方針はそれなりにいうたら子どもらに伝えていつてます。で

すから、子どもにしたら親父がそうなんやと、それについていくしかないやろうなという形やったんだろうなと思います。お答えになつてないかもわかりませんが、私の意見です。

仲尾先生 今、ハ・ドンギルさんはご自分の子どもさんの現実を通じてお答えいただいたと思いますのでこの方のご回答に直接なつてなくても間接的にですね色々考えていただけじゃないかと思ひます。それから、教育委員会、これは大阪府教育委員会ですね？

ハ・ドンギル氏 はい。

仲尾先生 これは恐らく京都府、京都市でも同じだと思ひますが、在日の子ども達に出来るだけ本名を名乗るようにということを教育の指針にしております。従つて在日の先生が常勤講師として採用された場合に在日の子どもたちにとつて一つのいいモデルになるようにという意味で出来るだけ本名で職場に立つて欲しいと。そういう意味合いからそういうことを言われてきてるんですね。それはそれで私は大阪であれ京都であれ、非常にいい方針だと思ひんですが、もう一つはハ・ドンギルさんが言われた様なご本人の思ひ。やっぱりこれで最後は決まるわけですね。ですからその辺りのところは、こうしろ、という命令ではごさいませんから、色んな、多様な意見の中でそれぞれの在日の方がそれぞれのお考えに基づいてお決めるようになるさういふことの一つの例だといふように、うかがいました。それから、これは別にどうでもいいような事ですが、先程キム・ファンさんが子ども達にですね、ハンメ、ハルベの事を自由に喋れるような、さういふ場があつてもいいんじゃないかと、いふところで民族学校の事をおっしゃいました。で、ハンメ、ハルベつて、みなさんご存じの方いらつしやいますか。ハラボジ、ハルモ二、おじいさん、おばあさんのキョンサン（慶尙）道の方言なんですね。

キム氏 方言です。

仲尾先生 キム・ファンはキョンサン（慶尚）道のご出身だということを私は聞いてわかったんですが、要するにそういうことです。一世の方のおじいさん、おばあさんの事を、孫が学校でちゃんとやる様に。というのはやっぱり家庭の中で一世ですから在日ではありませんが一番民族的であり文化的伝統を、祖国に生まれられたわけですから、それを色濃く持つて生きてらっしゃったわけですね。まだ生きてらっしゃる方もおられる。そんなわけで自分のおじいさん、おばあさんの事を日本の子どもの中にはなかなか言い辛いだろうと。そういうお氣遣いだと思っただんですが、それでよろしいでしょうか。

キム氏 ええ、その通りですね。まだ日本にはそういう子ども達が自分の学校で自由に、はつらつという環境ではないと認識してたが故にそういうふうを選んだということですよ。

仲尾先生 はい。という事でございます。で、もう一方、ご質問がお2人になりますので続けて読ませていただきます。キム・ファンさんへ、高校卒業後、就職内定が取り消された時、なんで自分かと思っただとおっしゃいましたが、それには日本の経済界の諸相なのか、差別があったからなのでしょうか。ソウル大学で東洋史は具体的にどのようなものだったのか、一部でもわかれば教えていただきたいと思えます。これが質問です。

キム氏 はい。実は私、中学校の時に就職活動してるんです。高校に進めるような状況にありませんでしたので。会社名を言えばものすごく有名な会社で、社内高校があるんです。給料貰いながら働くという。応募用紙がありました。応募用紙に国籍欄があったんです。その時私は中学校の時ですから、いわゆる外国人登録証上の国籍というのは記号ですけれども朝鮮しか書いてありません。中学校で一流会社の就職兼ねた高校、資格を

貰えるというようなものを担任の先生が私に示してくれた。当然差別は無いだろうという認識のもとに、その用紙に書き込むんです。そこには朝鮮と書かざるを得ません。そして、ある時に先生が呼び出すんです。中学校三年生ですよ。で担任の先生がその国籍欄見て職員室でおまえこれなんとかならんのかって。中学三年生の子どもに担任の先生がそんな一言。言うんです。それで試験受けました。試験はまだあの時期は貧しい頃でした、日本の学生でも大学進学なんて高校進学もまだそんなに無い時代です。受けました。二十人ほど受けたいでしょうか。その頃は学校ではいつも試験の時に百番まで名前を張り出す。その様な時代やったんです。そこに一回も名前も載らん様な生徒が全部受かっていつも常連の私が落ちてるんです。これ、子ども心にはどうか、別に証拠があるわけでもなんでもありません。でも、傍証として、「あつ」という。これが私が社会にぶつかった一番目の壁です。二度目が高校での就職活動です。その当時の洛陽工業高校といえれば日立、京阪、阪急、関電、昔の電電公社、ほとんどそういうところに入るんです。私は受けきても貰えませんでした、その中でやつと受かったところ。そして夏休みを羽をのばして楽しくして、冬休み直前にたった一枚の青い用紙、内定取消が送られてきた。これ差別だったのか証拠はなにもありません。ただそういう状況の中で何でや?となつたんです。これで答えになつたでしょうか?

仲尾先生　もう一つソウル大学の東洋史のことですね。

キム氏　私が入ったのは韓国史です。韓国史の大学院の授業というのは基本的に漢文ばつかし、原典主義で大学院そのものの授業は全く面白くありません。古文法で何らかの思想的な影響とか学問的な成果とか、このよくなものは学ばせません。ひたすら漢文の文献を読むことを要求された記憶があります。でも、学生達とは色んな話をします。ただ若い学生達が現代史の話に及べば純粹な議論が出来るわけですが、その当時の韓国では正々堂々と公の場で出来ない環境だったと言うことです、ただ一生懸命学ぶ学生達は現代史についても

よく勉強しておりました。それでよろしいでしょうか？

仲尾先生 有難うございました。最初の就職差別の件では実は私も内定を取り消された経験がありました。私は民族差別ではありませんでした。ある大手の新聞社ですが、十一月の末ぐらいに内定を取り消されたんです。理由ははっきりしているんです。お前は履歴詐称である。何故か、学生運動をしていたのにそれを全然書いてない。というんですね。確かにそれはそうです。一九六〇年安保の直前でしたから、全学連主流派として私なりに頑張っていたのですが、それはもう知れ渡っていましたので、就職差別を受けても当然だと思っていましたから、そんなもんかと思っていましたけども。その後は大変でしたけども。ですから、もう一回り下のキムさんの高校の時の在日だから排除したであろうと言うことも充分想像できるんですね。今ではそんな学生運動をやっていたとか、あるいは民族差別を露骨に言うような就職差別はありませんけれども、しかし、何も言わないで採用しないことにする。これは最も陰險な差別です。それはやっぱり今でもまかり通っているんじゃないかと思うんです。

それから、後のソウル大学の東洋史のことですが、これは私もわかりません。私も日韓の關係史をやっていますと韓国の研究者とよく出会いますが、今韓国でも北朝鮮でも一切ハングルという固有の文字によって教育が行われています。すると、漢字の教育というものが全然ないわけです。ところが韓国の歴史、朝鮮の歴史を勉強しようと思うとやはり漢文、漢字に熟達しなければ史料は一切読めないということになります。つまりハングルで書かれた近代以前の文献はほとんどないわけです。文学は別にしてですよ。まあほとんどないわけです。ですから漢文、漢字に熟達しないと研究者にはなれないわけです。従って朝から晩までそれだけやっているということでした。その結果として、韓国でも恐らく北でも立派な歴史研究者がどんどん出てきておられるんですが、やはり、そういう特訓を受けないと出来ないと言うことなんですね。ということでもよろしいでしょうか？

キム氏 はい結構です。

仲尾先生 それでは次、ハ・ドンギルさんへの質問です。朝鮮人だから、朝鮮人なのに、という言葉に随分複雑な思いをなされたとお察しいたします。それをバネに次々と道を拓いて行かれたのはすごいですね。マイノリティの有り様の、国による違い、特に日本は厳しい様だと言われましたが、どこか他の国ではどのようなものだったのでしょうか？現在イラクから多数の人々が難民として各地に散らざるを得ないわけですが、もしよろしければその人達のことをどのように思われるのか教えてください。ここではイラクの例を出しておられますが、アフガンもそうですね。それから、要するに戦争のあるところでは必ず難民がでます。そういう一つの例としてイラクというお話を出されたと思いますけども、これは過去の朝鮮半島の歴史のことも含めてハ・ドンギルさんのお考えをお聞かせ頂けたらと思います。

ハ・ドンギル氏 先程お話の中でニュージーランドのマオリの漁師さんのお話ですかね。漁業権利とかの塩梅が優先的に白人の方よりも優遇されているというお話がありましたけど、この質問でいわゆる在外同胞で私が正直一番びっくりしたのは中国の延吉自治州というんですかね、自治州の首都に行つて数名の同胞の同じ世代ですか、若い人に会つたんですけれども、一番象徴的な話が中国人男性が朝鮮族の女性とすごく結婚したがるんです。という話を聞きました。なんで？聞いたんですけどもやはり朝鮮族の女性はいわゆるご主人をちゃんと立てる、すごく働き者やと、又衛生的にも炊事であれ洗濯であれ、きちんとやると。そういう意味で朝鮮人女性と結婚出来れば子供も二人持てる。いろんなことがあるみたいなんですけども、皆さんはお解りにならないかもしれませんですけども、いわゆる朝鮮系中国人ですよ。朝鮮族は中国籍を持つてはります。ただ私がお話を受けて一番びっくりしたのは、中国人が朝鮮人に対して日本のような偏見をあまり持つていない。いわゆる配偶者として中国人女性よりも朝鮮人女性と結婚したいという人がいてる。という意識の在り

方にショックを受けたんですね。すごく象徴的な話なんですけども、いわゆる子供は二人までもてる。中国人は一人だけけれども。また公用語として中国語と朝鮮語がまかり通っている。民族学校が中国人でも朝鮮族と行うことで優先的に進学も出来る。色んな意味で朝鮮族に対する配慮を中国政府はしているんですね。勿論それは国籍を取っているだけでは理由ではないと思うんです。先程いった象徴的な話なんですけれども意識的にもニュージランドのマオリに通じるように、何かにしてマイノリティに対して非常に優しい姿勢と言うんですかね。それと優しい意識、偏見のない意識。それに比べると日本は厳しいねと思います。意識の面で。また、制度的な面で。例えば新井将敬さんでござんじだと思っておりますけれども、私らよりちよつと先輩になります。北野高校を出て、高校の時にご家族の方日本国籍を取られてそのまま経済官僚を経て秘書になり国会議員になられたのですけれども、日本国籍を取って数十年経った後で今の東京都知事の石原さんではないですけど、東京の第四区だつたと思えますけど、そこで出たら「北朝鮮から来た。」というステッカーを何万枚も貼られて、まあ言うたらこの感覚ですよね。私はこの感覚になれていたところがあつたので中国人男性が朝鮮人女性と結婚したがる。というのはすごくショックだつたんですね。そういう意識の在り方というのが。そう言うところで日本は色んな意味ですごく過酷ですね。といった意味のお話の中身です。イラクの難民というのは私らもどちらかと言つたら植民地支配による難民の三代目とか二代目という事になろうかと思えます。まあ歴史というのはまだそんなに正義が通じるように回っていつてないんですけども、やっぱり弱肉強食つて言うんですかね。大國のエゴつて言うのか、大國によって朝鮮が植民地になつて、至るまでにも数多くの犠牲があつたと思えます。植民地時代にもやはり犠牲がありました。今問題になつてゐる慰安婦問題の協議だ、抗義だ。と言う解釈に非常にあほらしいんですけどそういった話もまた出るような形になつてゐるわけですけども、やはりイラクの人を思うときにアメリカの理不尽さというのはいつておきます。イラクの人がカリフォルニアいつて無茶苦茶やつてゐるわけではない訳ですから、やはり痛みを受ける。私らなりにいうなら色んな転換点、言つたら挫折。キム先生は挫折と言う言葉使つていましたけれども、結構あつさり言うてるんですけども本人にしたら悩ましい所も実

際あります。そういった感性、気持ちを経験している人間とするとどうしてもやられていてる方に当然のごとく目がいつちゃうんですね。そっちの方の味方をします。ですからイラクの人は日本にいて、それなりにがんばって生きて行かにゃあきません。国も統一すると思います。私らの世代に、生きているときに統一せなあかんと思ってるんですけども、イラクもやはり迅速して立派な国をやっていくような形で。今は難民という形になっていきますけど長いスパンで頑張つて欲しいなというのは私が思っているところです。

仲尾先生 はい。有難うございました。最後はご感想です。読ませていただきます。私は韓国語が好きになり、家で少しづつ勉強をして四年になります。きちんと学校に行つて学びたいと思つていますが、現在、子どもは高校生、中学生と子育ての真只中。仕事もしていて時間は全くありません。昼休みに歌を聴き、本を読み、出来るだけ韓国語に触れる様にしています。今は映画を見たり言葉だけではなく韓国・朝鮮のことも知らないと思ひ、出来るだけ講演に参加しています。ここ近年冬のソナタの影響で、韓流ブームになっています。嬉しい反面、昔の日本と朝鮮の問題が全く関係なく広がっているのが残念です。皆さんはどう考えているのかなあ?と思います(フアンの叔母さん達)と書いております。

こうやって国民同士が少し近い存在になっておりますが政治的にはまだまだギクシャクしています。竹島(独島)問題、拉致問題も早くお互いに納得できる解決が出来ればと思います。辛いです。追伸、今週たくさんの方が職場に見学に来られ少し交流が出来ました。言葉は殆どわからない中、少し会話が出来たことが嬉しかったです。

このように最近の日韓の交流の在り方についての意見がございます。まあこれは我々ここにいるみんなが、一人一人がどのように一つ一つの問題を考えていくか、と言うことで私達全体に投げかけられた宿題とさせていただきます。近年の問題については宣伝をさせていただきますと、今年の一月にですね、龍谷大学の田中宏さんと同志社大学の板垣竜太さんの編集で、「日韓一新たな始まりの二十章」という小さな本が生まれ

た。私もその内の一章を書かせていただいておりますが、このような政治的な問題、歴史の問題、在日の問題、コンバクトにまともた本ですので、また是非ともこのようなものも参考書の中に入れてお考えいただければ良いかと思えます。そういうことで今回は今までの教育の問題、マイノリティの問題を扱う中で日本から離れて一旦韓国に住まわれた方、また新しいご経験を持ち主の方をお招きして大変ユニークな、或いは大変有益な、或いは心に残る色んなお言葉をこの場でお聞かせいただいたこと、本当に有難うございました。今年のセッシヨンもこれで終わりですけれども、また来年も新しいテーマを見つけ、また新しい方にも登場していただいて、様々な京都の在日、関西の在日のお話を伺い、それを我々の心の糧として活かしていきたいと思えます。どうも今日はお二人有難うございました。

有難うございました。

司会 これ連続フォーラム「チヨゴリときもの」第十四回を終了いたします。今後多角的により多くの方のご意見やお考え、お話を伺えるような企画を考えてまいります。来年度のチヨゴリときものフォーラムにも是非お運びいただけますようにお待ち申し上げます。本日は皆様有難うございました。

連立フォーラム 千ヨゴリときもの

| 開催年度         |                       |  |
|--------------|-----------------------|--|
| No.1 1992年度  | 「在日韓国・朝鮮人はいま—その生活と意見」 | ①歴史～ふるさとを離れて<br>④文化～わが家の韓国・朝鮮文化<br>③教育～在日の心を育てる<br>④仕事・生活⑤若者と将来  |
| No.2 1993年度  | 「新しい時代に向かう日本人、韓国・朝鮮人」 | ①在日韓国・朝鮮人の教育観<br>②若者たちの祖国観と日本観<br>③朝鮮文化とともに生きる<br>④国際社会、日本の中での在日韓国・朝鮮人                                   |
| No.3 1995年度  | 「在日韓国・朝鮮人の誇りと将来」      | ①国際結婚と民族文化<br>②民族教育から生まれた在日の心<br>③在日の将来<br>④在日の誇れ  |
| No.4 1996年度  | 「日本に生きる在日韓国・朝鮮人」      | ①民族意識と日本の学校<br>②日本で働く<br>③国籍が持つ意味と結婚<br>④在日の老人福祉   |
| No.5 1997年度  | 「在日韓国・朝鮮人、その世代と意識」    | ①教育で生まれる意識<br>②名前への思い<br>③生きる一老後<br>④在日の現状と未来  |
| No.6 1998年度  | 「子育てと学校教育」            | ①幼児と就学前の子を持つ保護者<br>②小・中学校に通う子を持つ保護者、その1<br>③小・中学校に通う子を持つ保護者、その2<br>④高校生への思い                              |
| No.7 1999年度  | 「豊かな共生時代にに向けて」        | ①進学について(高校生) ②就職について(大学生) ③仕事について(社会人)<br>④在日高齢者の福祉について(高齢者)   |
| No.8 2000年度  | 「統一と和解を目指す祖国—在日はいま」   | ①在日の青年として ②演劇—在日を生きるとは ③子どもにも教えること ④祖国を思う  |
| No.9 2001年度  | 「日本に生きる一国籍と民族」        | ①在日の介護の現場で…共に生きる ②半世紀ぶりの故郷<br>③演劇「在日コリアンと日本社会～真の共生社会を目指して」<br>④公演「民族意識と共に」                               |
| No.10 2002年度 | 「10回目の誓」              | ①ふりかえりフォーラム「若者—その後」 ②ふりかえりフォーラム「生活—その後」<br>③市民国際セミナー「祭祀—故人をとりむらう心」 ④市民国際セミナー「トルチャンチ—1歳を迎えた祝宴」            |
| No.11 2003年度 | 「コリアンサロン」あり」          | ①キムチ物語 ②民族教育をみる ③在日の年金は？   |
| No.12 2004年度 | 「日本で活躍する在日」           | ①「公共機関」で活躍する在日コリアン ②「民間会社」で活躍する在日コリアン<br>③「自営業」で活躍する在日コリアン ④「韓国からのニューカマー」                                |
| No.13 2005年度 | 「在日の100年・60年・40年」     | ①朝鮮の朝鮮半島と渡日 ②8・15と戦後史 ③日韓条約と未来<br>④市民国際セミナー「在日の半世紀～韓国『血と骨』上陸～」   |
| No.14 2006年度 | 「在日の教育と進路」            | ①日本の学校現場から ②日本の学校を選択しなかつた私と私の子どもの場合 ③私の子どものころ—在日の子どもと日本の学校— ④日本の外から見た日本の学校と民族内マイノリティー—日本社会から飛び出した在日コリアン— |

暮らしの中の市民として一

「京都に生きる在日韓国・朝鮮人」(編集・発行(財)京都市国際交流協会 / 1994年)から

### 京都市立学校外国人教育方針

一主として在日韓国・朝鮮人に対する

民族差別をなくす教育の推進について

平成四年三月

(一九九二年)

京都市教育委員会

国際化が進展する中、日本人児童・生徒はもちろん、すべての児童・生徒に自らにかかわる民族や国に対する自覚と誇りを高め、国際的な広い視野のもとに、他の民族や国の主体性と尊厳に対する認識を深め、国際協調の精神を養う教育は極めて重要である。

しかし、日本の社会には、今なお、近隣アジア諸国等の人々を軽視したり、蔑視したり、忌避したりする等の意識が存在している。とりわけ、在日韓国・朝鮮人については、日本の植民地政策等の歴史的・社会的背景から民族的偏見や差別が根深く存在しており、その解消に向けての取組は本市教育の重要な課題である。このような認識の下に、京都市立学校においては、これまでから在日韓国・朝鮮人に対する民族差別をなくす教育を推進してきたところであるが、今後ともこの教育の一層の拡充が必要である。

### 外国人教育推進の経過と現状

昭和五六年(一九八一年)、日本の社会に存在する在日韓国・朝鮮人に対する民族差別をなくすことを目指して、市立学校教員及び指導主事で組織した外国人教育研究推進委員会が提示した「外国人教育の基本方針(試案)」に基づき取組が始まって以来一〇年余りが経過した。その間、小・中学校においては、外国人教育研究会が創設され、組織的・体系的な研究活動が開始されるとともに、指導資料等の作成・各種研修会の実施などの取組がなされた。また、各学校においては、取組の充実に創意ある実践など一定の成果がみられるようになった。高等学校においても、校内組織として外国人教育委員会が設けられたり、部活動としての朝鮮文化研究会等の活動が進められてきた。

教育委員会においては、外国人教育研究会等との連携を図りながら、在日韓国・朝鮮人に対する民族差別をなくすことに視点を置いた取組を進めてきた。すなわち、教育課程指導計画、岡指導資料等の作成、外国人教育研究会の研究・研修活動への助成、外国人教育主任研修会の開催等を行うとともに、京都市立中学校校長会、京都市中学校体育連盟及び

京都市立中学校教育研究会との連携の下、民族学校の京都市中学校体育連盟への加盟と京都市中学校春季・秋季総合体育大会や京都市中学校総合文化祭への参加を実現し、生徒の交流の促進を図るなど、多岐にわたる取組を行ってきた。

なお、民族学校が京都府高等学校体育連盟主催の京都府高等学校総合体育大会に参加したり、京阪神三都市中学校体育大会に参加できるような状況も生まれてきている。

更に、諸外国の人々と接し、外国の文化や習慣などに触れる機会を設けることにより、他の民族や国に対する理解を深め、国際協調の精神の基礎を培うことを目的とする「ことも国際クラブ」を小学校に設置するなど、国際理解教育の視点に立った外国人教育の一層の拡充を図っている。

平成三年（一九九一年）現在、京都市立小・中学校に在籍する在日韓国・朝鮮人児童・生徒は、三、七二七人の多数に上り、全市児童・生徒に占める割合は二・八パーセント、また、在籍する全外国籍児童・生徒の九五・八パーセントを占めている（平成三年度学校現況調査）。本市立学校に韓国・朝鮮人児童・生徒が在籍している実態は、韓国・朝鮮人の在日の歴史的・政治的経緯や社会的背景によるもの

のである。一方、近年、日本国籍の取得や日本人との婚姻が進行し、在日韓国・朝鮮人児童・生徒と同じ背景をもちながらも日本国籍をもつ子供が増加している事実も生じてきている。

最近の調査（平成二年度（一九九〇年度）の調査検討委員会）によれば、在日韓国・朝鮮人児童・生徒の長期欠席率、間欠行動率は、昭和五三年度（一九七八年度）の外国人教育研究推進委員会の調査（以下「昭和五三年度調査」という。）に比べて日本人児童・生徒との格差は縮小しているが、なお日本人児童・生徒を上回っており、依然として課題が現存している。

また、高等学校進学率は八九・七パーセントであり、昭和五三年度調査と比較して若干の前進はみられるものの、全市平均の九五・三パーセントに対し、依然として格差がみられる（昭和五三年度調査によれば、在日韓国・朝鮮人生徒八四・九パーセント、全市平均九二・五パーセント）。このことは、なお在日韓国・朝鮮人児童・生徒の教育を受ける権利に対する保障が十分なされていない実態のあることを示している。

更に、京都市立小・中学校に在籍する韓国・朝鮮人児童・生徒のうち、本名を母国音

読で名乗る者は現在二・二パーセント（日本国籍五・八パーセント）であり、昭和五三年度調査の〇・三パーセント（日本国籍二・四パーセント）と比較して増加がみられるものの、大多数の韓国・朝鮮人児童・生徒が通称名（日本式氏名）を使用しているのが現状である。在日韓国・朝鮮人に対する蔑視、忌避、排除等の言動が現在もなお広くみられ、在日韓国・朝鮮人が他の在日外国人と異なって二つの名前をもたざるを得ないことは、日本の社会に根強く存在する民族的偏見や差別によるものである。

#### 外国人教育推進の視点

こうした現存する在日韓国・朝鮮人に対する民族的偏見や差別の実態については、その歴史的・社会的背景から日本社会の人権問題としてとらえなければならぬ。したがって、その解決は日本の社会における人権の確立と民主主義社会の形成に欠くことのできないものであり、在日韓国・朝鮮人に対する民族的偏見や差別をなくす教育は、人権教育における重要な課題として、他の人権問題にかかわる教育とともに、一層推進しなければならぬ。

更に、外国人教育は、国際理解を深め、国

際協同の精神を養う教育の一環である。すなわち、それぞれの民族・國の文化や伝統を価値あるものとして互いに認め合い、社会をより豊かにするものとして尊重する教育の取組である。これは、とりもおおさず国際人権規約等の理念を具現化する営みでもあり、日本に在在するすべての外国人の主体性や民族性を尊重し、その人権を確立することにつながるものがある。

今日、国際化が著しく進展し、様々な國の子供たちが本市立学校に在籍するようになりつつある一方で、外国人と日本人との婚姻や外国人の日本国籍の取得が進行するなどの状況においては、国際的な広い視野のもとに、自らにかかわる民族や國に対する自覚と誇りを高め、かつ、共に生き、共に発展していくことの大切さを理解させる教育は極めて重要である。

外国人教育は、こうした認識に立つて京都市立学校に在籍するすべての児童・生徒を対象とし、すべての学校で組織的、計画的かつ継続的に推進しなければならない。

#### 一 目標

外国人教育を推進するため、次に掲げる目標を設定する。

○すべての児童・生徒に、民族や國籍の違いを認め、相互の主体性を尊重し、共に生きる国際協同の精神を養う。

○日本人児童・生徒の民族的偏見を払拭する。

○在日韓国・朝鮮人児童・生徒の学力向上を図り、進路展望を高め、民族的自覚の基礎を培う。

外国人教育は、人類普遍の原理である人権を確立し、すべての人々が民族や國籍の違いを認め、共に生き、共に発展していく社会を創造することを目指すものであり、とりわけ、在日韓国・朝鮮人に対する民族差別をなくすことを目指す教育である。

すべての児童・生徒に、民族や國籍の違いを認め、その相違を超えて互いに理解し合い、共に生きる国際協同の精神を養うことは極めて重要である。そのことが、互いの民族や國の文化・伝統の多様性や異質をそれぞれ価値あるものとして認め合い、社会をより豊かにするものとして尊重し、共に生きる社会の形成者を育成していくものである。

日本人児童・生徒に、今なお日本の社会に存在する近隣アジア諸國等の人々を軽視したり、蔑視したり、忌避する等の意識を払拭させることが重要である。

とりわけ、在日韓国・朝鮮人に対する民族的偏見や差別を払拭させることが重要な課題である。そのためには、社会の中にある差別の実態に着目させ、韓国・朝鮮人の在日及び民族差別の歴史的政治的背景を中心とする日朝関係史を正しく理解させるとともに、朝鮮民族の文化や伝統について学習させることが必要である。そのことが、民族差別の不正性について気付かせ、相互理解の必要性及び朝鮮民族の主体性と尊厳を認識させることにつながるものである。

在日韓国・朝鮮人児童・生徒に、学習への意欲を高め、目的意識をもって主体的に学習する能力や態度を育てること、更に、民族の歴史や文化の価値について認識を高め、民族としての誇りをもたせることが必要である。そのことが、学力向上を図り、進路展望を高め、民族としての自覚の基礎を培うことにつながる。日本の社会に存在する民族差別に打ち勝ち、自己実現を図る大きな力となる。

日本の植民地政策等に起因する民族差別の歴史的・社会的背景の中で、今日、日本に韓国・朝鮮人が多数在住しており、また、そうした状況の中で日本の社会には、二つの名前に象徴されるような民族の主体性にかかわる矛盾が存在している。

これは、止むを得ず多数の韓国・朝鮮人が日本に在在し日本人らしく生活しなくてはならないという実態を示しており、また、そのことは、客観的な事実として日本人が在日韓国・朝鮮人の民族としての主体性を認知していないということである。そして、在日韓国・朝鮮人にとつては、民族としての主体性を主張し得ない状況に置かれているということである。

一般に、民族とは、歴史的運命、言語・習慣などの文化的伝統を共有する集団であり、民族の自覚や民族意識の形成は、その言語・習慣などの文化的伝統を通してなし得るものといわれる。したがって、民族の手による民族教育の場は十分尊重されなければならない。しかし、在日韓国・朝鮮人の多数の子供たちが日本の公立学校に在籍している現実を踏まえるとき、日本の公立学校として、これらの子供たちに民族的自覚の基礎を培うことは、日本人児童・生徒に日本人としての自覚を育てることと同じく重要な教育課題である。

## 二 内容

学校の教育活動全体を通じて、次の内容にかかわる指導を推進するとともに、保護者啓発を進める。

(一) 人権にかかわる学習を中心に、人間の尊重についての考え方を深めさせるとともに、国際的な広い視野から、他の民族や国の文化や伝統を尊重することの大切さについての学習を通して、その違いと主体性を認め、互いに理解し尊重し合い、共に生きることが大切であることを認識させる。

(二) 日本とアジアの近隣諸国との近現代史を正しく理解させ、明治以降大正・洋戦争に至る日本の侵略がこれらの国々に多大の損害を与えたことを踏まえ、今日の日本がこれらの諸国との友好親善を一層進めることが大切であることを認識させる。

(三) 日本が行った植民地政策等の歴史的事実について学習させるとともに、固有の文化をもち独自の発展を遂げた朝鮮の歴史と、古くから日本と政治・経済・文化等の面で深い交流があった朝鮮の歴史が日本の歴史に大きな影響を与えたことを学習させ、日本との歴史的な関係について正しく認識させる。

(四) 日本の社会に存在する在日韓国・朝鮮人に対する民族差別の実態に着目させ、民族的偏見や差別は人権尊重の立場から許されないことを認識させて、在日韓国・朝鮮人児童・生徒と日本人児童・生徒が相互の主体性を尊重し、高め合い、共に生きる態度を育てる。

(五) 各教科、特別活動等において、朝鮮の文化・芸術、生活等に触れる学習の機会を計画的に設け、豊かな朝鮮文化について正しく認識させる。

(六) 民族学校等の児童・生徒や在日するその他の外国人との交流の機会を拡充し、相互理解を深めさせる。

(七) 在日韓国・朝鮮人児童・生徒には、教育活動全体を通じて指導の焦点化を図る中で、  
① 基礎的・基本的な内容の指導を徹底し、自己実現を図るため主体的に課題を解決していく能力と態度を育てる。

② 日朝関係史や朝鮮文化の学習を通して、民族の歴史や文化の価値について認識を深め、民族としての自覚と誇りを高める。

(八) 民族差別の不当性と社会の中からすべての差別をなくすことに関し、保護者の認識を深める。

## 三 推進体制

(略)

## 四 指導に当たったての留意事項

(略)

○在日朝鮮人(韓国・朝鮮人)関係略年表

| 年    | 主要事項  |
|------|---|
| 一九一〇 | 「韓国併合」。朝鮮総督府設置・武断政治開始。  |
| 一九一一 | 朝鮮教育令公布。  |
| 一九二二 | 土産調査令公布。  |
| 一九二九 | 三・一独立運動勃発。「文治政策」開始。   |
| 一九三〇 | 産米制穀引團創設。   |
| 一九三三 | 関本之善六 多数の朝鮮人が官意と自警団の手によって暗殺される。   |
| 一九三七 | 「皇国臣民課綱」などを制定・閣議強奪。日中戦争本格化―侵襲強行。  |
| 一九三八 | 朝鮮「国家総動員法適用令公布。朝鮮陸軍特別志願兵令公布。教育令改正。  |
| 一九三九 | 中央徴用会(本土の徴用団体)結成。国民徴用令公布。朝鮮人労働者の募集開始。   |
| 一九四〇 | 徴用令を改正。   |
| 一九四一 | 大正非戦令始まる。大正民国臨時政府対日宣戦布告。  |
| 一九四二 | 朝鮮人労働者募集の官統開始。  |
| 一九四四 | 朝鮮で女子挺身労働令公布。国民徴用令適用。本土各地で朝鮮人労働者の逃亡・抵抗続出。   |
| 一九四五 | 日本敗戦。朝鮮などを解放。ただちに帰国始まる。戸籍法の適用を受けながらの多岐難存耳。米土超党派対峙。「在日」は「解放国民と旧徴用民」の両難性ありとする。在日朝鮮人選別開始。各地に国語講習所(民族学校)設置が始まる。 |
| 一九四六 | 特司令部の指示により帰国希望者の登録開始。   |
| 一九四七 | 外国人登録令(勅令)五・二。日本国憲法施行(五・三)。   |
| 一九四八 | 臨時教育令。朝鮮人の子は日本学校(庶民学校)ありとされる。   |
| 一九四九 | 徴用令で募集業務。大韓民国成立。北朝鮮で朝鮮民主主義人民共和国成立。  |
| 一九四九 | 勅令に解散命令。民族学校解散命令。   |
| 一九五〇 | 朝鮮令始まる。現行の先住民保護法成立。外国人には「準用」と明記。  |
| 一九五一 | 日韓字價交換開始。   |
| 一九五二 | サンフランシスコ講和条約発効。在日韓国・朝鮮人の日本国籍審判が確定。  |
| 一九五三 | 外国人登録法公布。思治法など成立。国籍条項のため旧領民地出身者は排除される。  |
| 一九五三 | 朝鮮休戦協定締結。文部省官選定で韓国・朝鮮人の義務教育就学義務なし、とされる。   |
| 一九五五 | 外国人登録法による帰国届開始。   |
| 一九五九 | 日・朝鮮十五社による「朝鮮留學奨励会」結成。帰国奨励始まる。  |
| 一九六五 | 日韓基本条約締結。在日韓国人の法的地位協定締結。文部省官選定で民族学校の各単字校認可を受け、日本学校での受け入れ。「在日」児童の特別教科課程編成を否定。                                |
| 一九六六 | 出入国管理法特別法施行。「帰定本住」申請開始。   |
| 一九七〇 | 大陸派遣奨励委員会。選定産地産地教育団体に外国人教育の項目を入れる。  |
| 一九七四 | 日立派選別問題解決で「在日」の児童数減少。   |
| 一九七七 | 「在日」初の司法修習生誕生。  |

|      |   |
|------|---|
| 一九七九 | 国際人権規約批准・発効。公営・公団・金融機関職員の門戸開放。  |
| 一九八二 | 難民条約発効、国民年金に加入資格。児童手当三法の適用。<br>国立大学教員の外国人任用法制定。入管法、出入国管理及び難民認定法の改正。   |
| 一九八四 | 郵便外務職員採用の国籍制限事項撤廃。  |
| 一九八五 | 国籍法改正、男女両系主義となるが、子は二〇歳まで一律日本国籍とされる。<br>将校降参拒否運動高揚。法務省は拒否者の在留更新を不許可とする。  |
| 一九八六 | 国民総隊、一年以上在留の外国人に適用。看護専門職の国籍制限事項撤廃。  |
| 一九八七 | 外国人登録法改正、指紋押捺は一回限りとする。  |
| 一九八八 | 東京都内各市、一般事務職採用の国籍制限事項を撤廃。   |
| 一九九〇 | 朝鮮人強制連行者の調査始まる。   |
| 一九九一 | 日韓外相「書翰」調印、「在日」に特別永住資格入管特別法制定を認める。過去強制は存続。<br>公立学校教員は教諭を認めず、「常勤講師」となる。  |
| 一九九二 | 外国人登録法改正、永住者は指紋押捺を廃止し、署名・捺指登録となる。<br>「在日」への入居差別に対し大阪地裁が原告勝訴の判決。大阪府岸和田市議会で、初の外国人<br>地方参政権要請決議、そのうち九七年までに約二〇〇の地方議会が同様の決議。   |
| 一九九五 | 大阪地裁、元軍風からの戦後補償提訴について原告敗訴とするが、遺棄の疑いありとの判決。<br>最高裁、地方参政権問題は立法の裁量権の問題と判断。   |
| 一九九六 | 白川自治用、地方公務員採用の国籍制限事項は地方自治体の判断に任せると説明。   |
| 一九九七 | 大阪で開催の国民体育大会で女生手に限られていた外国籍選手が卒業後も参加できるよう<br>になった。   |
| 一九九八 | 日本弁護士連合会が政府と国会に対して民族学校卒業生の国立大学受験資格と交付金の助成<br>等について勧告書を送付。<br>北朝鮮の「ミサイル」発射騒ぎ報道からんで、各地で朝鮮総聯事務所等が襲撃され、民族<br>学校生徒らも脅迫を受ける。<br>国連人権勧告委員会が「取捨見捨」として民族学校の未承認、再入国許可条件の撤廃等、在<br>日の人権にかかわる報告を採択。                                |
| 一九九九 | 改正外国人登録法が国会を通過。一年以上滞在の外国人に対する指紋押捺の免除、「不法残<br>留罪」などの新設を盛り込む。   |
| 二〇〇〇 | ウトロ訴訟、最高裁審理ですべて被告・在日側の敗訴となる。<br>金大中韓国大統領が平壤を訪問して朝鮮民主主義人民共和国の金正日総書記と会談。その結<br>果の一つとして総連派の在日朝鮮人が韓国を初訪問。また各地で民団と総連派の各種団体の<br>交流が行われる。<br>民族学校卒業生の大検受験要件について、文部省は日本の高校在籍要件をはずす、と決定。<br>石原東京都知事「三國人」などと民族差別にかかわる発言をすも撤回せず。 |
| 二〇〇二 | 平壤で日朝首脳会議。国交再開交渉をめざすが、日本拉致問題により停滞、日本国内で民<br>族学校生徒や団体事務所へのいやがらせ、暴行が頻発。   |
| 二〇〇三 | 国立大学の受験資格について、文部科学省は欧米系および韓国学校などの受験資格を認める<br>が、朝鮮学校については種々の大学で受験生の申請により許可の判断を行う、と決定。  |

## 1、はじめに

本論に入る前に、みなさんが次のような発言をなさる場合、通常、「韓国 / 朝鮮」のどちらを使おうと直感的に思われるか、少し考えていただきたい。

例① 「20世紀には不幸な歴史があったものの、高句麗・百済・新羅などのあった古代には、日本と（韓国 / 朝鮮）とはお互いに友好関係を築いていました」

例② 「ご紹介します。パク・ヨンシクさんは1927年に、（韓国 / 朝鮮）のプサンでお生まれになり、6歳のときにご両親と日本に渡ってこられました」

例③ 「『おいしい』って、（韓国語 / 朝鮮語 / ハングル / 韓国・朝鮮語）で何て言うんですか？」

おそらくは、ほとんどのみなさんは直感的に、「韓国・韓国語・ハングル」などの言葉をお使いになることだろう。言い換えれば、「朝鮮・朝鮮語」という言葉は直感的に避けようとなさるものと思われる。

それでは現在の日本で、「朝鮮」という言葉はどのような扱いを受けているのかを、報告者が目撃・体験した事例を通して考えてみる。

## 2、テレビ欄のなかの「朝鮮」

2月10、12（13日分含む）、14日の4日分の『朝日新聞』朝刊のテレビ欄から、朝鮮民主主義人民共和国（以下 朝鮮）関連の報道内容を含むテレビ番組の「見出し」のうち、朝鮮（北朝鮮）を単独で指し示した言葉の入っているものを拾ってみると以下の通りである。

2月10日分

①「6カ国協議 北が主導か」 読売テレビ『ウエーク！』

2月12日分

①「金正男氏北京で激撮 神出鬼没 ”北の王子。”ABC テレビ『スーパーモーニング』

2月13日分

①「北見返りめぐる攻防」 関西テレビ『めざましテレビ』

②「難航する6カ国協議 北の戦術は」 毎日テレビ『みのもんた朝スバッ！』

2月14日

①「核施設を閉鎖…見返りは重油100万トン “北、大成果？” 関西テレビ『とくダネ！』

②「6カ国協議合意の裏で…新潟に北朝鮮から貨物船入港」 読売テレビ『スッキリ!!』

③「北朝鮮は思惑通り? 6カ国協議合意で今後の日朝関係はどうか? 青山がズバリ読み解く」 関西テレビ『アンカー』

上記7件のうち、朝鮮を「朝鮮」と記したものは0件、「北朝鮮」が2件、「北」が5件であった。現在の日本において朝鮮は、「北」という方角名で片付けてもいい存在のようである。外国人に方角を表す言葉で呼ばれている国は、朝鮮以外にあるのだろうか? どなたかにご教示願いたいものである。

### 3、誰も使わない「朝鮮」語授業

報告者は大阪の府立高校2校で朝鮮語を教えている。1校での科目名は「朝鮮語」、もう1校での科目名は「韓国語」である。

報告者自身は、①「朝鮮語」という呼び名への愛着と、②南北朝鮮と日本・中国・旧ソ連などで使われている言語の名称は、朝鮮の南北分断前から、先にあげた地域の朝鮮人たちがみな共有していた「朝鮮語」という名称でしかくくりえない、という考えから、「朝鮮語」という名前を常に使っている。これは授業中も然りである。

ただし、「韓国語」と「朝鮮語」をまったく違う言語のように誤解している生徒たちに注意を喚起すべく、「韓国語」と「朝鮮語」を一緒に使うことも多い。

この言語の名称をめぐる、上記2校で次のような事例があったので紹介する。

事例①2校の生徒とも、「韓国語」とは言っても、決して「朝鮮語」とは言わない。

②2校とも、朝鮮人生徒が数人受講しているが、彼らも「韓国語・韓国語」とは言っても、決して「朝鮮人・朝鮮語」とは言わない。

③「조선사람:朝鮮人」という単語を発音させたときの生徒たちの声が、「한국사람:韓国人」という単語を発音させたときの声より著しく小さくなる。

④「한국사람:韓国人」という単語が入った文章を作文させたのち、「黒板に出て誰か書きなさい」というとすぐに手を挙げるのに、「조선사람:朝鮮人」という単語が入った文章の場合は、だれも手を挙げようとならない。

上記の事例は何も高校生に限った話ではない。報告者が朝鮮語を教えている社会人学習者たちも、まったく同じ行動をとっているのである。

### 4、触らぬ「朝鮮」に祟りなし

高校生らも社会人らも口にしようとはしない「朝鮮」。

日本人は言うに及ばず、いまや、在日朝鮮人すら口にしようとならない「朝鮮」。

「使おうとしない」ということは、言い換えれば、「朝鮮」を使うことによって、何かの良からぬ問題が生じるのを自覚している、あるいは、危惧しているということではなからうか？ それでは、「朝鮮」を使うことによって起こる良からぬ問題とは一体何なのであろうか？

①一見、表面的にはなくなったかのように見える、あるいは、なくなったかのように見せなければならぬのであろう朝鮮人に対する日本人・日本社会の差別・差別感情が、「朝鮮」という言葉を使うことによって思い起こされるからなのであろうか。

②「朝鮮」という言葉を使うことが「拉致・金正日独裁・核・ミサイル・脱北者・偽ドル」で想起される「史上最悪の国家 北朝鮮」を思い起こさせたり、はたまた、「史上最悪の国家 北朝鮮」の同調者とみなされる目安だからであろうか。

③韓国人は「朝鮮」という言葉を嫌い、韓国政府が「韓国」という言葉を使えと言っているから、韓国・韓国人に配慮して「韓国」と言い換えるのであろうか？

すなわち、上記の①ような、朝鮮人と日本人の間の民族的アイデンティティにまつわる葛藤の問題と、上記②③のような社会主義か資本主義といった政治体制間の葛藤の問題という2つの要因が、現在の日本社会から、従来「朝鮮」と言っていたものを「韓国」や「コリア」と置き換えることで、「朝鮮」を駆逐していつているのではと、報告者には思えるのである。

「朝鮮」という言葉の入った単語の中で、今なおかろうじて命脈を保っているのは、「北朝鮮」と「朝鮮半島」ぐらいであるが、「それでは果たして『南朝鮮』とはどこのか」と考える人はいるのだろうか。疑問である。

## 5、結び

「朝鮮」、今のご時勢、ほとんど忌み言葉に近い言葉。

「韓国」、今のご時勢、本当に身近でエネルギッシュな明るい言葉。

「朝鮮」は「韓国・北朝鮮か北」に、「朝鮮人」は「韓国人」に、「在日朝鮮人」は「在日コリアン」に、そして、「朝鮮語」は「韓国語・ハングル」という具合に、言葉の言い換えは着々と進んでいる。

日本人はまだしも、朝鮮人の当事者たる在日朝鮮人たち自身が、自称たる「朝鮮人」を使うのがはばかられている今の状況は、日本社会の一側面をよく映し出してくれてはいないだろうか。

「朝鮮」という一言を言うか言わないかで、言う側も聞く側もびりびりしなければならぬ、そのような状況下で、報告者はこのお話を終えようとしているのである。



## 朝鮮学校リンク

### 関東地方

|              |   |
|--------------|---|
| 朝鮮大学校        | <a href="http://www.korea-u.ac.jp/">http://www.korea-u.ac.jp/</a>                               |
| 茨城朝鮮初中高級学校   | <a href="http://www.hakkyo.ac.jp/">http://www.hakkyo.ac.jp/</a>                                 |
| 東京朝鮮中高級学校    | <a href="http://www.t-korean.ed.jp/">http://www.t-korean.ed.jp/</a>                             |
| 東京朝鮮第一初中級学校  | <a href="http://www.ten-catv.ne.jp/~t-kor1/">http://www.ten-catv.ne.jp/~t-kor1/</a>             |
| 東京朝鮮第二初級学校   |   |
| 東京朝鮮第三初級学校   |   |
| 東京朝鮮第四初中級学校  | <a href="http://korea4.dde.jp">http://korea4.dde.jp</a>   |
| 東京朝鮮第六初級学校   |   |
| 東京朝鮮第九初級学校   |   |
| 神奈川朝鮮初中高級学校  | <a href="http://www.pekdu.ac.jp/">http://www.pekdu.ac.jp/</a>                                   |
| 川崎朝鮮初中級学校    |   |
| 南武朝鮮初級学校     |   |
| 鶴見朝鮮初級学校     |   |
| 西東京朝鮮第一初中級学校 | <a href="http://www.n-cor.net/">http://www.n-cor.net/</a>                                       |
| 西東京朝鮮第二初中級学校 | <a href="http://www9.ocn.ne.jp/~nisiskr2">http://www9.ocn.ne.jp/~nisiskr2</a>                   |
| 千葉朝鮮初中級学校    | <a href="http://www.tonjpa.com/chiba-hakkyo">http://www.tonjpa.com/chiba-hakkyo</a>             |
| 埼玉朝鮮初中級学校    | <a href="http://www.gocities.co.jp/NeverLand/7455">http://www.gocities.co.jp/NeverLand/7455</a> |
| 群馬朝鮮初中級学校    | <a href="http://kyuk.ne.jp/gunma/school/">http://kyuk.ne.jp/gunma/school/</a>                   |
| 栃木朝鮮初中級学校    |   |
| 埼玉朝鮮幼稚園      | <a href="http://yutiwon.infossek.livedoor.com/">http://yutiwon.infossek.livedoor.com/</a>       |

### 北海道、東北地方

|             |   |
|-------------|---|
| 北海道朝鮮初中高級学校 | <a href="http://www.iacnet.ne.jp/k1961/">http://www.iacnet.ne.jp/k1961/</a>         |
| 東北朝鮮初中高級学校  | <a href="http://www.tos.ed.jp/">http://www.tos.ed.jp/</a>                           |
| 福島朝鮮初中級学校   | <a href="http://www.h2.dion.ne.jp/~f-chojun">http://www.h2.dion.ne.jp/~f-chojun</a> |

### 甲信越、北陸地方

|           |   |
|-----------|---|
| 長野朝鮮初中級学校 | <a href="http://academic3.pisale.or.jp/msari/">http://academic3.pisale.or.jp/msari/</a> |
| 北陸朝鮮初中級学校 | <a href="http://www.hks35.ac.jp">http://www.hks35.ac.jp</a>                             |
| 新潟朝鮮初中級学校 | <a href="http://www2.net-web.ne.jp/~tenahe/">http://www2.net-web.ne.jp/~tenahe/</a>     |

### 東海地方

|            |   |
|------------|---|
| 愛知朝鮮中高級学校  | <a href="http://www.a-chungo.ac.jp/gakkou/">http://www.a-chungo.ac.jp/gakkou/</a>                 |
| 東春朝鮮初中級学校  | <a href="http://tesun.kit.jp/">http://tesun.kit.jp/</a>   |
| 豊橋朝鮮初級学校   |   |
| 名古屋朝鮮初級学校  | <a href="http://www.ncc.ed.jp/">http://www.ncc.ed.jp/</a>   |
| 愛知朝鮮第七初級学校 |   |
| 岐阜朝鮮初中級学校  | <a href="http://www3.ocn.ne.jp/~gihuhak/">http://www3.ocn.ne.jp/~gihuhak/</a>                     |
| 静岡朝鮮初中級学校  | <a href="http://www.gocities.co.jp/NeverLand/3480/">http://www.gocities.co.jp/NeverLand/3480/</a> |
| 四日市朝鮮初中級学校 |   |

## 近畿地方

|            |   |
|------------|---|
| 大阪朝鮮高級学校   | <a href="http://www.koreaschool-osaka.jp/osakakhs/index.html">http://www.koreaschool-osaka.jp/osakakhs/index.html</a>         |
| 東大阪朝鮮中級学校  | <a href="http://www.tongjung.com/">http://www.tongjung.com/</a>   |
| 中大阪朝鮮初中級学校 | <a href="http://www.koreaschool-osaka.jp/nakaosaka/index.htm">http://www.koreaschool-osaka.jp/nakaosaka/index.htm</a>         |
| 北大阪朝鮮初中級学校 | <a href="http://www.kitaosaka-pukse.com/">http://www.kitaosaka-pukse.com/</a>   |
| 西大阪朝鮮初級学校  | <a href="http://www.nishiosakakorea.com/">http://www.nishiosakakorea.com/</a>   |
| 生野朝鮮初級学校   | <a href="http://www.koreaschool-osaka.jp/ikuno/index.htm">http://www.koreaschool-osaka.jp/ikuno/index.htm</a>                 |
| 東大阪朝鮮初級学校  | <a href="http://www.tongcho-corea.com/">http://www.tongcho-corea.com/</a>   |
| 大阪第四初級学校   | <a href="http://www.koreaschool-osaka.jp/dai4/index.htm">http://www.koreaschool-osaka.jp/dai4/index.htm</a>                   |
| 城北朝鮮初級学校   | <a href="http://www15.ocn.ne.jp/~jeuhoku/">http://www15.ocn.ne.jp/~jeuhoku/</a>   |
| 大阪播磨朝鮮初級学校 | <a href="http://www1.ocn.ne.jp/~o-fuiuu/MyPage/menu0.html">http://www1.ocn.ne.jp/~o-fuiuu/MyPage/menu0.html</a>               |
| 泉州朝鮮初級学校   | <a href="http://www.sensyu.net/">http://www.sensyu.net/</a>   |
| 神戸朝鮮高級学校   | <a href="http://www.koba-krhs.ac.jp/">http://www.koba-krhs.ac.jp/</a>   |
| 尼崎朝鮮初中級学校  |   |
| 西神戸朝鮮初級学校  |   |
| 神戸朝鮮中級学校   |   |
| 西播朝鮮初中級学校  | <a href="http://www.pure.ne.jp/~seibang/index.html">http://www.pure.ne.jp/~seibang/index.html</a>                             |
| 伊丹朝鮮初級学校   | <a href="http://www2.onk.3web.ne.jp/~tatakuri/">http://www2.onk.3web.ne.jp/~tatakuri/</a>                                     |
| 尼崎東朝鮮初級学校  | <a href="http://www11.ocn.ne.jp/~amadong/">http://www11.ocn.ne.jp/~amadong/</a>   |
| 明石朝鮮初級学校   |   |
| 京都朝鮮中高級学校  |   |
| 京都朝鮮第一初級学校 |   |
| 京都朝鮮第二初級学校 |   |
| 京都朝鮮第三初級学校 |   |
| 滋賀朝鮮初級学校   |   |
| 奈良朝鮮初級学校   |   |
| 和歌山朝鮮初中級学校 | <a href="http://www.itw.zaqq.ne.jp/efatd205/wakeyamaka/index.htm">http://www.itw.zaqq.ne.jp/efatd205/wakeyamaka/index.htm</a> |

## 中國、四國地方

|            |   |
|------------|---|
| 広島朝鮮初中高級学校 | <a href="http://www.hiroshima-corea.ed.jp/">http://www.hiroshima-corea.ed.jp/</a>           |
| 下関朝鮮初中級学校  | <a href="http://members.icom.home.ne.jp/korea-b">http://members.icom.home.ne.jp/korea-b</a> |
| 宇都朝鮮初中級学校  |   |
| 徳山朝鮮初中級学校  | <a href="http://www.ccsnet.ne.jp/~t-korea/">http://www.ccsnet.ne.jp/~t-korea/</a>           |
| 岡山朝鮮初中級学校  | <a href="http://www.kct.ne.jp/~ekmkorea/">http://www.kct.ne.jp/~ekmkorea/</a>               |
| 四國朝鮮初中級学校  | <a href="http://home.e-ebv.ne.jp/shikoku-korea/">http://home.e-ebv.ne.jp/shikoku-korea/</a> |

## 九州、沖縄地方

|           |   |
|-----------|---|
| 九州朝鮮中高級学校 | <a href="http://www.iade.sti.ne.jp/~f-chouku/">http://www.iade.sti.ne.jp/~f-chouku/</a> |
| 北九州朝鮮初級学校 |   |
| 福岡朝鮮初級学校  | <a href="http://academic3.plala.or.jp/fccs">http://academic3.plala.or.jp/fccs</a>       |
| 筑豊朝鮮初級学校  |   |
| 小倉朝鮮幼稚園   |   |

## 戦後史年表

### 1955(昭和30)年

1. 28 炭労・私鉄・電産など民間6単産、春季賃上げ共闘会議総決起大会開催(春闘の端緒)。4. 18 アジア・アフリカ会議開く(～4. 24 29か国参加、バンドン10原則を採択)。7. 26 総評第6回大会開催(高野実に代わり太田・岩井ライン)。7. 27 共産党、6全協(党内分裂收拾)。9. 10 日本、ガットに加盟。10. 13 社会党統一大会。委員長に鈴木茂三郎、書記長に浅沼稻次郎を選出。11. 15 自由民主党結成(保守合同なる)。

### 1956(昭和31)年

2. 14 ソ連共産党第20回大会、「平和共存」などの路線を採択(2. 24 フルシチョフ、スターリン批判演説)。7. 経済白書、「もはや戦後ではない」と規定。10. 23 ブダペストで学生・労働者の反政府暴動おこる(ハンガリー事件)。12. 18 国連総会、日本の国連加盟を可決。12. 23 石橋湛山内閣成立。

### 1957(昭和32)年

2. 23 石橋首相、病気のため内閣総辞職。2. 25 岸信介内閣成立。3. 25 欧州経済共同市場(EEC)条約調印。7. 6 カナダで、バグウォッシュ会議開く(～7. 10)。10. 4 ソ連、人工衛星スプートニク1号打ち上げに成功。

### 1958(昭和33)年

5. 16 テレビ受信契約数、100万突破。10. 28 日教組勤評闘争、群馬・高知で10割休暇。11. 5 警職法改悪反対闘争。11. 27 宮内庁長官、皇室会議での皇太子明仁と正田美智子の婚約を発表。

### 1959(昭和34)年

1. 1 キューバ革命(バチスタ政権を打倒)。4. 10 皇太子の結婚パレード、テレビ視聴者推定1500万。8. 10 最高裁、松川事件有罪の原判決を破棄、差戻し判決。8. 29 三井鉱山、労組に4580人整理の第2次案を提示。9. 30 フルシチョフ、北京訪問、毛沢東と会谈(共同声明発表されず、中ソの意見対立激化)。11. 11 通産省、対ドル地域輸入制限180品目に自由化決定(貿易自由化開始)。12. 11 三井鉱山、指名解雇通告(三池争議始まる)。

### 1960(昭和35)年

4. 18 ソウルで李承晩大統領退陣要求デモ。4. 27 李大統領、辞表提出。5. 28 ハワイに亡命(4月学生革命)。5. 19 政府・自民党、衆院安保特別委で質疑打ち切りを強行、警官隊導入。5. 20 未

明, 新安保条約を自民党単独で強行採決. 6.15 安保改定阻止第2次実行行使に全国で580万人参加(～6.16). 全学連主流派, 警官隊と衝突, 東大生樺美智子死亡. 6.19 新安保条約, 自然承認. 11.1 経済審議会, 国民所得倍増計画を答申(12.27 閣議, 同計画を決定). 12.20 南ベトナム解放民族戦線結成.

#### 1961(昭和36)年

4.19 米駐日大使ライシャワー着任. 5.16 韓国で軍事クーデター. 6.12 農業基本法公布. 8.13 東ドイツ, 〈ベルリンの壁〉を構築.

#### 1962(昭和37)年

7.17 経済企画庁, 経済白書「景気循環の変貌」を发表. 〈転期論争〉おこる. 9.29 閣僚審議会, 10.1からの貿易自由化率88%(230品目)と決定/富士ゼロックス, 国産電子複写機を完成(コピー時代の幕開け). 10.22 ケネディ米大統領, キューバにソ連ミサイル基地建設中と発表, キューバ海上封鎖を声明(キューバ危機). 11.9 高碕達之助, 廖承志と日中総合貿易覚書に調印(LT貿易開始).

#### 1963(昭和38)年

2.20 日本, ガット11条国への移行決定. 7.5 中ソ共産党会談, モスクワで開催(会談決裂, 中ソ対立激化). 9.12 最高裁, 松川事件再上告審で上告棄却の判決(被告全員の無罪確定). 11.22 ケネディ米大統領暗殺(46歳). 副大統領ジョンソン, 大統領に昇格.

#### 1964(昭和39)年

4.1 日本, IMF8条国に移行. 4.28 日本, 経済協力開発機構(OECD)に加盟. 5.16 国際金属労連日本協議会(IMF-JC)結成. 8.2 米国防総省, 米駆逐艦が北ベトナム魚雷艇に攻撃されたと発表(トンキン湾事件). 10.10 第18回東京オリンピック開催(～10.24). 11.17 公明党結成大会.

#### 1965(昭和40)年

2.7 米軍機, 北ベトナムのドンホイを爆撃(北爆開始). 6.12 家永三郎, 教科書検定を違憲とし, 国家賠償請求の民事訴訟をおこす. 6.22 日韓基本条約調印(12.18 ソウルで批准書交換, 発効). 8.19 佐藤首相, 首相として戦後初の沖縄訪問(「沖縄の祖国復帰が実現しない限り日本の戦後は終わらない」と発言). 11.19 閣議, 戦後初の赤字国債発行を決定.

1966(昭和41)年

3.31 日本の総人口、1億人を突破(法務省住民登録集計)。4.20 日産自動車・プリンス自工、合併契約調印(8.1 日産自動車として発足、自動車業界再編成始まる)。

1967(昭和42)年

2.11 初の建国記念の日。4.15 社共推薦の美濃部元吉、都知事当選。7.1 欧州共同体(EC)発足。8.3 公害対策基本法公布(企業の無過失責任は立法過程で削除)。8.8 東南アジア諸国連合(ASEAN)結成。9.1 四日市ぜんそく患者、石油コンビナート6社を相手に慰謝料請求訴訟(初の大気汚染公害訴訟)。10.20 吉田茂没(89歳)。10.31 戦後初の国葬)。11.2 那覇市で沖縄即時無条件返還要求県民大会開催(約10万人参加)。12.11 佐藤首相、衆院予算委で「核兵器をつくらず、もたず、もちこませず」の非核三原則を言明。

1968(昭和43)年

1.9 アラブ石油輸出国機構(OAPEC)結成。3.16 南ベトナムのソンミで米軍による大虐殺事件おこる(ソンミ事件)。5.13 パリの学生・労働者、ゼネスト決行(5.19 全仏に拡大、5月革命)。7.1 62か国、核拡散防止条約調印('70.2.3 日本も調印)。8.20 ソ連など5か国、チェコに侵入(チェコ事件)。10.23 明治百年記念式典開催。10.31 ジョンソン米大統領、北爆停止などを表明。11.10 琉球政府主席に革新統一候補の屋良朝苗当選。

1969(昭和44)年

1.18 機動隊、東大安田講堂の封鎖解除に出動。5.30 政府、新全国総合開発計画決定。6.10 南ベトナム解放民族戦線、南ベトナム臨時革命政府樹立を発表。7.20 米国のアポロ11号航空士、初の月面着陸に成功。10.15 全米にベトナム反戦運動広がる。

1970(昭和45)年

2.20 閣議、総合農政の基本方針(農業構造改善、兼業農家の協業化、米減産)を了承。3.14 大阪・千里で日本万国博覧会開催(～9.13 入場者6421万人余)。3.31 八幡・富士製鉄合併、新日本製鐵発足。5.15 農地法改正公布(農地移動制限の緩和)。6.23 日米安保条約自動延長。反安保統一行動、デモ、全国で77万人。7.7 共産党大会、宮本顕治委員長・不破哲三書記局長を選出。7.17 東京地裁、家永教科書第2次訴訟に対し、検定不合格処分取消しを判決(杉本判決)。7.24 文部省、控訴)。

#### 1971(昭和46)年

6.17 沖縄返還協定調印。7.9 キッシンジャー米大統領補佐官、秘密裏に訪中、周恩来と会談。'72年5月までに米大統領訪中で一致(7.15発表)。8.15 ニクソン米大統領、金とドルの交換一時停止、10%の輸入課徴金実施などのドル防衛策を発表(ドル・ショック)。8.16 東証ダウ株価大暴落。10.25 国連総会、中国招請・台湾追放を可決(中国の国連復帰決定)。

#### 1972(昭和47)年

2.19 軽井沢で連合赤軍5人、山荘に籠城(2.28 機動隊突入、銃撃戦後、逮捕。浅間山荘事件)。2.21 ニクソン米大統領、中国訪問(~2.27)。5.15 沖縄施政権返還(沖縄本土復帰)。6.11 田中角栄通産相、政権構想の柱として「日本列島改造論」を発表。6.17 米国、ウォーターゲート事件発覚。9.25 田中首相、訪中。9.29 日中両国首相、共同声明に調印、国交樹立。

#### 1973(昭和48)年

1.27 ベトナム和平協定調印。2.14 日本、変動相場制に移行。8.8 韓国元大統領候補金大中、KCIAにより東京のホテル・グラッドパレスから拉致(金大中事件)。10.6 第4次中東戦争勃発。10.17 ペルシャ湾岸6か国、原油公示価格21%上げを決定(12.23 '74.1.1から2倍上げと発表)/OPEC、石油減産措置を決定(石油戦略の発動)。10.25 メジャーとサウジアラビア、原油供給量10%削減を通告(第1次石油ショック)。11.16 閣議、石油緊急対策要綱を決定。

#### 1974(昭和49)年

4.11 春闘で空前の交通スト(600万人参加、国鉄初の全面運休、4.13 収拾)。7.7 第10回参院選(自民62、社会28、公明14、共産13、民社5。保革伯仲)。8.8 ニクソン米大統領、ウォーターゲート事件で辞任。12.1 椎名悦三郎自民党副総裁、三木武夫を新総裁とする裁定案を提示(12.4 三木、総裁に選出。12.9 三木内閣成立)。

#### 1975(昭和50)年

4.30 南ベトナム、サイゴン政府降伏(ベトナム民族解放戦争終結)。9.30 天皇・皇后、初の訪米(~10.14)。11.15 第1回先進国首脳会議(サミット)、仏・ランブイエ城で開催。

#### 1976(昭和51)年

2.4 米上院の公聴会でロッキード社の国外への巨額の工作資金

が問題化(日本へは丸紅などに1000万ドル、ロッキード事件の発端)。4.5 北京で群衆と軍警が衝突(第1次天安門事件)。7.2 ベトナム社会主義共和国樹立宣言(南北ベトナム統一)。7.27 東京地検、ロッキード事件で田中角栄前首相を逮捕。

#### 1977(昭和52)年

3.8 米で日本製カラーTVの輸入急増を問題化。8.3 原水禁統一世界大会開催(14年ぶりの原水協・原水禁の統一大会)。

#### 1978(昭和53)年

3.5 中国、新憲法採択(4つの近代化、台湾解放を明記)。5.23 初の国連軍縮特別総会開幕。10.17 閣議、元号法制化を決定。11.27 第17回日米安保協議委員会、「日米防衛協力のための指針」(ガイドライン)を決定。

#### 1979(昭和54)年

1.16 イランのパーレビ国王、亡命(王政崩壊)。2.11 イラン革命成る。1.17 国際石油資本、対日原油供給削減を通告(第2次石油ショック)。3.28 米、スリーマイル島原子力発電所で放射能漏れ事故発生。6.18 米ソ、SALT II条約に調印。11.4 イランで学生が米大使館を占拠、前国王の引渡しを要求(イラン米大使館人質事件)。12.27 ソ連、アフガニスタンに侵攻。

#### 1980(昭和55)年

5.4 ユーゴのチトー大統領没(87歳)。5.18 全斗煥ら韓国軍部、金大中らを逮捕、光州市で反政府デモ激化。5.21 デモ隊、全市制圧。5.27 戒厳軍が制圧、死者2000人といわれた(光州事件)。6.12 大平首相、入院先で死去(70歳)。6.22 初のダブル選挙。9.9 イラン・イラク本格交戦(9.22 全面戦争へ)。

#### 1981(昭和56)年

3.2 中国残留日本人孤児、初の正式来日(~3.16)。5.17 ライシャワー元駐日大使、核積載の米艦船が日本寄港と発言。10.西独、ボンで中距離核ミサイル配備反対のデモ、25~30万人参加(この年欧州で大規模な反核デモ広がる)。

#### 1982(昭和57)年

3.21 「平和のためのヒロシマ行動」開催。国連軍縮特別総会に向けた行動アピール、19万人参加。4.8 最高裁、「第2次家永訴訟」の2審判決を破棄、東京高裁に差戻し判決。7.26 中国、日本の教科書検定による歴史記述に抗議、訂正を要望(南北朝鮮・台湾・マレーシアなども抗議)。11.27 第1次中曽根康弘内

閣成立。

### 1983(昭和58)年

9.1 ソ連、領空内侵入の大韓航空機を撃墜、269人全員死亡(日本人28人)。10.15 西独で「反核行動週間」始まる。10.22 30万人の(人間の鎖)が米軍基地包囲。世界各地で反核運動高まる。

### 1984(昭和59)年

1.5 中曾根首相、現職首相として戦後初の靖国新春参拝。9.6 全斗煥韓国大統領来日(～9.8)。宮中晩餐会で天皇、「両国の間に不幸な過去が存したことは誠に遺憾」と表明。11.1 第2次中曾根改造内閣成立/日銀15年ぶりに新札発行。一万円札(福沢諭吉)、5000円札(新渡戸稲造)、1000円札(夏目漱石)の3種。

### 1985(昭和60)年

3.27 田中元首相、脳梗塞で入院。3. ソ連共産党書記長にゴルバチョフ就任。7.27 中曾根首相、自民党の軽井沢セミナーで「戦後政治の総決算」を主張。8.12 羽田発のジャンボ=ジェット機ボーイング747 SR、群馬県御巢鷹山の山中に墜落・炎上。520人死亡。単独機としては世界最大の飛行機事故。9.22 米・日・西独・英・仏5か国蔵相・中央銀行総裁会議。ドル高修正のための為替市場への協調介入強化で合意(G5, プラザ合意)。円高進行の契機になる。10.18 中曾根首相、靖国神社の秋の例大祭参拝を見送り。11.19 レーガン・ゴルバチョフ、米ソ首脳会談(～11.20 ジェネーブ)。

### 1986(昭和61)年

2.14 フィリピン大統領選、マルコス当選するが、不正選挙だとの声高まる。2.25 マルコス国外脱出(フィリピン革命)。4.1 男女雇用機会均等法施行。4.26 ソ連のチェルノブイリ原子力発電所で大事故。7.6 衆院・参院ダブル選挙で自民大勝。7.22 第3次中曾根内閣成立。9.22 中曾根首相、「アメリカには黒人などがあるので知識水準が低い」と発言。米国内で強い反発(9.27 首相陳謝)。11.21 伊豆大島の三原山噴火、全島民約1万人が島外へ避難。12.30 87年度政府予算案決定、防衛費がGNPの1% 枠突破。

### 1987(昭和62)年

2.19 5か国蔵相・中央銀行総裁会議(G5)開催。2.22 G7開催。為替レートの安定化で合意(ルーブル合意)。4.1 国鉄分割・民営化。JRグループ11法人と国鉄清算事業団が発足。10.19 ニ

ユーロ株式市場で株価大暴落。下落率 22.6%で、'29 年恐慌を上回る(暗黒の月曜日)。11. 20 全日本民間労組連合会(連合)が発足。55 単産、約 540 万人参加。

#### 1988(昭和 63)年

5. 29 レーガン・ゴルバチョフ、米ソ首脳会談。6. 1 中距離核戦力(INF)全廃条約の批准書交換、両国のミサイル廃棄など始まる。6. 18 リクルート疑惑事件発覚。6. 19 貿易摩擦の焦点となっていた牛肉・オレンジの輸入問題、佐藤隆農水相とチャイター米通商代表の閣僚交渉で決着(3年後の自由化を約束)。8. 3 米上院、包括貿易法案可決(保護主義的条項・対日強硬条項を含む)。9. 19 裕仁天皇、吹上御所で吐血、以後重体、自肅ムードつづく。平癒祈願の記帳者、全国で 300 万人に達す。12. 24 消費税法案、参議院で成立。

#### 1989(昭和 64・平成元)年

1. 7 裕仁天皇没(87 歳)。皇太子明仁、皇位継承、平成と改元。  
4. 1 消費税スタート、税率 3%。6. 3 中国当局、(反革命暴乱)発生と断定。戒厳部隊、深夜に北京市街中心部に進出・発砲。6. 4 未明に天安門広場を占拠中の学生・市民を装甲車・戦車で制圧(第 2 次天安門事件)。9. 27 ソニー、米映画会社コロビアの買収を発表。11. 9 (ベルリンの壁)撤去始まる。11. 21 日本労働組合総連合会(連合)発足(798 万人、総評解散)。

#### 1990(平成 2)年

1. 18 本島等長崎市長、市庁舎前で狙撃され胸部貫通の重傷。3. 27 大蔵省、地価高騰への対策として金融機関に不動産融資の総量規制を通告。8. 2 イラク軍、クウェートに侵攻。8. 4 ブッシュ米大統領、海部首相にイラク制裁への同調を要請。10. 1 東証株価、2 万円を割る。'89 年 12 月の史上最高値から 9 か月で約 50%、時価総額 590 兆円(世界一)から 319 兆円に減少(バブル経済崩壊)。10. 2 東西両ドイツ、国家統一。12. 25 中国共産党 13 期 7 中全会、鄧小平の改革・開放路線を確認。

#### 1991(平成 3)年

4. 24 閣議、自衛隊のペルシャ湾への掃海艇派遣を決定(初の自衛隊海外派遣)。8. 24 ゴルバチョフ・ソ連共産党書記長辞任。  
12. 11 欧州共同体(EC)首脳会議(マーストリヒト)。'99 年までに単一通貨統合で合意(欧州連合(EU)創設)。12. 26 ソ連最高会議、ソ連邦消滅を宣言。

#### 1992(平成4)年

6.15 PKO協力法, 衆議院本会議で可決. 9.17 自衛隊PKO派遣部隊第1陣, カンボジアに向けて呉港出発. 10.23 天皇・皇后, 中国初訪問. 晩餐会で「わが国が中国国民に多大の苦難を与えたことは私の深く悲しみとするところ」と述べる. 11.3 民主党クリントン, 米大統領に当選.

#### 1993(平成5)年

7.18 第40回総選挙(自民過半数割れ, 社会減少, 新生・日本新党など躍進. 自社両党主導の(55年体制崩壊)). 8.4 河野官房長官, 朝鮮半島出身「従軍慰安婦」への「強制」を認め謝罪. 8.9 細川護熙・非自民8党派連立内閣成立. 自民38年ぶりに政権離脱. 8.17 円高, 東京外為市場1ドル=100円台に突入(戦後最高, 100円40銭). 11.19 環境基本法公布. 12.15 ガットのウルグアイ・ラウンドの合意により, 米の部分市場開放決定.

#### 1994(平成6)年

1.24 郵便料金値上げ. 封書80円, はがき50円. 6.22 東京外為市場, 初めて1ドル=100円を突破. 6.28 河野自民党総裁, 村山社会党委員長と会談. 6.30 村山富市内閣成立. 7.20 村山首相, 衆院本会議の答弁で自衛隊の合憲を明言, 日米安保体制の堅持.

#### 1995(平成7)年

1.17 阪神淡路大震災. M7.2(観測史上初)の直下型地震, 戦後最大の惨事となる. 3.20 霞ヶ関を通る地下鉄内に猛毒ガス・サリンが撒布され, 通勤客・駅員など死者11人, 約5500人の重軽傷者(地下鉄サリン事件). 3.22 警視庁など捜査当局, 山梨県上九一色村にあるオウム真理教の教団施設など25か所を一斉捜査. 大量の化学薬品を押収. 全国で逮捕者400人以上, 起訴185人. 4.19 東京外為市場, 1ドル=79.75円の戦後最高値. 9.4 沖縄で米海兵隊員3人による女子小学生の拉致・暴行事件発生. 9.26 大和銀行ニューヨーク支店, 米国債投資で11億ドルの損失発生.

#### 1996(平成8)年

1.11 橋本龍太郎内閣成立. 2年5か月ぶりに自民党からの首相. 2.9 政府, 住専処理法案を国会に提出. 4.17 橋本首相・クリントン米大統領, 極東有事に対し日米安保体制の広域化の安保共同宣言(安保再定義). 9.8 沖縄県民投票. 投票率59.53%. 米軍基地の整理・縮小と日米地位協定の見直しに賛成89.09%. 9.28

民主党結成大会，代表に鳩山由紀夫・菅直人を選出，10.20 第41回総選挙(初の小選挙区比例代表並立制，投票率59.65%で戦後最低，自民239，新進156，民主52，共産26，社民15，さきがけ2)。

#### 1997(平成9)年

4.1 消費税5%へ引上げ，8.29 最高裁，第3次家永訴訟に判決，検定制度は合憲，4か所の記述削除は違憲とし国に40万円の賠償命令，32年にわたる家永訴訟終わる，9.23 日米政府，有事を想定した日米防衛指針(新ガイドライン)を決定，11.17 北海道拓殖銀行，初の都市銀行経営破綻，日銀，特別融資(無担保無制限)実施，公表不良債権9349億円，11.24 山一証券，大蔵省に自主廃業を申請，負債総額3兆5100億円，金融システム不安拡大，12.1 地球温暖化防止京都会議，12.11 温室効果ガス削減目標を盛り込んだ(京都議定書)採択，12.7 介護保険法公布(2000.4.1施行)，12.18 韓国大統領選挙，金大中が当選，韓国史上初の与野党政権交代。

#### 1998(平成10)年

4.27 新・民主党結成大会，4.28 閣議，新ガイドラインに伴う周辺事態法案など関連3法案を決定，6.22 金融監督庁発足，10.7 金大中韓国大統領来日，10.23 日本長期信用銀行，債務超過で金融再生法に基づく一時国有化を申請，46年の歴史終わる，11.15 沖縄県知事選，稲嶺恵一(自民系)が大田昌秀(革新)の3選を阻む，11.25 江沢民中国主席来日(初の元首の公式訪問)。

#### 1999(平成11)年

5.24 周辺事態法等の新ガイドライン3法成立，日米安保体制新段階へ，6.23 男女共同参画社会基本法公布，8.9 国旗・国歌法成立，〈日の丸〉〈君が代〉法制化，8.13 改正外国人登録法成立，在日外国人指紋押捺義務を全廃，8.20 第一勧業・富士・日本興業銀行，2002年をめどに統合決定と発表，総資産140兆円は世界最大(みずほフィナンシャルグループ)，9.30 茨城県東海村の民間核燃料加工会社JCOの施設で臨界事故，作業員ら100人が被曝，のち社員2名死亡。

#### 2000(平成12)年

4.1 介護保険制度スタート，4.6 3月末の携帯電話台数，5000万台を超え固定電話を抜く，6.13 金大中韓国大統領，北朝鮮訪問，翌6.14 南北共同宣言に両首脳が署名，7.1 金融庁発足。

## あとがき

日本で在日の民族教育が始まってから六十周年を迎えました。

約百年といわれる在日の歴史の中で民族教育は一世、二世が様々な苦難を乗り越えて築き上げてきたものです。民族の固有文化を大切に継承し発展させてきた民族教育は、在日の思いだけに留まることなく、日本社会の国際化において欠かすことのできないものであります。

連続フォーラム「チヨゴリときもの」では、様々な視点で民族教育を取り上げてきましたが、今回は、日本の学校で教える教師、民族学校や日本の学校で学ぶ本人とその親、そして留学経験などから、外から在日社会をみた方々にお話を聞きました。

その思いや意見は、民族教育の意義や日本の学校現場などについて、今一度改めて振り返ってみるよい機会につながったことと思います。

十四回目のフォーラムを終え、コーディネーターを初め、パネリストの皆さんに心からお礼を申し上げます。

(財)京都市国際交流協会

事業課

チヨゴリ  
鄭昌根・岡村敦子



---

アジアの風文庫 23  
「チョゴリときもの」  
在日の教育と進路

2008年2月 第1刷発行  
編集・発行 財団法人 京都市国際交流協会  
〒606-8536 京都市左京区粟田口鳥居町2の1  
TEL. 075-752-3010  
印刷 株式会社 アルファ・プリント社

---



